

平成22年度

大学院生による授業評価結果報告書  
(後期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
6	広領域コア科目	30042100	子どもの規範意識の現状と課題	伴 恒信、曾根 直人
7	広領域コア科目	30046000	教師のための声とからだことば	余郷 裕次、頃安 利秀、綿引 勝美
8	広領域コア科目	30047000	学校危機管理研究	阪根 健二
9	広領域コア科目	30048000	現代の諸課題と学校教育Ⅱ(前半)	小西 正雄、村川 雅弘、茂木 俊伸
10	広領域コア科目	30048000	現代の諸課題と学校教育Ⅱ	小西 正雄、村川 雅弘、茂木 俊伸
11	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井 一暁
12	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	櫻田 美雄
13	幼年発達支援	30523000	幼年期教育学演習	橋川 喜美代
14	現代教育課題総合	30631100	総合学習総論	小西 正雄、谷村 千絵
15	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	近森 憲助、太田 直也、谷村 千絵
16	現代教育課題総合	30635000	総合学習カリキュラム開発特論	村川 雅弘
17	現代教育課題総合	30644100	情報教育特論Ⅰ(教育情報人間論)	谷村 千絵
18	現代教育課題総合	30648100	環境教育特論Ⅰ(教材開発)	近森 憲助、西村 宏
19	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村 千絵
20	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	佐藤 亨
21	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西 真記子
22	臨床心理士養成	30435000	臨床心理基礎実習	粟飯原 良造、井上 和臣、葛西 真記子、 今田 雄三、中津 郁子、吉井 健治、久米 禎子、曾川 京子
23	臨床心理士養成	30436000	臨床心理実習	粟飯原 良造、井上 和臣、葛西 真記子、 山下 一夫、今田 雄三、中津 郁子、吉井 健治、久米 禎子、曾川 京子
24	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津 郁子、久米 禎子
25	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田 雄三
26	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	田中 秀紀
27	特別支援教育	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上 とも子
28	特別支援教育	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上 とも子
29	特別支援教育	31162000	特別支援教育課程特論演習	八幡 ゆかり
30	特別支援教育	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷 博俊

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
31	特別支援教育	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原 光恵
32	特別支援教育	31167000	特別支援教育学習支援演習	島田 恭仁
33	特別支援教育	31169000	発達障害児支援医学演習	津田 芳見
34	特別支援教育	31170000	発達障害児神経学演習	田中 淳一
35	言語系	32139000	日本事情・日本文化	古賀 美千留
36	言語系	32142000	日本語Ⅲ	永田 良太
37	言語系	32143000	日本語Ⅳ	妹尾 春子
38	言語系	32145000	日本古典語演習	原 卓志
39	言語系	32147000	現代日本語演習	茂木 俊伸
40	言語系	32149000	日本文学演習Ⅰ	野口 哲也
41	言語系	32157000	日本語教育学演習	小野 由美子
42	言語系	32160000	日本語文法演習	永田 良太
43	言語系	32162000	日本語語彙論	永田 良太
44	言語系	32174000	国語科教育学演習	村井 万里子
45	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田 伸司
46	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷 裕次
47	言語系	32184000	日本語教育法演習	小野 由美子
48	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ(言語文化研究)	杉浦 裕子
49	言語系	32221000	学習英文法演習Ⅰ	眞野 美穂
50	言語系	32222000	学習英文法演習Ⅱ	藪下 克彦
51	言語系	32279000	英語科教育演習Ⅰ	伊東 治己
52	言語系	32280000	英語科教育演習Ⅱ	山森 直人
53	社会系	33139000	地理学実習	木原 克司、立岡 裕士
54	社会系	33158200	歴史学演習Ⅰ	大石 雅章
55	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田 哲

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
56	社会系	33158600	歴史学演習Ⅲ	原田 昌博
57	社会系	33158900	地理学研究Ⅱ	立岡 裕士
58	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生 多聞
59	社会系	33173000	社会科授業研究	梅津 正美
60	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	井上 奈穂
61	社会系	33180000	社会科教材開発演習Ⅲ(公民領域)	井上 奈穂
62	自然系	34127000	幾何学研究	松岡 隆
63	自然系	34128000	幾何学演習	松岡 隆
64	自然系	34129000	解析学研究	成川 公昭
65	自然系	34130000	解析学演習	成川 公昭
66	自然系	34173000	数学科教育学演習	齋藤 昇、秋田 美代
67	自然系	34174000	数学科授業研究	佐伯 昭彦
68	自然系	34176000	数学科教材開発演習	齋藤 昇、秋田 美代
69	自然系	34214000	原子物理学特論	松川 徳雄
70	自然系	34224000	細胞生物学特論	米澤 義彦、佐藤 勝幸
71	自然系	34232000	地学実験法特論	小澤 大成、村田 守、西村 宏、香西 武
72	自然系	34273000	理科教材開発研究Ⅰ(物質とエネルギー)	本田 亮、今倉 康宏
73	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安 利秀
74	芸術系	35114000	歌唱表現演習	草下 實
75	芸術系	35122000	ソルフェージュ研究	山田 啓明
76	芸術系	35127000	室内楽(器楽)	森 正、山根 秀憲
77	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡 貴史
78	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木 久人
79	芸術系	35213000	平面造形演習	西田 威汎
80	芸術系	35218000	デザイン制作研究	松島 正矩

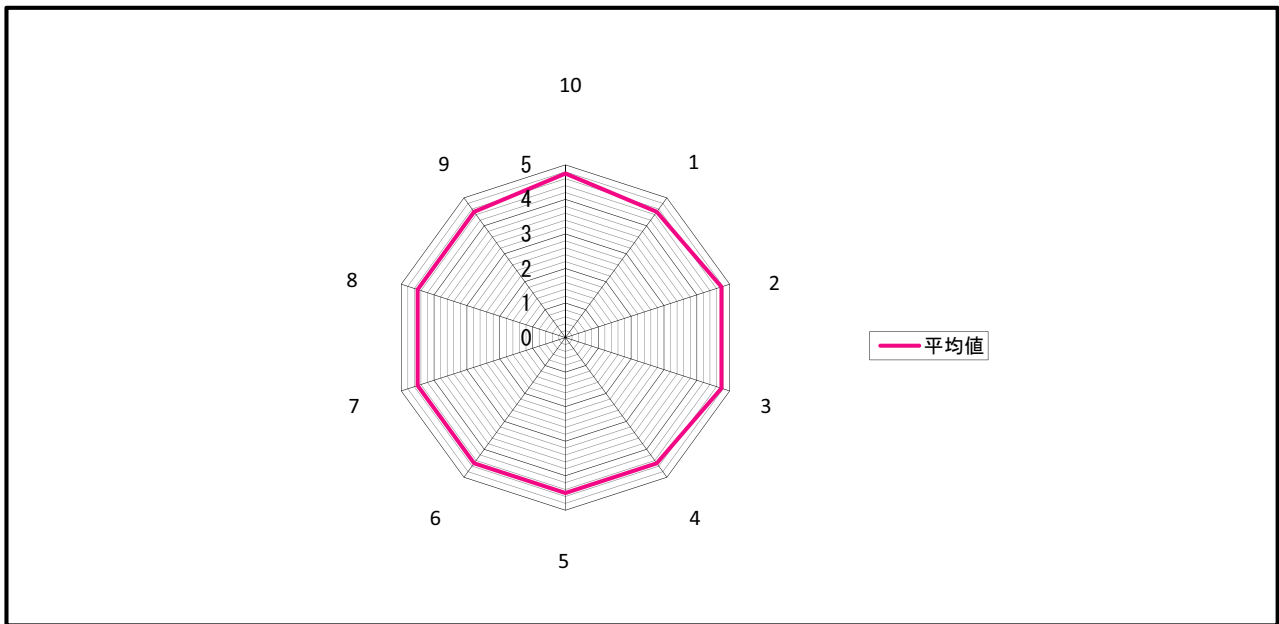
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
81	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤 隆
82	芸術系	35224000	総合造形研究	内藤 隆、野崎 窮
83	芸術系	35228000	芸術学演習	小川 勝
84	生活・健康系	36120000	体育・スポーツ心理学演習	賀川 昌明
85	生活・健康系	36126000	スポーツ・トレーニング演習	南 隆尚
86	生活・健康系	36132000	健康科学演習	廣瀬 政雄
87	生活・健康系	36212000	情報技術研究	菊地 章
88	生活・健康系	36217100	エネルギー工学研究	畑中 伸夫
89	生活・健康系	36218100	エネルギー工学演習	畑中 伸夫
90	生活・健康系	36225000	画像情報処理研究	伊藤 陽介
91	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	林 秀彦
92	生活・健康系	36228000	デジタル制御研究	菊地 章
93	生活・健康系	36229000	情報応用演習	曾根 直人
94	生活・健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本 賢治
95	生活・健康系	36276000	情報科教育研究Ⅱ	森山 潤
96	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井 典代
97	生活・健康系	36318000	食生活学演習	前田 英雄、西川 和孝
98	生活・健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水 多佳子
99	生活・健康系	36376000	家庭科授業・教材開発研究	前田 英雄、福井 典代、渡邊 廣二
100	国際教育	37115000	国際教育協力特論Ⅱ(IT教育)	小澤 大成、石村 雅雄
101	国際教育	37122000	国際教育IT活用演習	小澤 大成
102	国際教育	37175000	国際教育教材開発演習Ⅰ	小澤 大成、服部 勝憲

# 結果報告書

授業科目名 子どもの規範意識の現状と課題  
 評価実施日 平成23年3月2日  
 担当教員名 伴 恒信, 曾根 直人

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3		1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3		1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

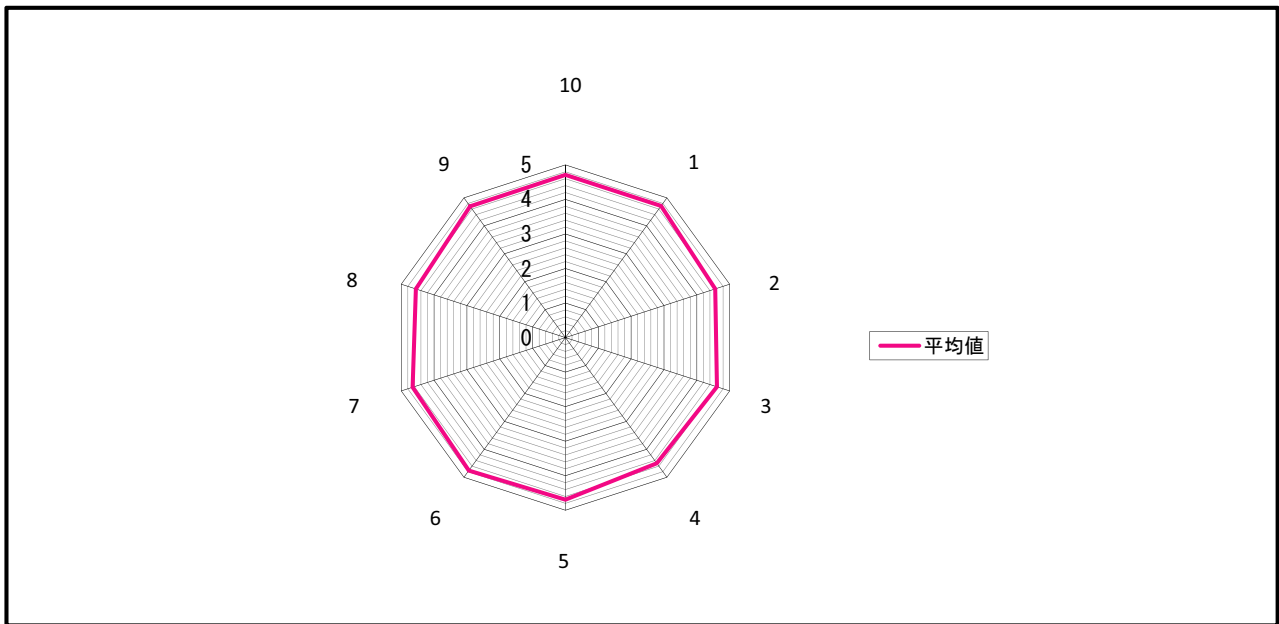
伴担当の本講義においては、2つのグループに分けてKJ法を活用しての討議と質的データのまとめを行った。一方のグループが一週早く作業を終了したため、最後の授業では残りのグループだけが授業評価を行った。一グループだけの評価に終わったとはいえ、概して本授業の評価は高かった。良かった点としての感想には、「グループに分かれてのKJ法を使った授業はとても楽しく、達成感が持てました。」「普段考えられる機会が少ないので考えられてよかった」の感想が寄せられた。

曾根担当の講義(6コマ分)についての感想は記入されていなかった。講義ではグループでの討議を行い、マインドマップをつかって各意見を整理するなど学生が興味を持てるように工夫している。

# 結果報告書

授業科目名 教師のための声とからだとことば  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 余郷 裕次, 頃安 利秀, 綿引 勝美      回答者数 76 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	56	18	2			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	50	17	8		1	4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	52	18	4	1		4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	46	22	8			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	56	15	4		1	4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	59	14	2		1	4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	52	20	3		1	4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	46	23	5		2	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	55	19	2			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	56	18	2			4.7



## 教員のコメント

総合評価が4.7と高得点であるだけでなく、この授業は、全体にバランス良く高得点をとっている。これは、3人の教員による5回ずつのオムニバス形式の授業としては、大変成功していることを示す数値であると考え。授業が成功している要因については、受講生自身がそのコメントの中で明らかにしている。

この授業で良かったと思われる点について、「先生が3人いっしょやり、交代だったので、次回は何をやるのだろうと、毎回新鮮な気持ちで授業に取り組めた点」「授業を受ける側も、それぞれの専門以外の集まりで、多様な考え方や、年齢層も異なり、いろいろな刺激を受けることができ、大変良かったです。」「発声のし方・からだの感覚や筋肉の感覚を磨く・絵本の読み聞かせ＝教師のためにもなるし、臨床心理士をめざす人のためにもなった。」「とても実践的で身につくようくり返し教えてもらえた。」「教師になったとき役立ちそう。」「というコメントが見られた。80名を越える受講生の授業としては、多様で多数の受講生に満足感を与え得たと考え。

次に、改善すべき点としては、「これは何のために体を動かしているというのを言ってほしかった」というものがあった。実技を中心とした身体論的な授業内容の難しさを感じるコメントである。配慮していきたい。

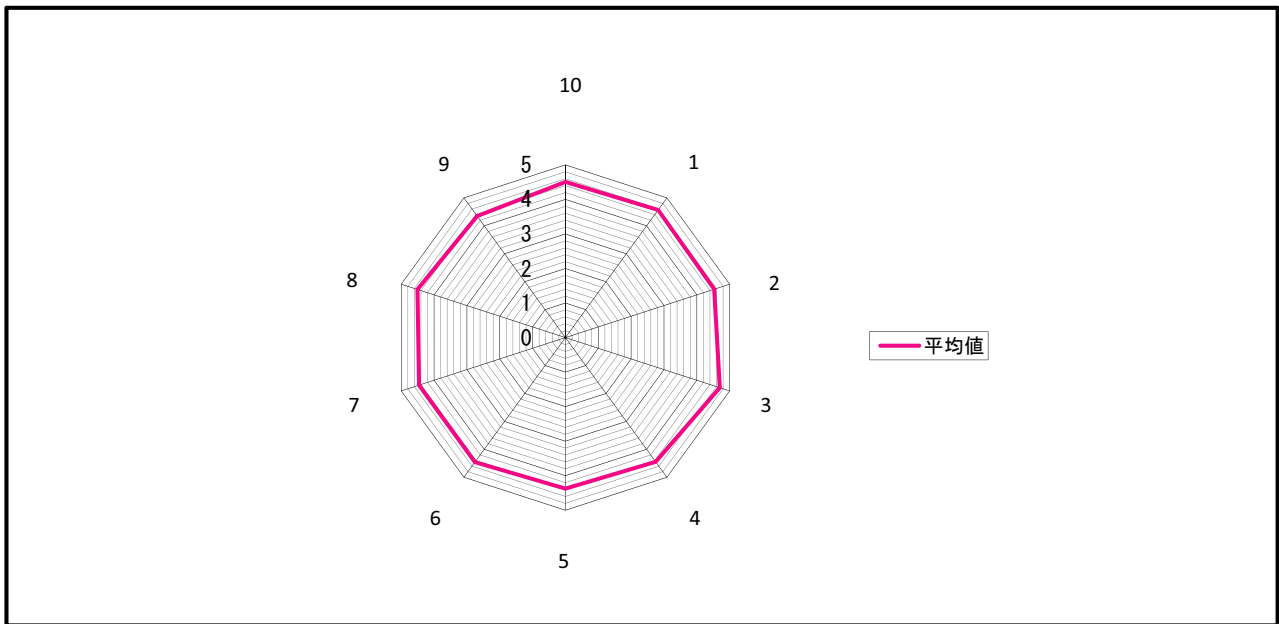
また、その他の感想として「鳴教に来てとても良かったと思えた時間でした。心にとっても強く残った講義でした。ありがとうございました。」というコメントがあった。今後も受講生の期待に応え、修得する満足感が得られるよう努力していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 学校危機管理研究  
 評価実施日 平成23年2月23日  
 担当教員名 阪根 健二

回答者数 83 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	51	28	4			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	54	20	8	1		4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	60	21	2			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	45	30	8			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	42	30	11			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	53	17	11	2		4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	52	20	9	1	1	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	51	24	7	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	43	28	11		1	4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	55	17	9	2		4.5



## 教員のコメント

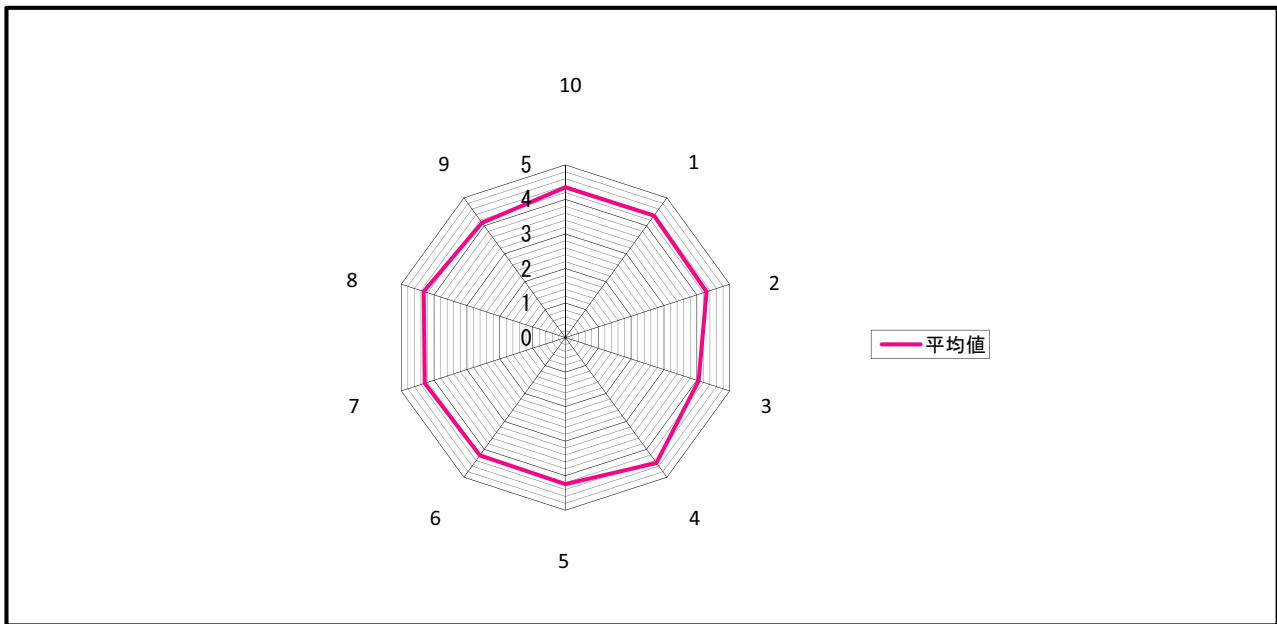
この授業のポイントは、実際の学校における危機に対する対応やその背景などの分析と評価であるため、教師の実践力の修得に役立つ内容である。教育大学であるという視点から、コアの一つとして実施している。特に、不審者対策、生徒指導、防災という今日的課題については、それぞれの対応法を検討し、もし、自分がその場で対応するとすればどうするかという実務的な面まで論究した点が評価に表れている。なお、専攻の関係上、学校教育を志望しない学生が半数を超えているため、心理職勤務の場合を想定するなど授業の在り方に工夫を重ねた。また、これまで実際に学校現場を混乱させた事例を扱うことにこだわり、その時点での対応をそのまま示しているため、緊迫感をもって授業に取り組めたのではないかと思われる。ただ、一部の学生において、実践的な授業を好まない傾向(院生という意識から)もあるが、ここは今後も崩さず進めていきたい。ただ、この点は課題でもある。



# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育Ⅱ  
 評価実施日 平成22年12月14日  
 担当教員名 小西 正雄, 村川 雅弘, 茂木 俊伸      回答者数 74 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	41	21	10	2		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	37	24	11	2		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	30	24	14	6		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	49	14	10		1	4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	35	24	13	2		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	39	18	11	6		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	39	21	10	4		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	41	20	6	6		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	30	8	4	2	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	41	22	8	2	1	4.4



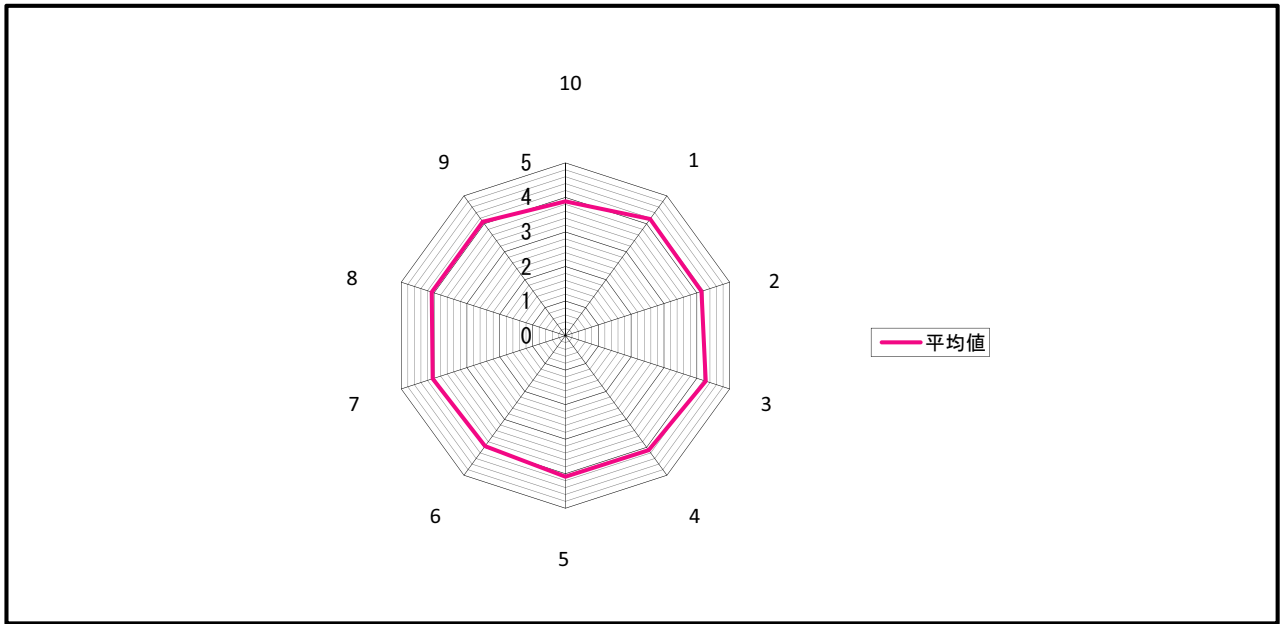
## 教員のコメント

おおむね良好な結果であると認識している。「実践力につながる内容である」という項目について若干肯定の率が低いですが、これは、この講義がそもそも実践力の「直接的な養成」をめざしているものではないとの趣旨で展開されているので、当然といえば当然の結果である。「成績評価の方法」については肯定する率が高かったが、これは前期の「現代の諸課題と学校教育Ⅰ」ほどではないにせよ、評定の算出法について詳しく説明した効果であろうと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育Ⅱ  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 小西 正雄, 村川 雅弘, 茂木 俊伸      回答者数 70 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	27	29	13	1		4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	22	12	2	2	4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	33	26	8	3		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	31	20	15	3	1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	29	26	10	2	3	4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	28	21	12	8	1	4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	29	20	16	5		4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	30	22	11	7		4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	31	10	2	2	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	26	22	14	4	4	3.9



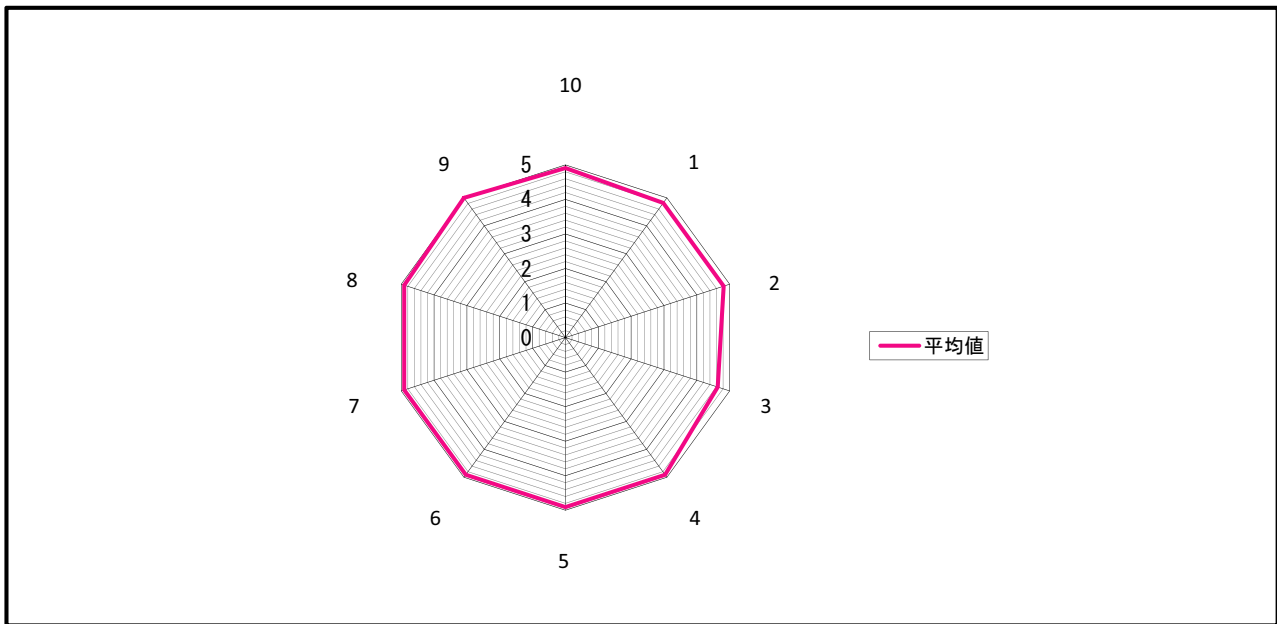
## 教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 近代教育文化史演習  
 評価実施日 平成23年2月16日  
 担当教員名 梶井 一暁

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



## 教員のコメント

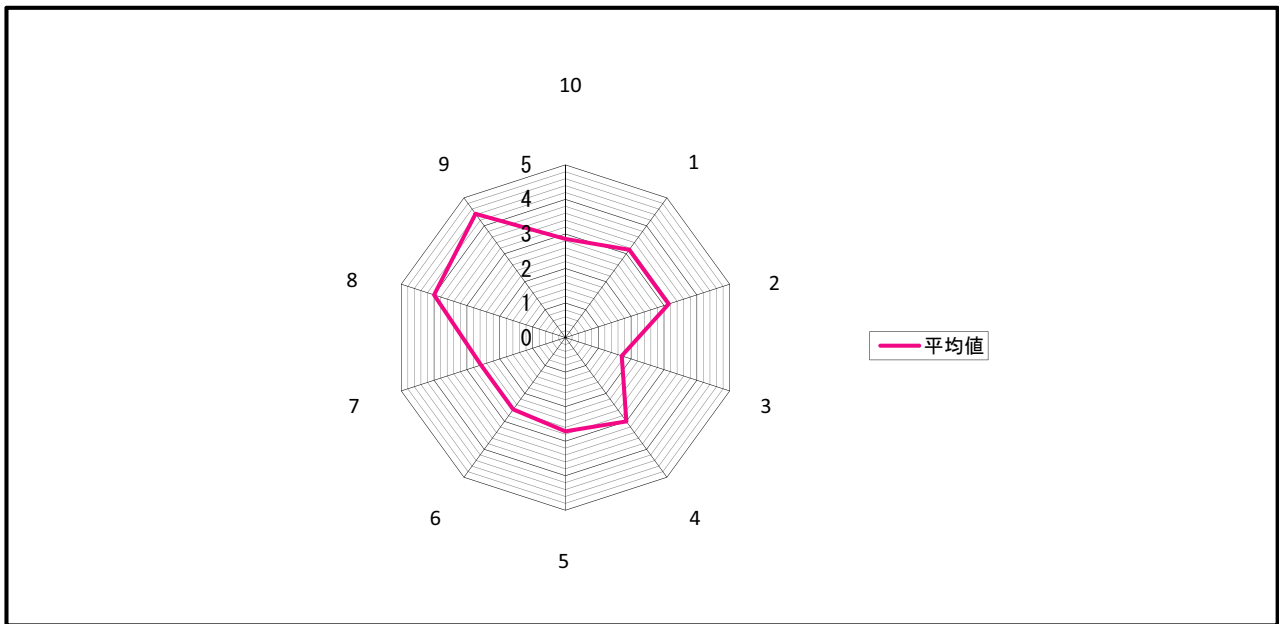
総合的に積極的な評価を得られたと理解する。受講者数がそれほど多くないので、評価にあたって幾分かの遠慮もあったのではないかと想像する。とはいえ、少人数で授業を展開できる環境のなか、演習形式で発表や討論を中心に授業を進行できたことが、受講者の満足度を高めたのだと考える。この評価結果を得て、授業者がもっともうれしいのは、項目9「授業に主体的・積極的に取り組んだ」において高い評価が下されたことである。これまで、受講者は授業には熱心に参加し、まじめに講義は聞くものの、どう受講者から主体的・参加的な学びをひきだすかは大きな課題であった。今年度から教育史跡のフィールド調査にもとづくグループ発表を取り入れたことが、昨年度からのもっとも大きな変更点である。この変更が改善効果につながったかどうかは即断できないが、今後も授業改善を継続していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期福祉演習  
 評価実施日 平成22年12月23日  
 担当教員名 樫田 美雄

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1	4		1	3.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		4	1	1	1	3.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			1	3	3	1.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	4		1	3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1		2	4		2.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		1	3	2	1	2.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2	2	1	2	2.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1		1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2	3	1	1	2.9



## 教員のコメント

やりがいのある、けれども、同時に、反省すべき点も多々あった授業であった。院生の期待とのずれ違いは、予想できたので、折に触れ、メタ的な課題(大学院は指導者養成機関なので、そこでは、研究をしなければならないこと。研究をする方向に態度設定できていない場合には、その部分から変更しなければ、ならないこと。人間行動の詳細はいまだ探求されつつけているのであって、その感覚をもたなければ、幼年期の課題もかんがえることができないこと。現代社会全体が新自由主義的編成になりつつあるなかで、発達障害児の扱われ方の変化が位置づけられるべきこと。これらのことを考える意欲がなければ、授業を受講するものとしての適格性を欠くこと)を与えたが、その意義がなかなか伝わらなかったようだ。

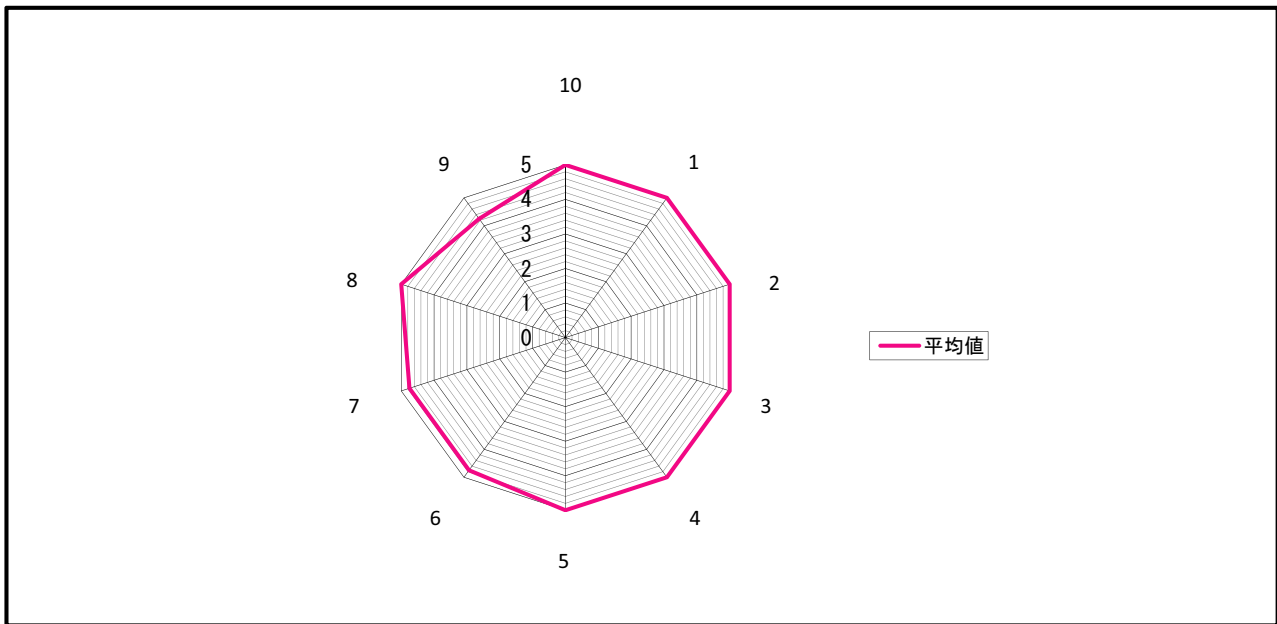
ただ、評価が大きくばらついていることは、嬉しいことだった。そのように、評価の難しい授業をこそ、目指しているからだ。安定的な高い評価をえるよりも、学生に考えるインパクトをあたえること、それが授業の目的だったからだ。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期教育学演習  
 評価実施日 平成23年3月3日  
 担当教員名 橋川喜美代

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

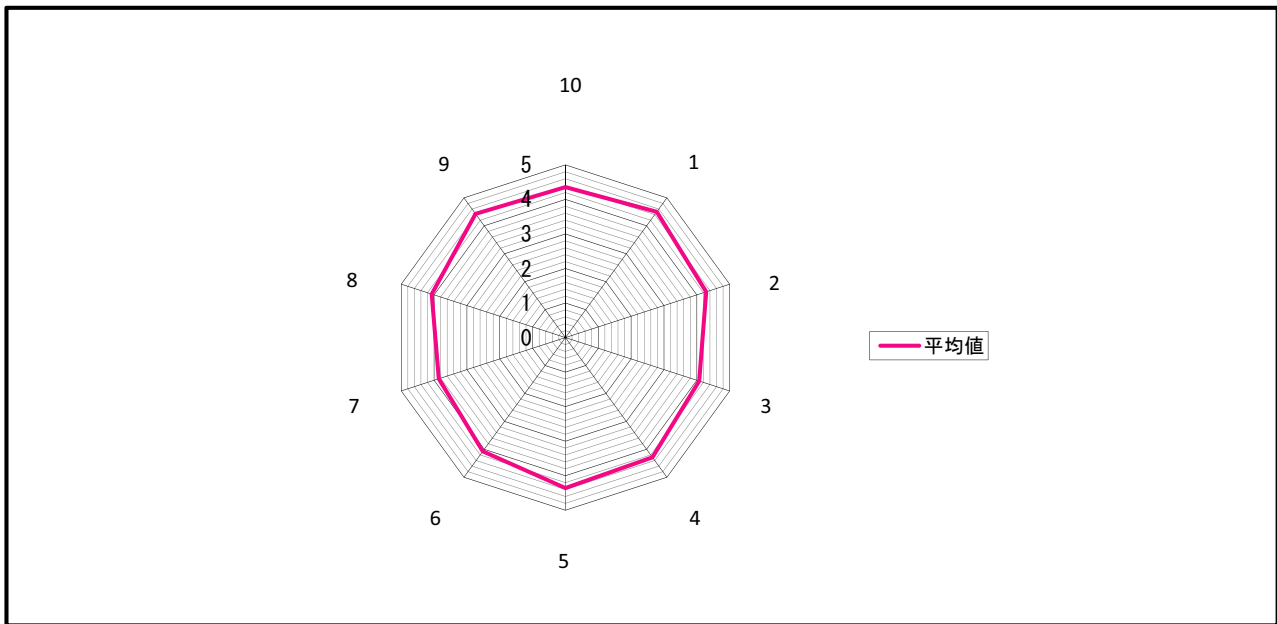
本演習では履修者の人数が少ないことや、自らの研究課題に関わる発表などを含めていることから、履修学生は概ね満足しているようである。特に、履修学生が本演習のよかった点として上げているは、「他の学生との討論がしやすく、わかりやすかった」「自分にとって新しい発見があった」「理論と実践を一緒にできて大変ためになった」「現在問題になっている事柄をちょうどよい時に学習することができた」「知識を深めることができた」「子ども手当や子ども園など、その時の保育の問題について気になっている事柄が、講義を通して考えることができて、とても身になった」などである。また、「学校見学など実際の授業の様子から、演習で学んだ内容を定着させるのに役立った」「改めて保育は面白いと思う反面、課題が沢山あると感じるようになった」という感想も聞かれた。とはいえ、履修学生の授業への取り組みについてはなお改善の余地が残されているものとする。

# 結果報告書

授業科目名 総合学習総論  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 小西 正雄, 谷村 千絵

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	7				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	3			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	5			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	6	2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	9				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	9	2			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	5	2	1	1	3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	5	1	2		4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5	2			4.4



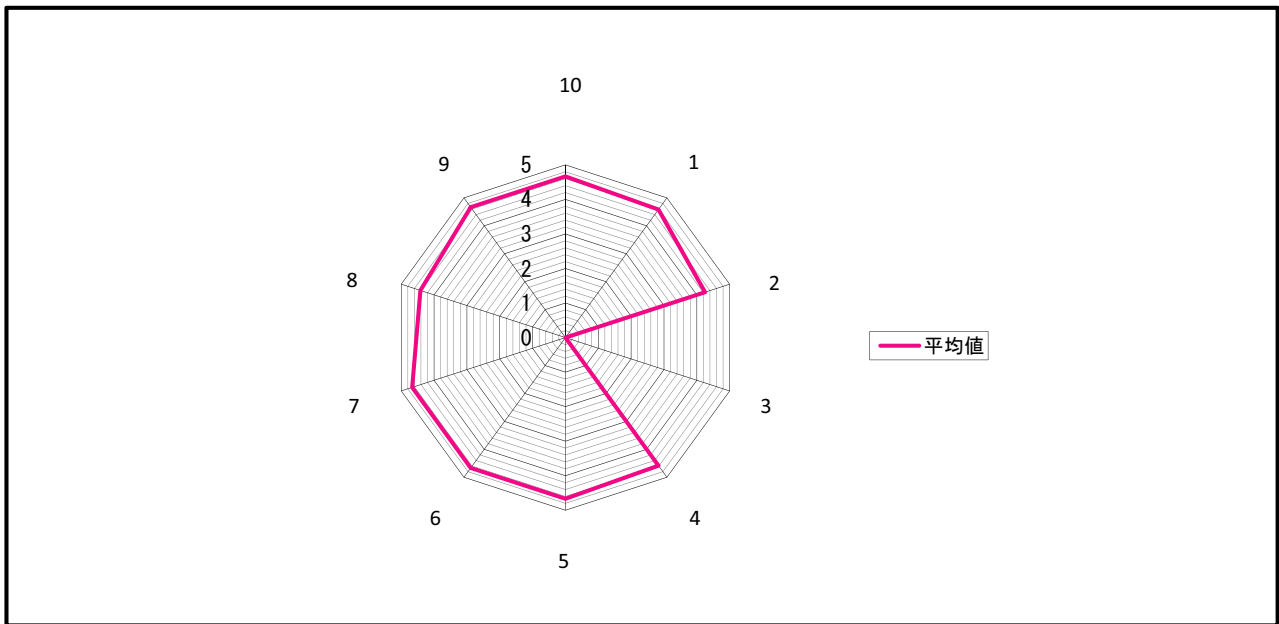
## 教員のコメント

おおむねよい評価であった。とくに、自由記述欄において、授業のよかった点については、半数以上の受講生が、授業を通して自分の考えを広げたり深めたりできた点を挙げた。「楽しかった」という嬉しいコメントもあった。3実践力育成の平均値が若干低いことについては(4.1)、もとよりこの講義の直接的目標ではないので妥当な数値といえる。ただし、自由記述欄には「前半、様々な意見交換ができたことが今後の実践に役立つのではないかと感じた」という意見もみられた。7教科書や配布資料、8板書、視聴覚教材の平均値が3.9と4.1で、他より若干低い。自由記述に「何だか消化不良のまま終わった。結局この授業は何だったのか。」「後半はVTRを見ることが多く、得ることが少なかった」、また、グループワークの進行を支援すべきだと指摘もあったので、今後は、授業の内容理解を確実にすることやディスカッションの進行を支援する方法について、具体的に検討したい。

# 結果報告書

授業科目名 現代教育人間論  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 近森 憲助, 太田 直也, 谷村 千絵      回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	5				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5	2			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	2	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	4				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	4				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	5	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	4				4.7



## 教員のコメント

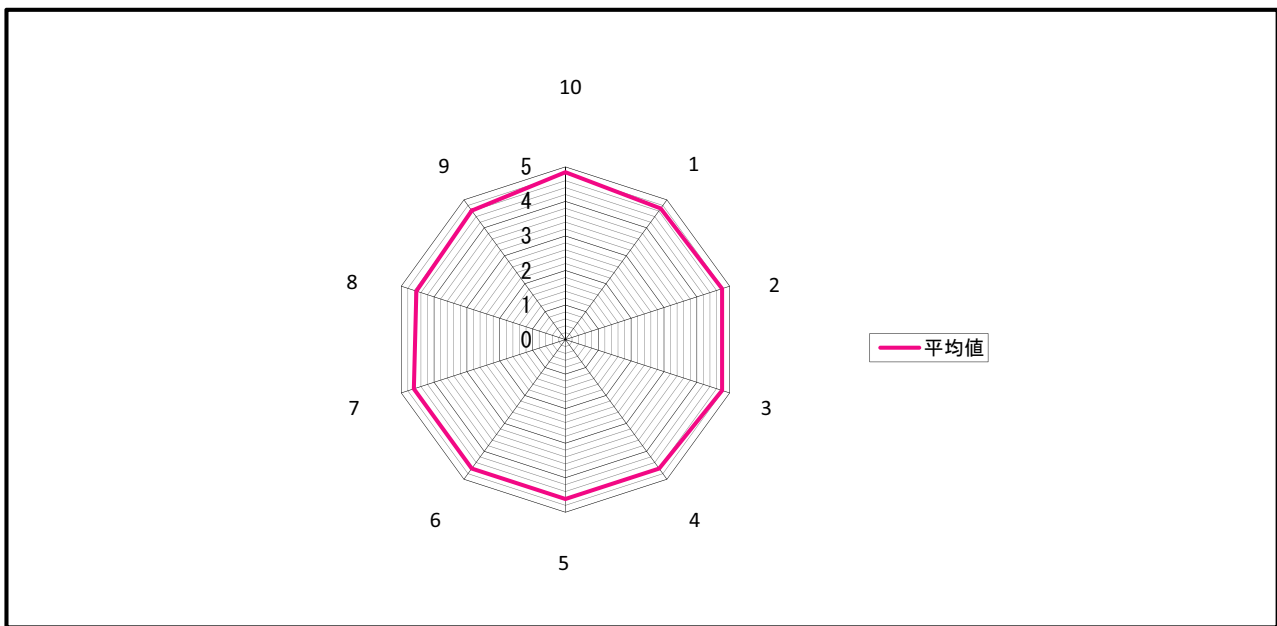
本授業は人間が教育すること、教育を受けることとは何かという、およそ答のない問いに対して多角的な思考を展開し人間存在の意味に迫ろうという野心的な授業である。換言すれば、賢しらな「教育技術」の伝授をもって教育実践力の向上を図ることを拒否した授業である。それゆえ、目先の「実践力」を念頭においておらず、質問項目(3)は除外した。ともすれば曖昧さだけを印象付けてしまう可能性のあるこの授業がすべての項目で極めて高い評価を得たのは、複数の授業担当者たちによる複眼的考察の意義を受講者たちが理解したからであると考えられる。事実、その点をコメントした受講生の数は多かった。授業毎の質問票の活用は効果的であった。また、討議に多くの時間を割いたことも有益であった。この授業の意義を理解しえた受講生たちの将来に期待したい。

# 結果報告書

授業科目名 総合学習カリキュラム開発特論  
 評価実施日 平成23年2月15日  
 担当教員名 村川 雅弘

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	3				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	3	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	5				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	5				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	5				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2				4.8



## 教員のコメント

全体的に高い評価をいただいている。自由記述を見るとその理由として、次のようなことが書かれていた。まず、「実践例を聞いてよかった。」「素晴らしい実践とその具体的な手だてを知り得た。」「総合的な学習のよさが分かった。詳しく学べた。」とあるように、研究や現場指導の過程において共同開発して入手した好事例を主教材として用いていることが有効に機能している。私自身が開発に関わっていることが多いために、その開発過程や成果等を詳細に解説できることが大きい。「実践者をゲストティーチャーとして招き、生の声を聞いた。」「ゲストティーチャーを呼んでいただいたので、飽きることなく授業に参加できた」「素晴らしい実践について直接本人から話を聞くことができた。」とあるように、東京と兵庫から私の自費で3人の素晴らしい実践家をゲストティーチャーとして呼んだことに対して高い評価を得ている。各々にじっくり実践報告してもらった後に、受講生との質疑の時間を設けたことがよかった。次年度は研究費で呼べるようにしたい。「学んだことを自分の言葉でまとめ直せた。」とあるように、多くの実践事例からカリキュラム開発の手だてを抽出させ、自分の言葉でまとめさせたことが有効に働いたと考えられる。新学習指導要領でも求められている「言語活動の充実」を大学院教育に応用したものである。改善すべき点としては「ビデオ視聴のときにもっと大きなテレビモニターで見たかった」とあった。13名と少数だったので、絶えずテレビの近くに座って見るように指示したが、今後のことを考慮すると、各教室には大型テレビの導入をお願いしていくようにしていく必要がある。全体としては、事例等の入れ替えを行いつつも今回の内容や展開を踏襲していきたい。

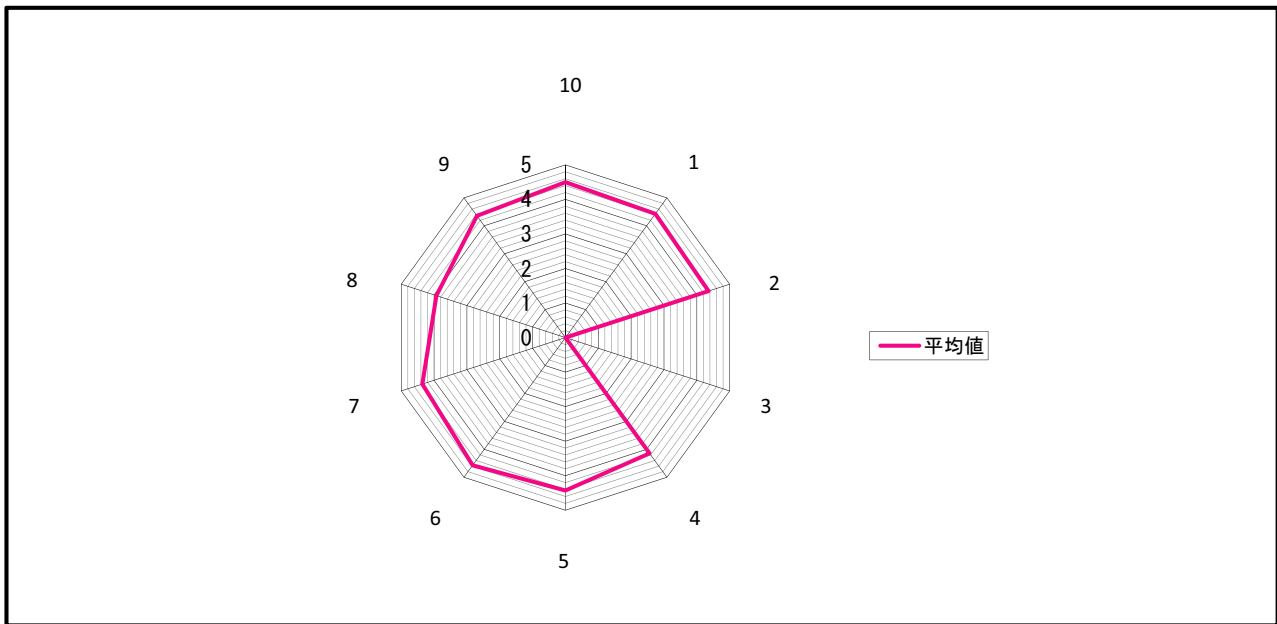


# 結果報告書

授業科目名 情報教育特論 I (教育情報人間論)  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	6	1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5	2			4.4
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。						
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	5	2	1		4.1
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6	8				4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	6				4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7	5	2			4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	7	4			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	7	1			4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	5	1			4.5



## 教員のコメント

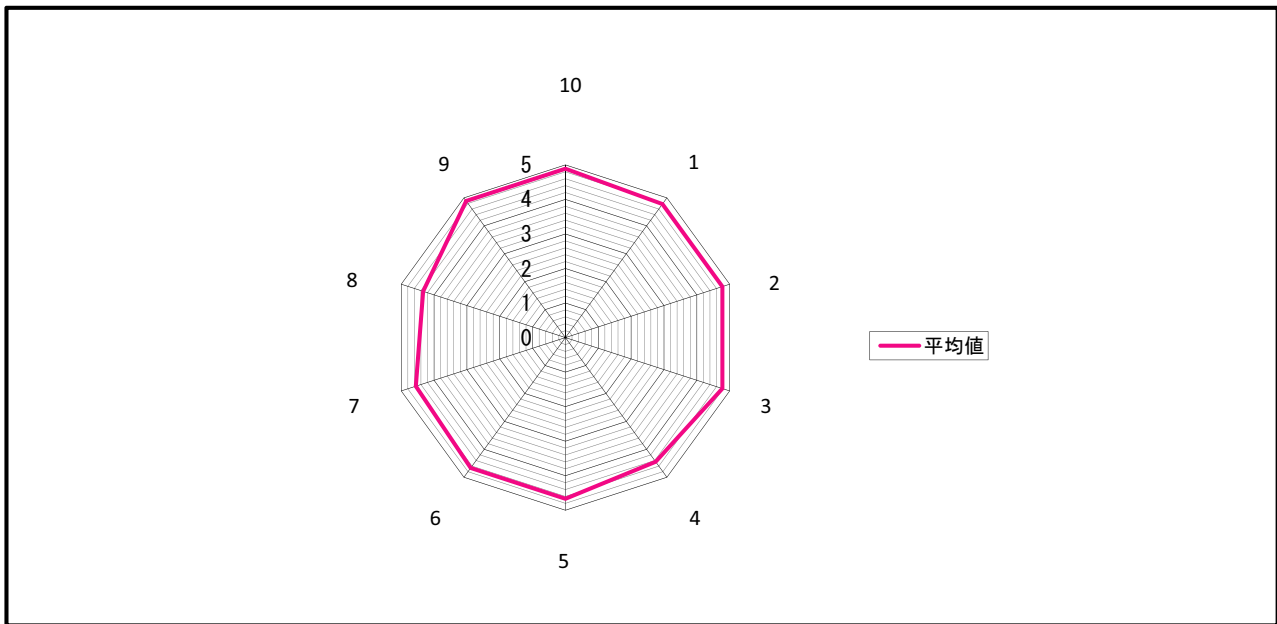
自由記述では、授業が意見交換の場となったことを評価するコメントが多く見られた。8の視聴覚教材について、3を評定した者が4名あるが、これは、教室備え付けのプロジェクターが複数回にわたり不調だったためと考えられる。故障と判断するまでに時間がかかったのだが、今後は機器の不調・故障に関して迅速に対応することを心掛けたい。成績評価について、説明が不十分とする評価が1名あった。授業では、出席と発表と参加態度の3つの観点で総合的に行う旨の説明をしていた。ただ発表の内容が多様であったので、学生によっては、発表がどのような観点で評価されているのか疑問に思ったのかもしれない。授業がより充実したものになることを目指して、発表の評価基準を明示することを検討したい。

# 結果報告書

授業科目名 環境教育特論 I (教材開発)  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 近森 憲助, 西村 宏

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1	2			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6	3				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6	3				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4				4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



## 教員のコメント

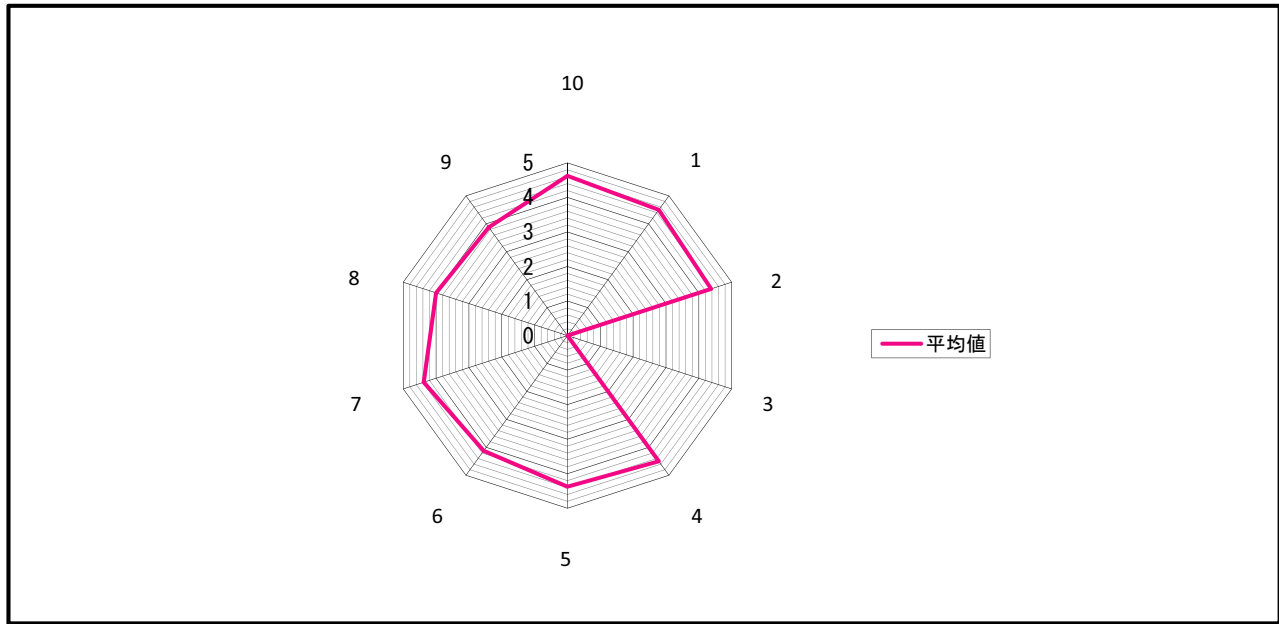
具体的な授業づくりのプロセスを、段階的に示しながら教員と受講生、及び受講生同士のディスカッションを通して授業を実施したことにより、受講生の授業への関りを相当程度促すことができた。このようなことが、高い評価に反映されているものと思われる。改善すべき点としては、成績評価の基準を明確に示し、成績評価の適切性に対する評価を高めることであると考えている。

# 結果報告書

授業科目名 現代の子どもと学校教育  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	4				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	5				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	5				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	2			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3	1	1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	5	2			3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3				4.6



## 教員のコメント

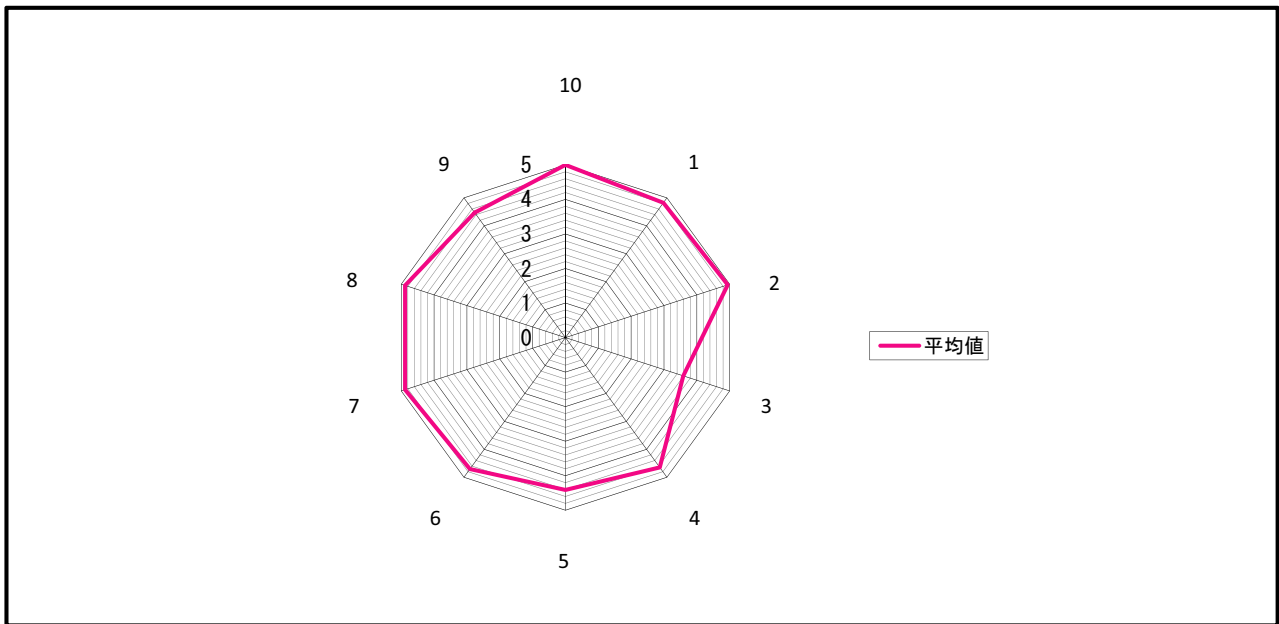
子どもや教育について、受講生同志がお互いから学びつつ、いろんな視点で話題が出た授業だったので、自由記述もそれに関する肯定的なコメントが多かった。ただ、学生の積極性ももう少しあるとさらによいので、その点を今後の課題としたい。自由記述欄に述べられた改善点については、時間にももう少し余裕がほしいとの指摘があった。板書、視聴覚機器の使用について2の評定をした受講生が1名あるが、備え付けプロジェクターが故障して使用できなかった回があったことが原因と思われる。ただ、コメントがなかったのも、次回より、アンケートの際に、具体的に記述するよう促したい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ  
 評価実施日 平成23年2月16日  
 担当教員名 佐藤 亨

回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	9	1		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	3		1		4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	5	1	1		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	3	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	2				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	2				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	5			1	4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	17					5.0



## 教員のコメント

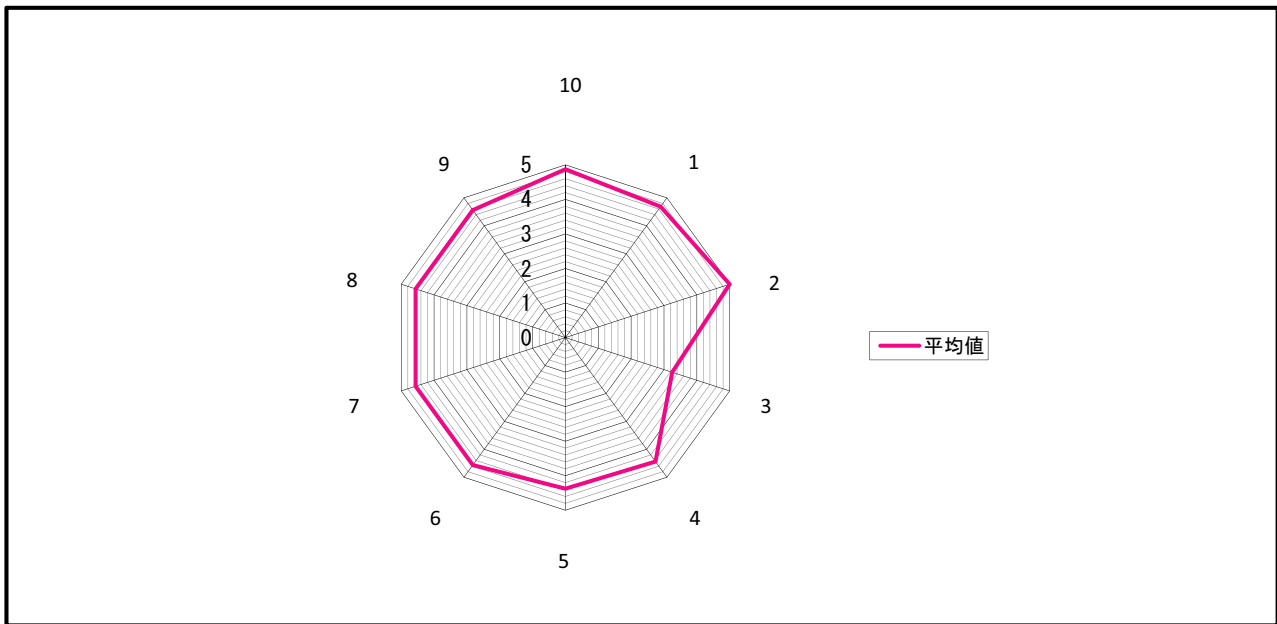
総合評価において、回答者全員が5を付けており、非常に評価が高く、院生のニーズに応える授業を行うことができたと考えられる。また、ほとんどの項目で平均4.4以上の評価を得ており、授業の内容や進め方においても問題はなかったと考えられる。唯一4点未満となった項目は、「教師の実践力の育成につながる内容であった」のみで、この点に関しては、本授業は臨床心理士の養成のための内容となっており、教師の実践力育成を目的としたものではないため、やむを得ない面があると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ  
 評価実施日 平成23年2月16日  
 担当教員名 葛西真記子

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	5				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5		6	4	1	3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	5	2			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	6	2			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	5	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	7				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	5	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	7				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	2				4.9



## 教員のコメント

授業の内容についての評価結果から、(1)と(2)は、4.7、5.0と高得点であり、内容的にはかなり高い評価が得られたと思う。(3)の教師の実践力の育成につながる内容であったという項目については、3.3であり、すべての項目の中の最低点であるが、本査定演習で扱った内容は、心理検査のロールシャッハテストという投影法であり、学校現場では、使用されていない、使用すべきではないと思われるものである。主に、病院や相談室で使用される心理検査であり、授業者人身も教師の実践力の育成をめざしてはいないので、評価として妥当であると思われる。しかし、理論的な考え方の背景には、教師にも役立つ面があると御思われるので、今後、その面を講義内容にもさらに追加していくことも考えられる。

次に、授業の進め方についての評価であるが、他の項目より少し低かった「成績評価の方法の説明」と「授業の進む速さ」についてであるが、成績評価は、途中の小テストの得点が全体的にかなり低かったことと、最終のレポートの得点をこのアンケートの時点では、公開していないことが影響していると思われる。小テストの結果で成績を評価した場合、ほとんどの受講生が、「不可」という評価になるが、これは、途中経過としてどの程度内容が理解されているかを確認するためのものであり、それがそのまま成績評価に反映されていない点、レポートの得点をどのような公開するのかなどの点について具体的に説明を行うことによって、対応できると思われる。

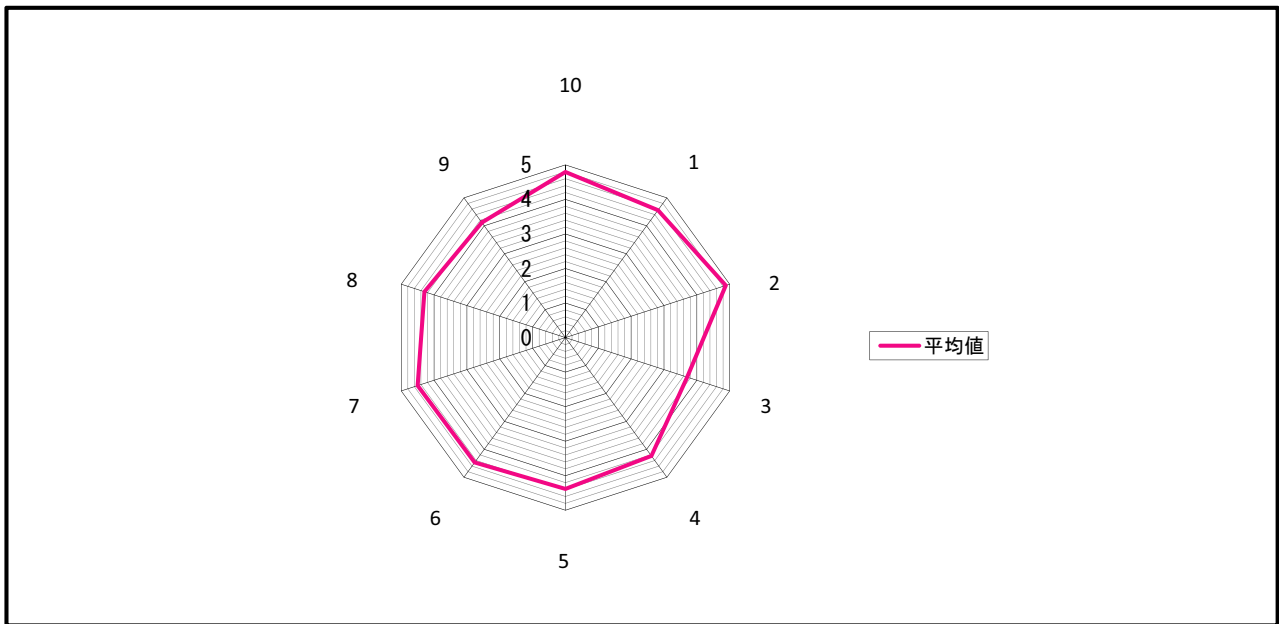
全体としての評価は、「4.9」であり、受講生の満足は得られていると思う。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理基礎実習  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 粟飯原良造, 井上 和臣, 葛西真記子, 今田 雄三, 中津 郁子, 吉井 健治, 久米 禎子, 曾川 京子

回答者数 34 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	21	12		1		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	4				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	6	14	2	1	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	17	10	5	2		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	17	13	4			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	18	14	2			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	21	9	4			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	11	5	1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	14	4		2	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	28	5	1			4.8



## 教員のコメント

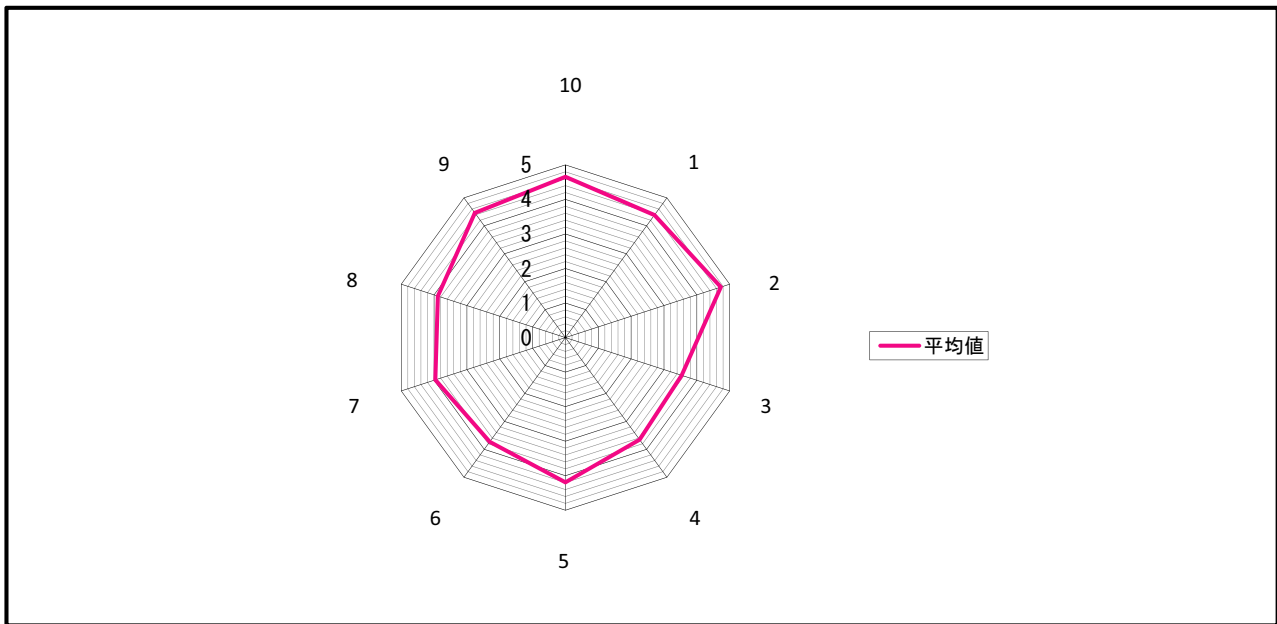
「教師の実践力の育成になった」は平均3.7点であったが、本授業は臨床心理士養成コースの専門性を高める目的であるのでやや低かったと思われる。他の質問項目はすべて4.1点以上であり、受講生の受講動機・目的、受講後の成果ともに本授業に対して受講生は満足していると考えられ、「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」が平均4.8点と高かったことと一致する。ただし、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」は平均4.1点であったが、2名の受講生は1点という評価であり、主体的・積極的に取り組めていないと思っている受講生を見つけて対処していく方法を考える必要がある。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理実習  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 粟飯原良造, 井上 和臣, 葛西真記子, 山下 一夫, 今田 雄三, 中津 郁子, 吉井 健治, 久米 禎子, 曾川 京子

回答者数 26 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	10	3			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	3	2			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	8	10	2	1	3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4	11	3		3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	13	4			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	8	6	3	1	3.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	6	9	1		4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	6	8	1	1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	6	4			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	5	2			4.7



## 教員のコメント

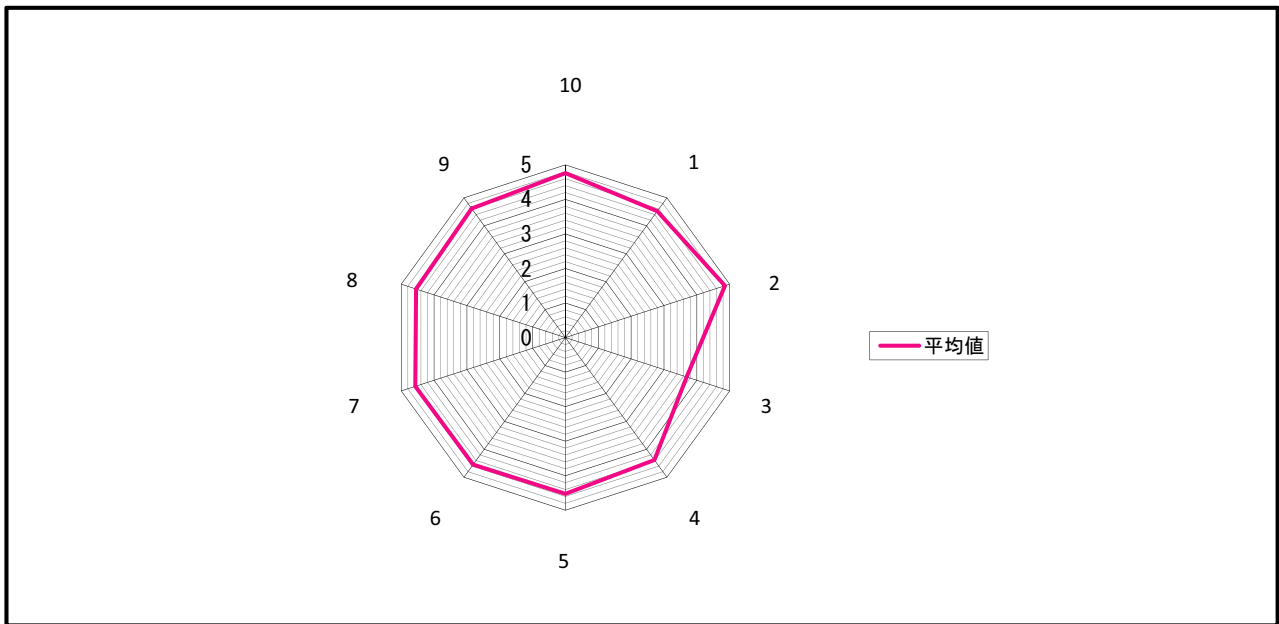
「授業概要が授業を適切に表現していた」は平均4.4点、「授業を総合的に評価する」と平均4.7点、「専門的知識を深めることに役立つ」は4.7点であり、本授業に対する受講生の予想と期待に沿った授業であったと考えられる。「授業に主体的・積極的に取り組んだ」は4.5点であり、受講生が本授業に関心が高かったと思われる。「教師の実践力育成」については3.5点とやや低いが、本授業は臨床心理士を目指す受講生対象であるので低かったと考えられるが、本授業で学んだことは教師の実践場面でも役立つと言う視点を持ち込む必要がある。「板書、視覚機器の使用」(平均3.9点)は本授業では教員はほとんどなく使用していないので、受講生の使用に限られること、「受講生に分かりやすく説明した」は平均3.7点であったことから、機器を使った教員による説明等を受講生が求めているのかもしれない。「成績評価の方法の説明は適切であった」は平均3.7点であるが、事前に説明していることから、複数回の説明を受講生が求めていると思われる。以上から、受講生はすべての質問項目について3.5点以上の評価をつけているので概ね満足しており、とくに臨床心理士としての専門的な知識を身につけることができた授業であったと評価された。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究 I  
 評価実施日 平成23年2月8日  
 担当教員名 中津 郁子, 久米 禎子

回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	24	16	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	36	6				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	8	17	3	1	3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	25	9	7	1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	26	13	2	1		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	28	10	3	1		4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	28	10	4			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	28	9	5			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	29	10	3			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	8	1			4.8



## 教員のコメント

今年度から担当した授業である。前半の講義形式の多い授業では振り返り用紙を使って学生の反応を確かめつつ行なった。後半のグループごとの発表形式の授業では、グループの進み具合を確認しつつ行かない最後に全体的な振り返りを行なった。総合評価で4.8であるので、概ね学生にとって満足のいく授業であったと考えられる。自由記述の中にも、「グループで調べたり、発表することが勉強になった」や「これからの臨床家としての人生に非常に役立つ授業でした」という感想が見られていた。質問項目(3)[教師の実践力の育成につながる内容であった]という項目が3.7でやや低くなっている。これに関しては、この授業が臨床家としての面接研究であるため、教師とは直接的にはつながりにくいと思われ、『どちらとも言えない』を選択する人が増えたと思う。しかし、それでも『そう思う』『ややそう思う』を半数の人が選択している。教師にとっても、親理解や生徒理解につながる授業内容であると理解されたのだと考える。今後も学生の習熟度や学びの意欲を考慮しながら行なっていきたい。

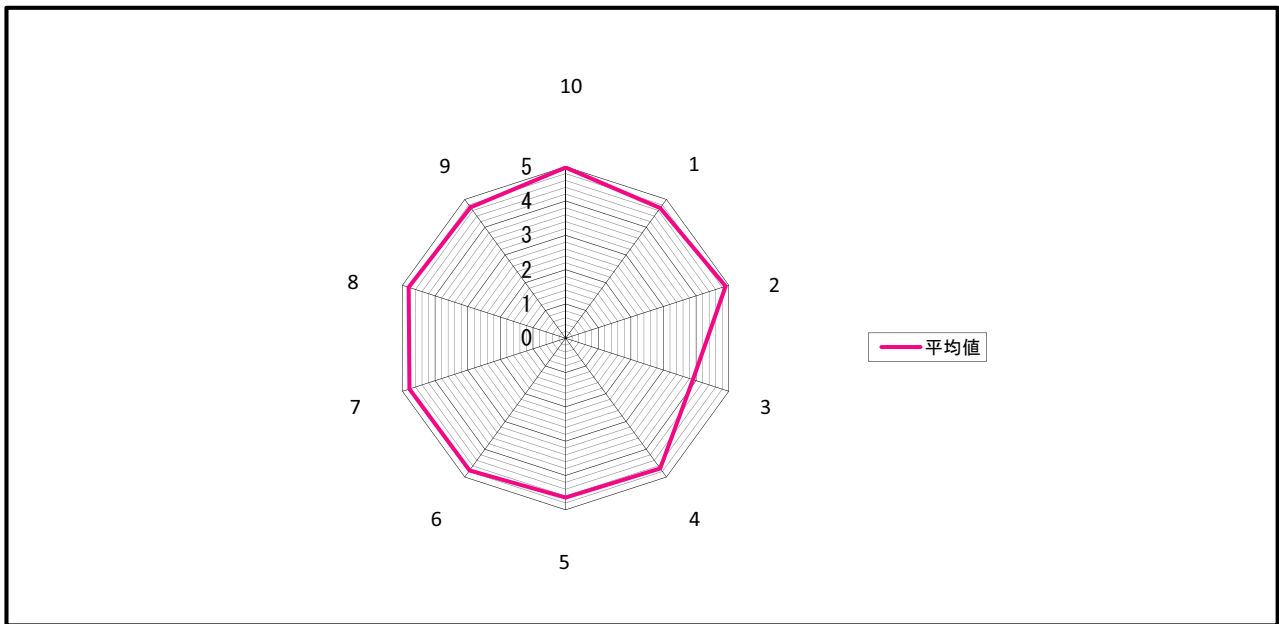


# 結果報告書

授業科目名 学校精神保健学演習  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 今田 雄三

回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	29	13				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	39	2	1			4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	11	14	2		1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	31	9	2			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	31	8	2	1		4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	33	8	1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	34	7	1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	34	8				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	12				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	41	1				5.0



## 教員のコメント

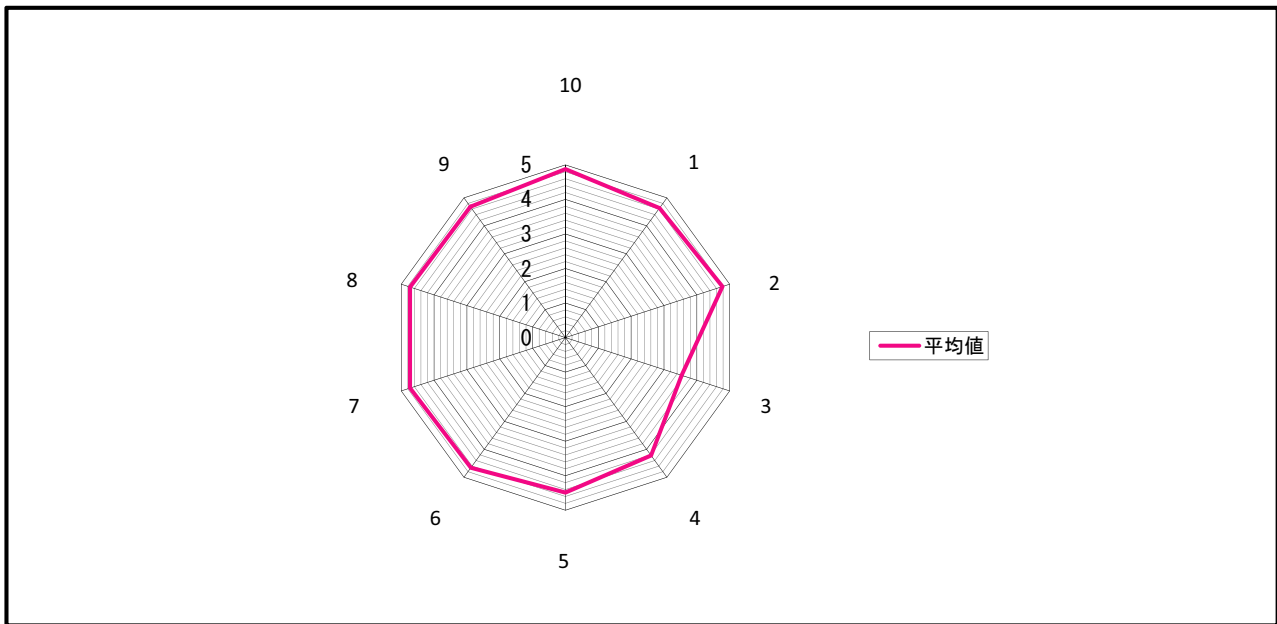
質問10項目中9項目での評価が4.5点以上、特に(10)の「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の評価では5.0点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考えます。ただし、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関してのみ、評点が3.9点となっている。本授業の受講生は臨床心理士を目指す者が大半であり、授業もそうしたニーズに沿う内容で構成されていたことが影響して、この項目のみ評点が他に比べ低目になったのではないかとと思われる。臨床心理士の実践の場として学校臨床は重要な位置を占めており、学校現場でのアセスメント、相談活動、教員との連携についての知識・実践力の養成という面を通して、今後はより教師の実践力の育成とつながる内容を盛り込むような工夫を試みたい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学統計法  
 評価実施日 平成22年12月24日  
 担当教員名 田中 秀紀

回答者数 41 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	28	11	2			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	9				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	8	18	4	1	3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	9	10	1		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	24	13	4			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	29	11		1		4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	33	6	1	1		4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	31	9	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	8	1	1		4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	36	5				4.9



## 教員のコメント

心理統計法という理論理解や実践が極めて難しい領域であるにもかかわらず、受講生の授業に臨む態度は熱心であり、理解度も高かった。

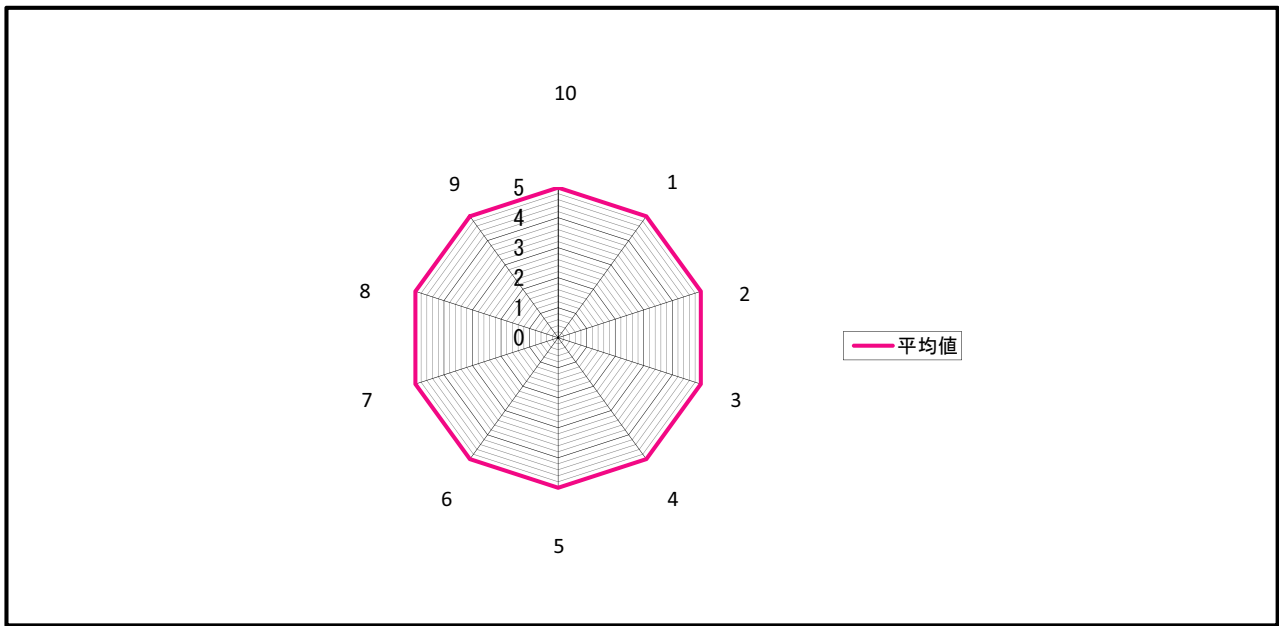
今度もより実践的に心理統計を使用できるような授業にするよう心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実践論  
 評価実施日 平成23年3月3日  
 担当教員名 井上とも子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

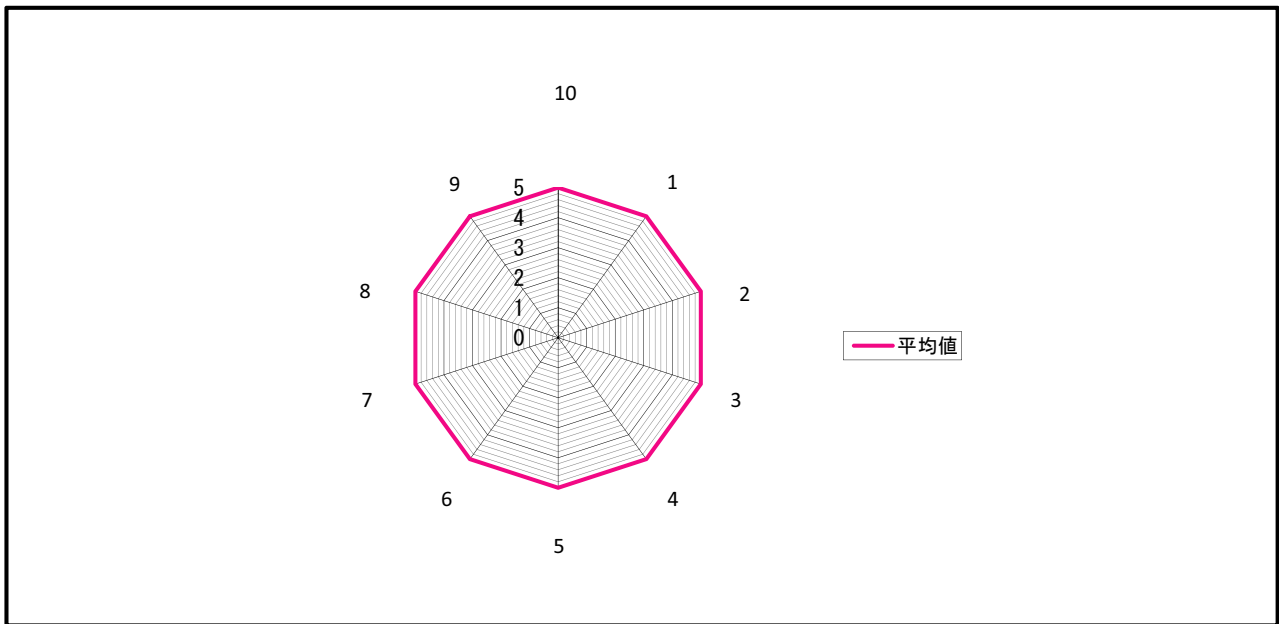
この授業は、特別支援教育コーディネーター実地教育と合わせて展開される。実際の就学前指導の場面で、実践力を培うと共に、授業の事前のアセスメントや指導計画作成と指導案づくり、事後のVTR記録を通した指導分析、自身の指導の省察及び、それにかかわるスーパーバイズがこの実践論の学びとなる。授業時間枠だけではなく、この授業にかける前後の時間は非常に多いものとなっている。その分、実践論は単なる論に終わらず、実践に結びつくものとして機能しているものと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 社会資源開発運用・連携論  
 評価実施日 平成23年2月23日  
 担当教員名 井上とも子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1				1	5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

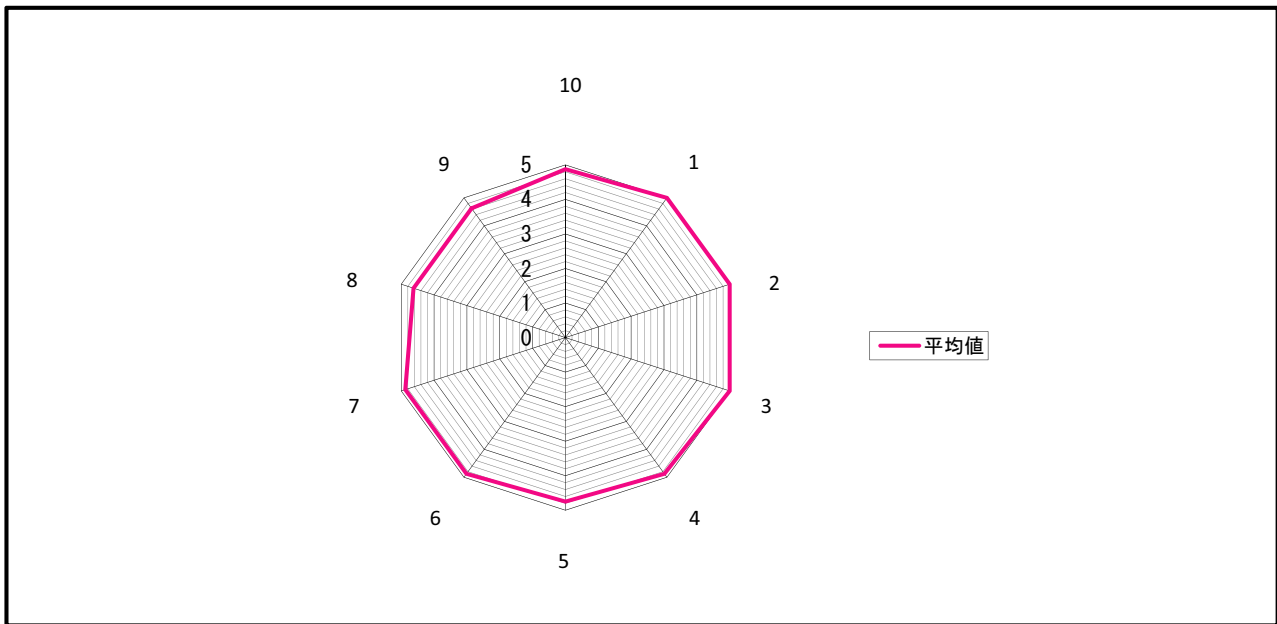
22年度を受講生は、単位取得者2名、聴講生4名程度(その時によって参加者数が変わる)であった。事前の課題提示に従って、2名の受講者が、レポートを作成し、授業ではその内容の発表を中心に授業は進められた。それぞれに課題に対して真摯に調べ、それをまとめて発表できており、発表自体が資源の運用にもあたり、授業の目的が達せられたと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育課程特論演習  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 八幡ゆかり

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



## 教員のコメント

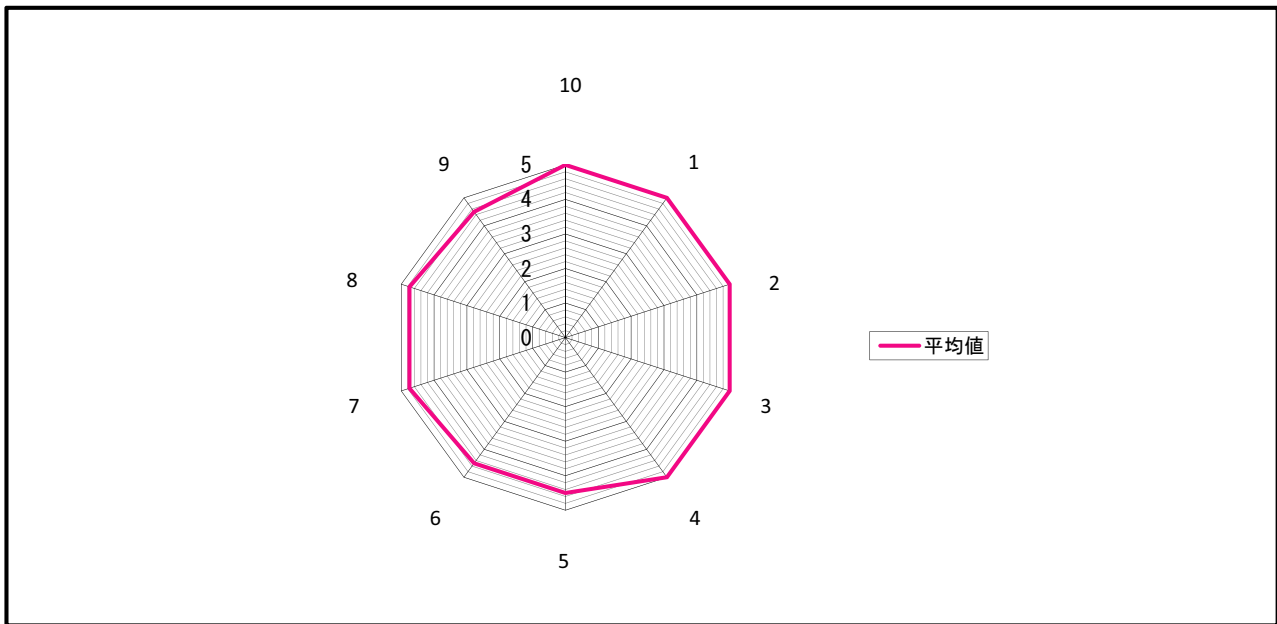
「授業の内容」の3項目全ての評価が「5」であった。これら3項目中、特に、「(3)教師の実践力の育成につながる」と捉えていたことから、本授業内容が適切であったと考えられた。また、本授業では受講生の主体的取り組みを重視したが、「授業への取り組みについて」の「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の平均回答が「4.6」であったことから、達成できたと考えられた。そして、総合評価の平均が「4.9」であったことから、次年度も今年度同様の授業内容や方法を継続して行っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育指導特論演習  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

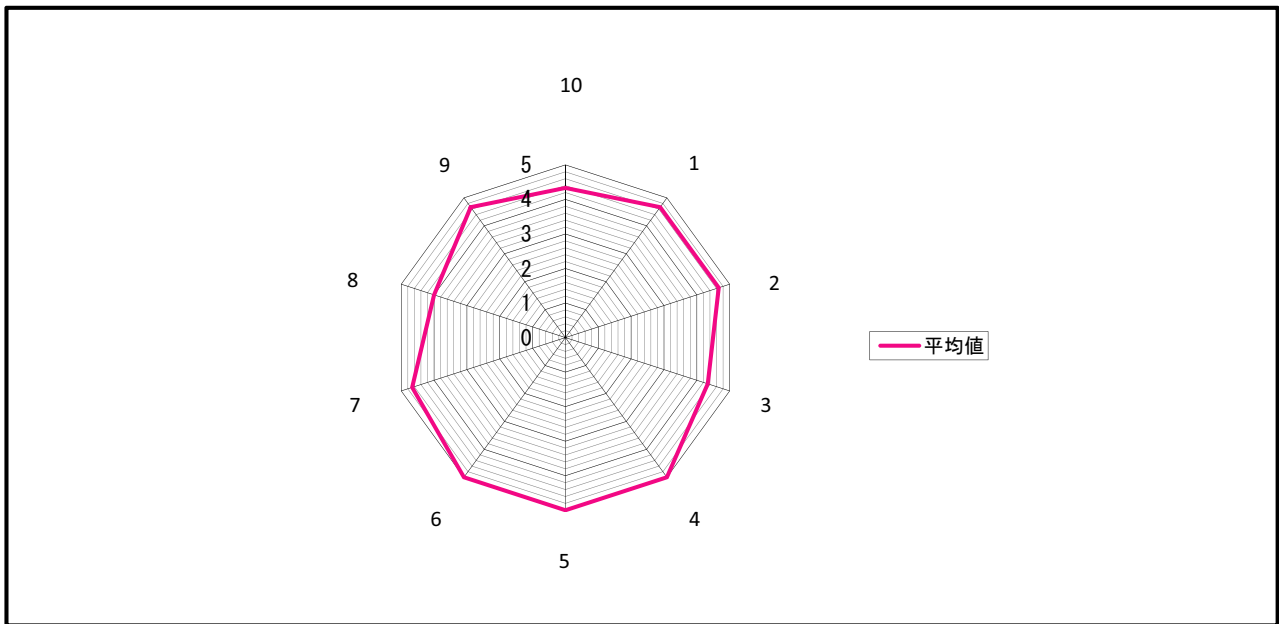
授業内容、授業方法共に評価は高く、特に授業内容に関して、受講生は高く評価している。これらのことから、受講生の求めることと、今回提供した内容がよくマッチしたためであるといえよう。また受講生の授業への取り組み態度に関する評価が高く、受講者が高い学習意欲を持っていた、また授業を通して持ち続けることができたのではないかと考える。担当する教員としても大変やりがいのある授業であった。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床支援技法演習  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 高原 光恵

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2				4.3



## 教員のコメント

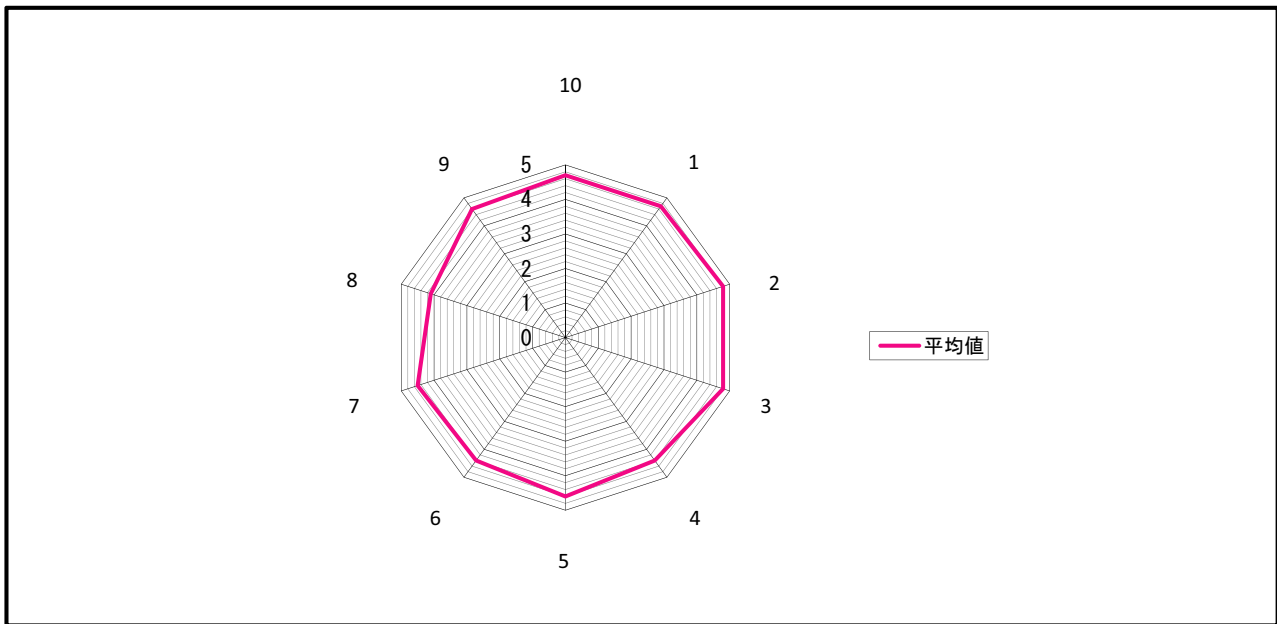
少数による演習形式のため、受講生の理解、関心を確認しつつ進めることはできた。しかし、板書の仕方など、わかりやすい提示に課題が残されたため、このあたりの改善を試みたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習支援演習  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3		1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	4				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	6				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	5				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3	3			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	3				4.7



## 教員のコメント

10項目中7項目で、受講生全員が5又は4の高い評価をおこなったことから、授業内容はよく浸透し、授業を受けてよかったと思った受講生が多かったことが確かめられた。特に、問2と問3では5の評価が多かったことから、本講が受講生の「専門的知識を深めるのに役立つ」「教師の実践力の育成につながった」ことが分かった。基本的な心理検査であるWISC-IIIの結果の解釈法を詳細に紹介し、仮想的な事例に基づいて個別指導計画を立案する実習を充実させたため、専門的な知識の理解と教育実践力の育成を促すことができたと考えられる。また、問1でも多くの受講生が5の評価を行ったことから、「授業概要が、この授業を適切に表現していた」ことが分かった。WISC-IIIとK-ABCの実習を授業に取り入れ、各々の実習への時間配分をシラバスに即して行ったため、授業を計画的に進めることができたと考えられる。しかしながら、問8では3の評価を行った受講生が3名いたことから、今後は「板書や視聴覚機器の使用」について工夫する必要があると考えられた。パワーポイントを用いて大量の視覚情報を提示することは、かえって授業内容を分かりにくくさせるが、検査のプロフィールの読み取り方などをパワーポイントで動的に丁寧に説明すれば、より一層理解を深めることができるかもしれない。今後の検討課題としたい。

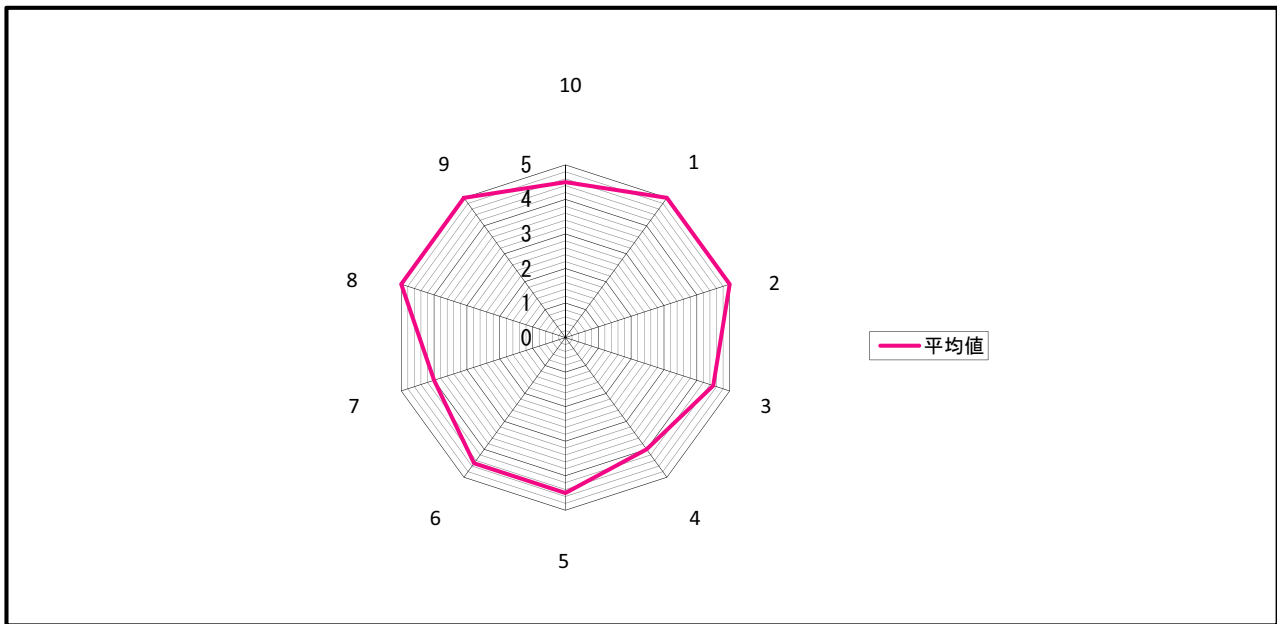


# 結果報告書

授業科目名 発達障害児支援医学演習  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 津田 芳見

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



## 教員のコメント

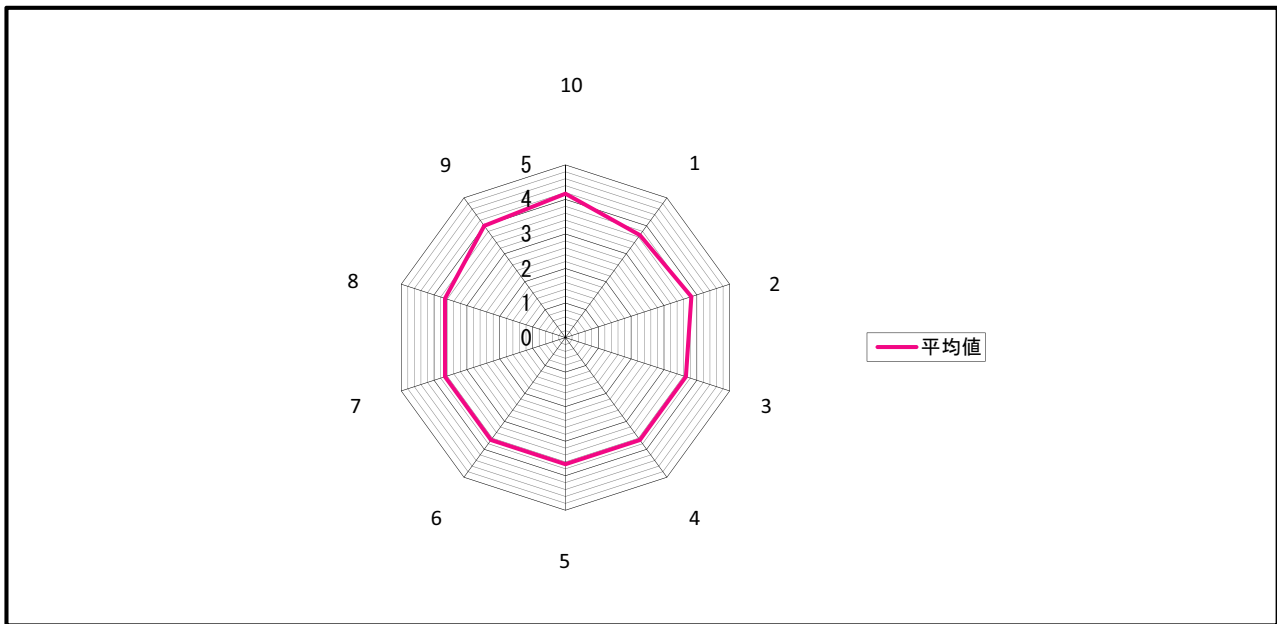
本授業では、平均的によい評価が得られた。発達障害に関する医学的支援に関して知識を深めることができたという評価が多かった。視聴覚機器を使用して理解しやすさを心がけた。今後もきめ細かくこの評価を授業に反映していきたいと考える。

# 結果報告書

授業科目名 発達障害児神経学演習  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 田中 淳一

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2	3			3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3	2			3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	3			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		4			3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1	2	1		3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		4			3.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		4			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	3			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	2			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1	2			4.2



## 教員のコメント

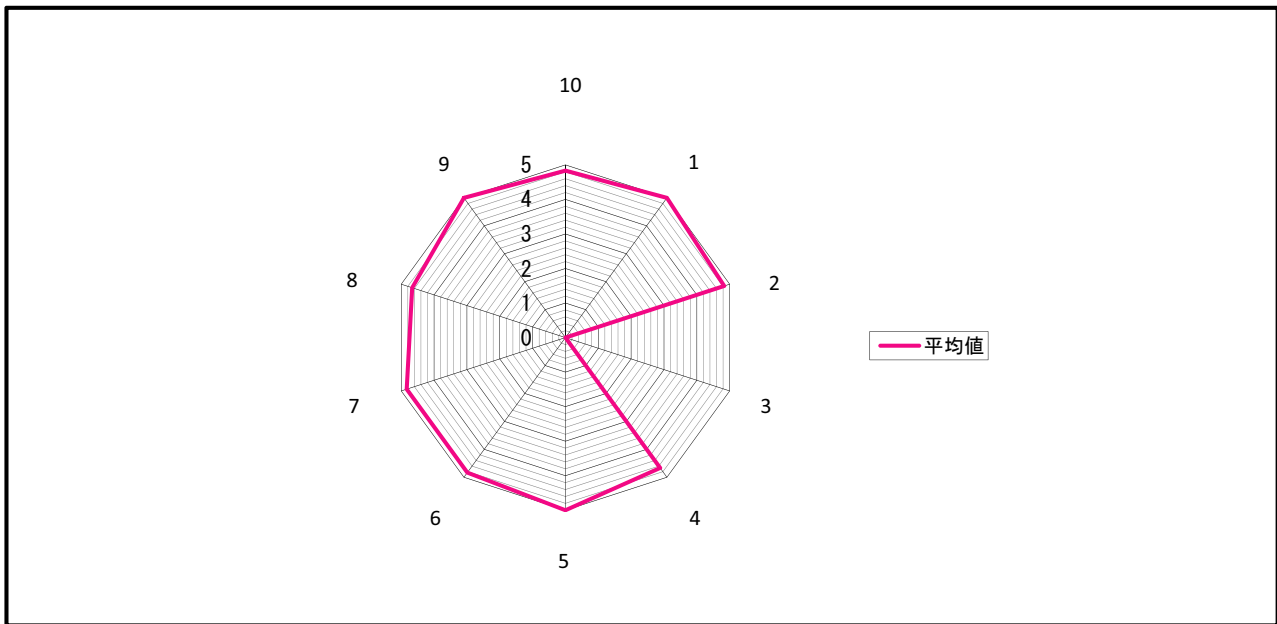
受講生が少なかったことから、正確な分析は出来ないが、各項目の評価が4に近く、総合評価が4.2であったことから、ある程度の評価が得られた演習であったと思われる。専門性が高く、高度の知識が要求されるため、理解が出来なかった部分があったかもしれない。主として、院生の調査、発表、討論等の形式で行った上で、理解しにくい部分等について説明を行ってきた。調査内容や発表形式を考慮するとともに、さらに理解を促すため説明時間を多くする必要があると考えられる。院生からのコメントはほとんどなかった。

# 結果報告書

授業科目名 日本事情・日本文化  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 古賀美千留

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



## 教員のコメント

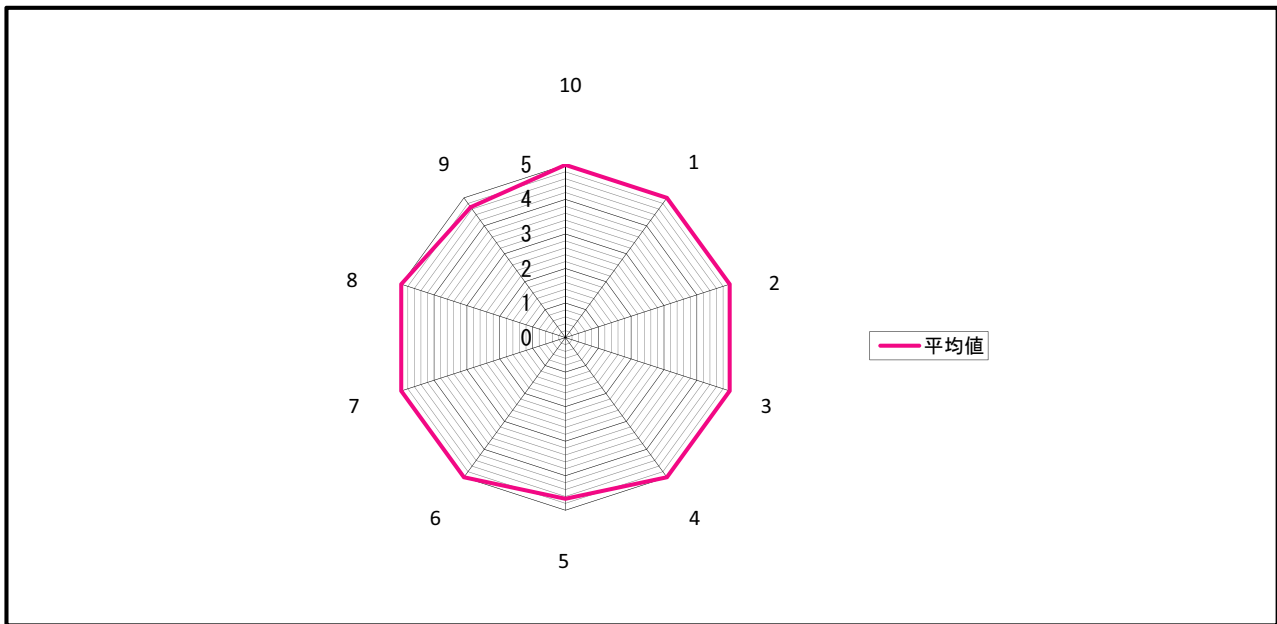
この授業では、留学生を対象に、日本文化・日本事情への理解を深めること、また最終的には日本語で自分が興味をもったトピックについてプレゼンテーションを行うことを目標とした。受講者数は5名(+聴講3名)であった。  
 総合評価の平均点は4.83、全項目の平均点は4.85であり、総じて高い評価が得られた。自由記述欄では、授業のトピックが毎回変わることで、トピックを授業初回のアンケートで決定したこと、日本事情の理解を深めるために毎回授業の冒頭で最新のニュースについて取り扱ったこと等が、「よかった」点として挙げられた。  
 一方、「改善すべき」点としては、プレゼンテーションの時間管理のためにベルを使ったほうがよいのではないかと指摘があった。これは、日本語での発表に不慣れな学習者への心理的負担にもなりうるため、今後慎重に考慮したい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語Ⅲ  
 評価実施日 平成23年2月14日  
 担当教員名 永田 良太

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

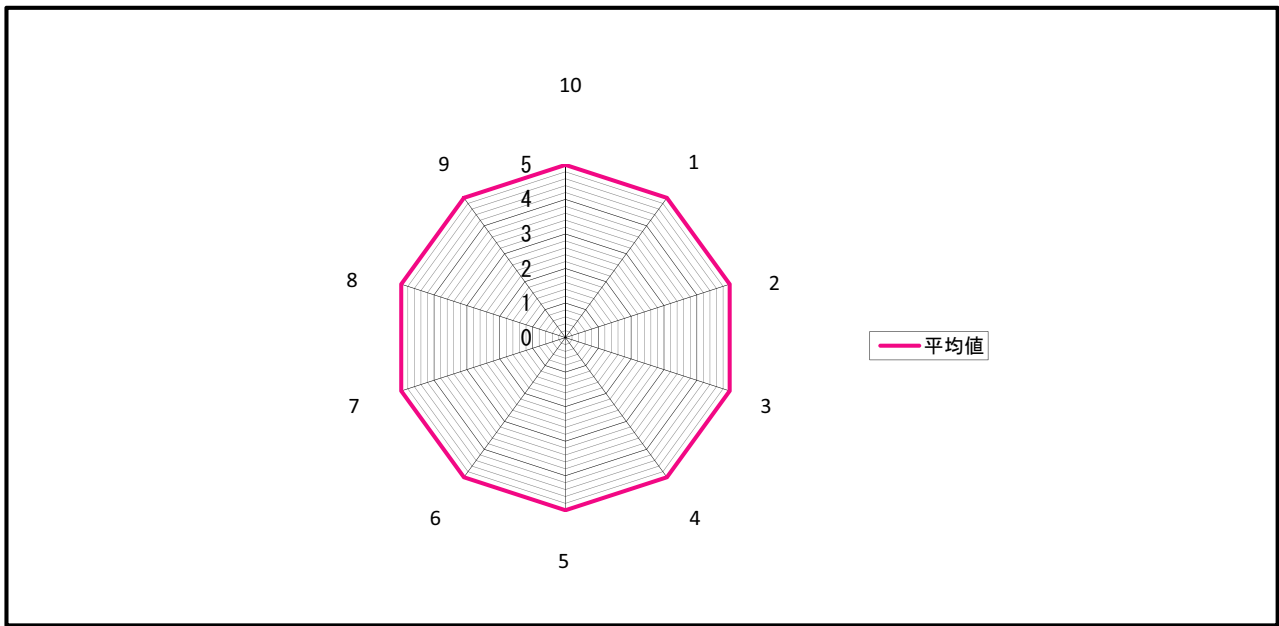
本授業では、レポートや論文を読むための日本語力を身につけることを目標とした。各項目の評価を見ると、授業内容や授業の進め方に関しては概ね適切であったと思われる。本授業の受講者は全員漢字圏の学習者で日本語レベルもほぼ同じであったが、今後は学習者一人ひとりの学習状況をさらに詳しく把握することで、適切な授業進度を心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語IV  
 評価実施日 平成23年2月2日  
 担当教員名 妹尾 春子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

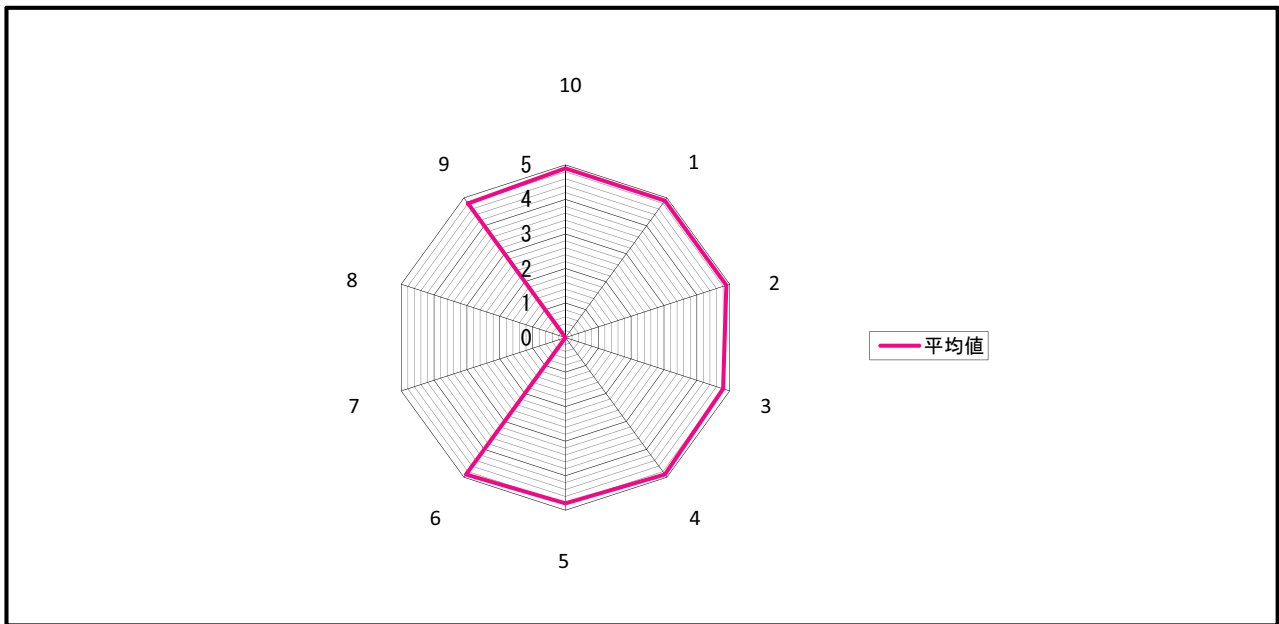
すべての項目で高い評価をしてもらったが、授業の進め方については反省、改善すべき点があったように思う。「書く」ことに対して学生は意欲的にとりくめていた。しかし、授業内で書き終えるようにしていたため、「書く」内容が非常に限られたものになってしまった。各項目ごとの表現パターンは学べたが、それを論文の形として発展・応用させることができなかった。次回も論文形式の記述練習をしていく予定だが、この反省をもとに記述の量や内容、時間配分について改善していきたい。また、教師だけの添削で終わるのではなく、学生同士での交換や発表など、アウトプットの機会を設けていきたいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 日本古典語演習  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 原 卓志

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9		1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



## 教員のコメント

個性的で熱心な受講生のお陰で、充実した授業を実施することができた。評価結果の高さは、受講生自らが作った雰囲気からもたらされたものである。  
 次年度以降も、受講生が何でも話せる雰囲気を作り、それぞれが、楽しみながら学習できるような授業にしていきたいと考えている。  
 学生のコメントには《良かった点》として、多分にお世辞めいたものであるが、次のようなものがあった。また、《改善すべき点》にはコメントがなかった。

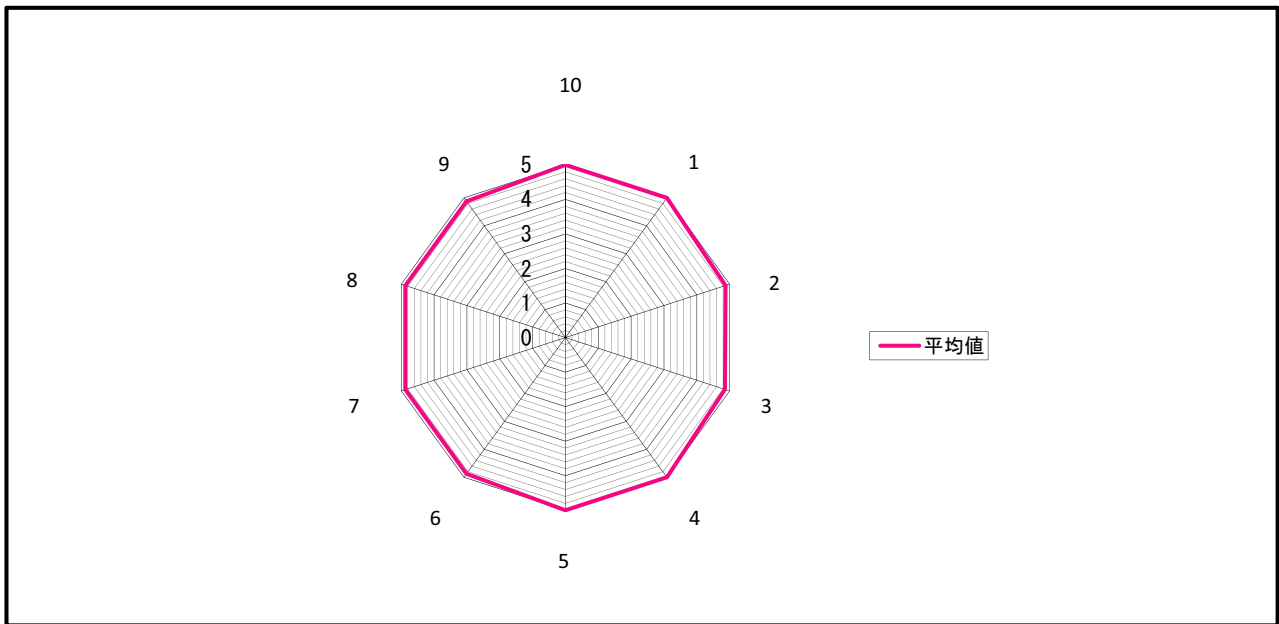
- 原文を読むことができて楽しかった。歴史や平家物語の内容だけでなく、いろんなことを学べた。
- 受講者が積極的に考え、自分なりの見解ができる(出せる)よう指導して下さったこと。自ら調べたり答えを考えたりしたところが良かった。
- 古典の勉強ができ、教員採用試験の役に立った。いや、立つだろうと思われる。
- 親切に教えていただいたので、主体的に楽しく授業に取り組めた。授業の雰囲気作り、先生の話術など、たくさん学べることがあり、とても良かった。
- くずし字に少しずつ慣れることができた。部分的に、それについての補足説明があり、知識を増やすことができた。

# 結果報告書

授業科目名 現代日本語演習  
 評価実施日 平成23年2月15日  
 担当教員名 茂木 俊伸

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



## 教員のコメント

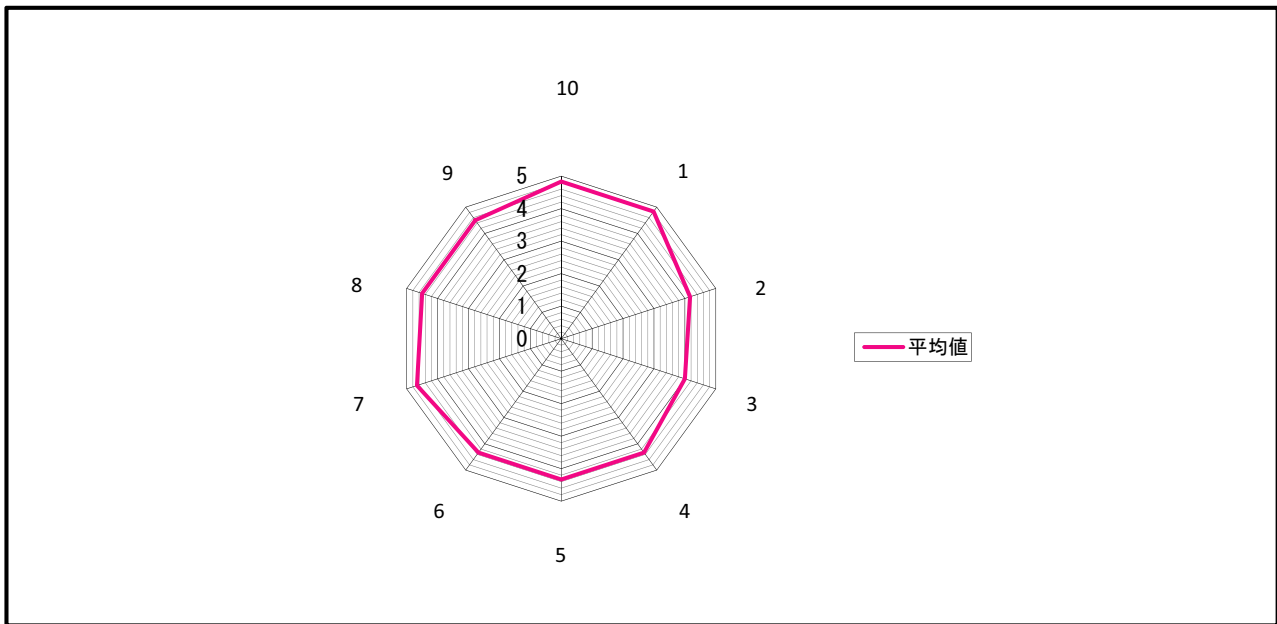
本授業では、現代日本語に関する研究論文を批判的に読みながら、「意味分析」をテーマとする演習活動を行った。受講者数は、昨年度の倍の7名(＋聴講2名)であった。  
 授業評価の総合評価は5.0、全項目の平均値は4.92であり、全体的に肯定的な評価が得られた。  
 項目3の無回答(1名)が気になるが、意味分析と言語教育とのかかわりについて取り上げる回を設けたためか、昨年度よりも高い評価(4.86)になった。  
 改善を要する点に関するコメントは2件あった。「毎回のテーマ以外について質問できる時間がもう少しあればよかった」という意見については、基本的に授業外で対応し、共有できる部分は授業に取り入れたい。「受講者による演習発表に物足りなさを感じるがあった」という意見には、教員側では対応しきれない。ただし、いずれも授業時間を最大限有益なものにしようとする熱意を感じる意見であり、このような熱意を引き出す努力を今後も続けていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本文学演習 I  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 野口 哲也

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		3			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



## 教員のコメント

演習科目としては適切な受講者数で開講できたこともあり、好評価を得られたと思う。自由記述による回答においても、時間をかけて文学作品を読むという作業自体に高い満足度が示されている。  
 (3)の「実践力」については、予てより「すぐには役に立たないかも知れない教養」「何の役に立つのか分からないスキル」として文学研究の意義があると考えているので、この評価は妥当なところかと思う。質問項目の文言に対して違和感が無いではないが、「3」を下回らないような水準(満足度)は維持してゆきたい。

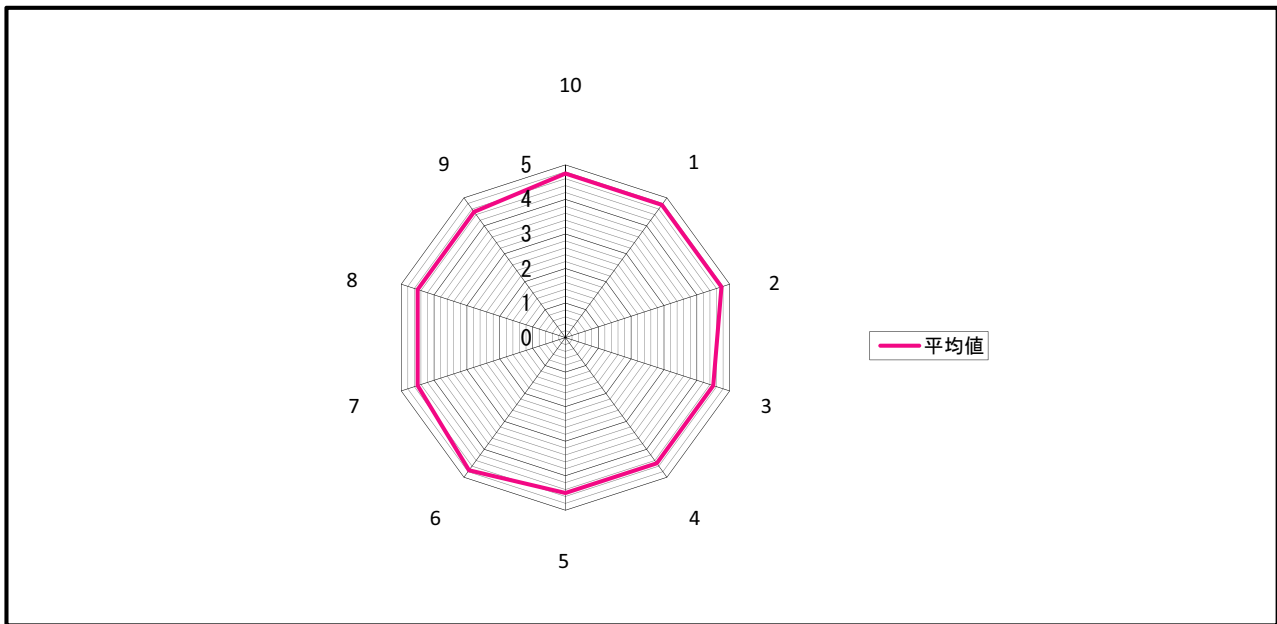


# 結果報告書

授業科目名 日本語教育学演習  
 評価実施日 平成23年2月8日  
 担当教員名 小野由美子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

授業受講者の人数が少なく、全員が参加できる授業であり、学生が積極的に話し合うことができた。授業内容についても学生が中心となる授業など充実がはかることができ、評価としても高いものが得られたように感じる。特に、ゲストティーチャーを招いて授業を行ったことは学生にとって、専門的知識を学ぶことにつながり、教授をするための力として大切な力がついたように思う。ゲストティーチャーから学んだ内容は、授業内の他の時間に生かしていた。フランス語圏のアフリカ研修員に日本語を教えたことは学生にとって実践的な活動となり、充実したものとなったようだ。日本語の授業見学も、見学後に情報交換ができ、授業の内容に深く関わった。実践的なことを行うことは学生にとって、とてもよい体験になるようで、評価も比較的高いように感じた。これからの授業でも実践的内容や専門知識を高める内容を充実させていく。

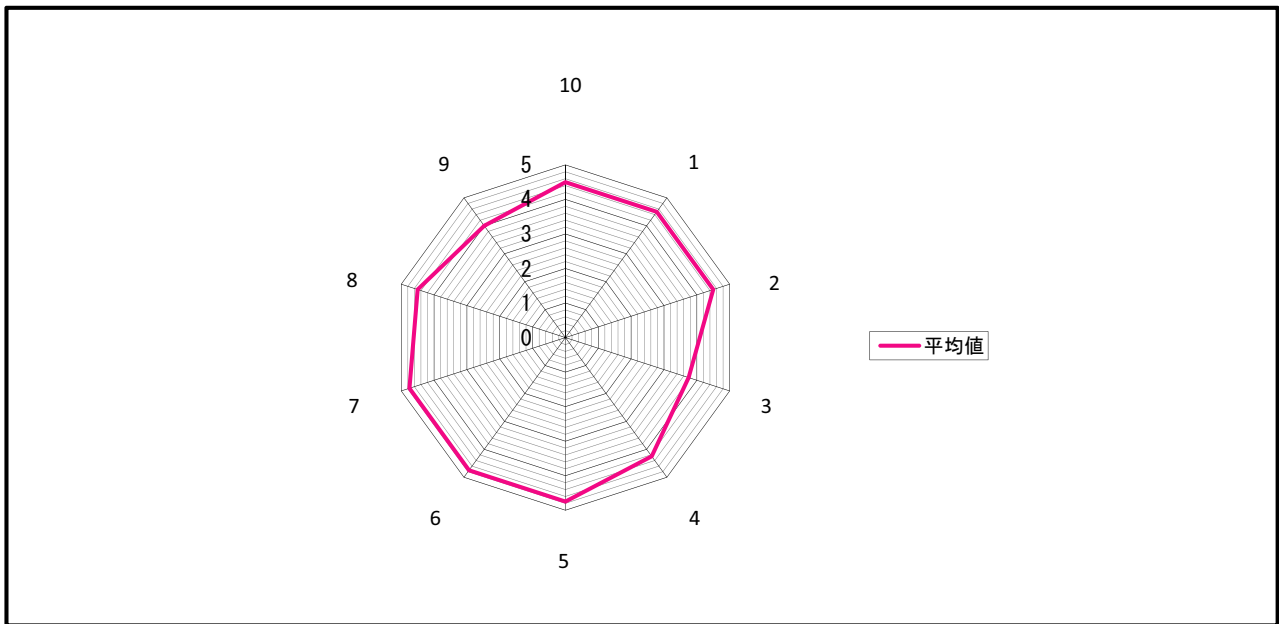
反省すべき点としては、授業予定の可視化が必要であった。シラバス等に明確に示し、学生が予定をたてやすいようにしたい。授業時間を少しオーバーしてしまうこともあったので、授業時間内に終わるように計画的に授業を行っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語文法演習  
 評価実施日 平成23年2月23日  
 担当教員名 永田 良太

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1	1		3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



## 教員のコメント

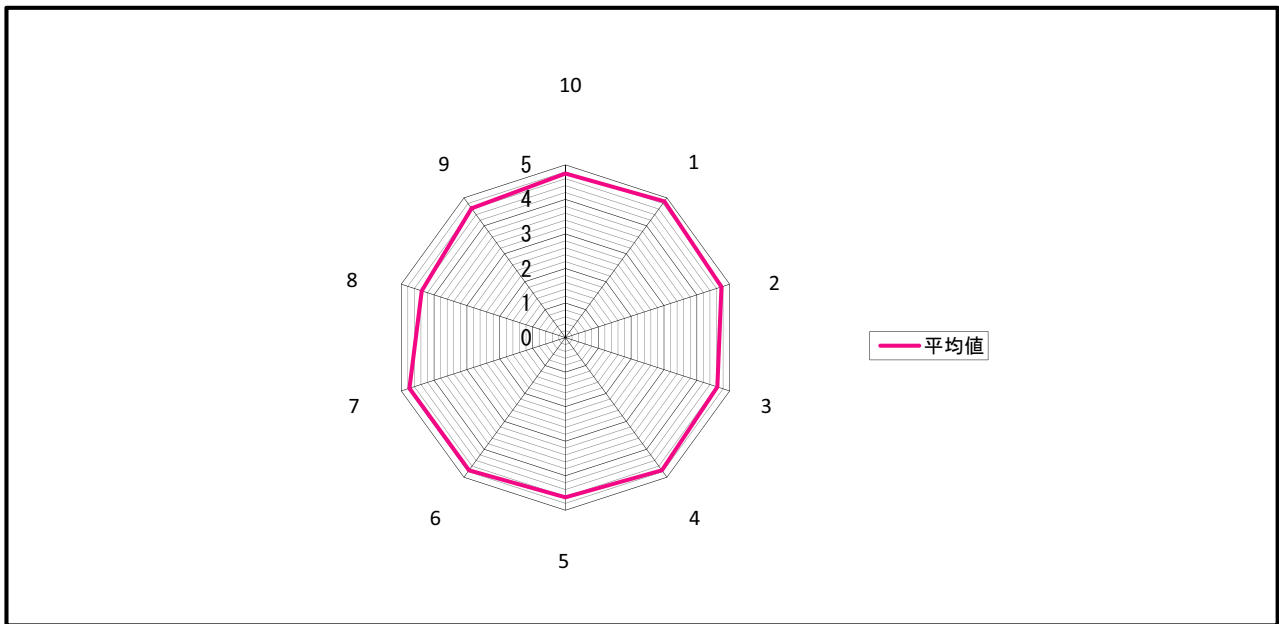
本授業は、論文の講読を通じて日本語の文法についての知識を深めるとともに、文法研究の観点および方法論を身につけることを目標とした。授業では、受講者一人ひとりに論文の内容を紹介してもらうとともに疑問点、問題点を指摘してもらい、それをもとにディスカッションを行い、理解を深めていった。今回の評価結果を見ると、本授業に対して受講者自身も概ね達成感を感じているものと思われるが、項目(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった」に関しては、本授業が実践にどのようにつながるかに関して明示的に示すなど、改善する必要がある。また、項目(9)「授業への主体的な参加」に関して、本授業では講読する論文を事前に配布して、各自で読んだ上で授業に臨むことを求めたが、取り組み方には差が見られたように思われる。今後は授業への主体的・積極的な取り組みを促すような授業作りにも努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語語彙論  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 永田 良太

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



## 教員のコメント

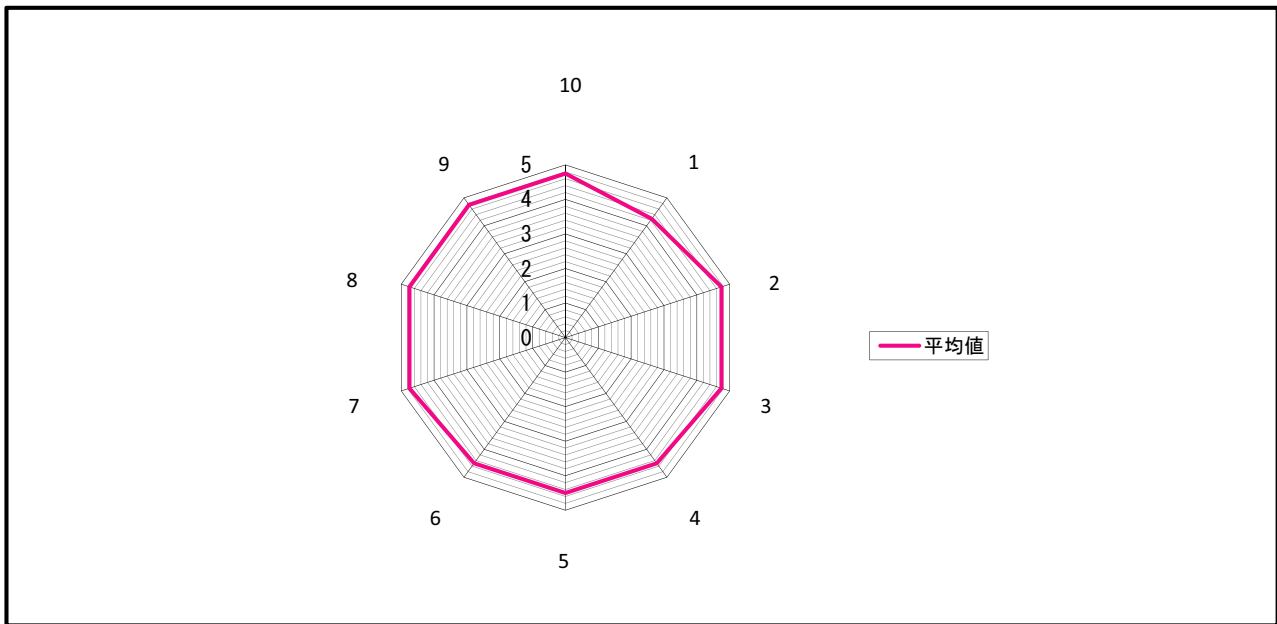
本授業は、普段無意識に使用している日本語の語彙を意識化するとともに、日本語教師として必要な語彙の意味や体系に関する知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で、留学生の参加を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで、日本語の語彙の特徴を明らかにすることができた。また、日本語学習者としての視点からの発言により、習得上の問題点を確認することができた。このような受講者間の相互作用もあり、概ね上記の目標を達成することができた。今後は、項目(5)「授業の進む速さ」、項目(8)「板書や視聴覚機器の使用」、項目(9)「授業への主体的な参加」といった点に留意することで、授業の更なる改善を図っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国語科教育学演習  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 村井万里子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

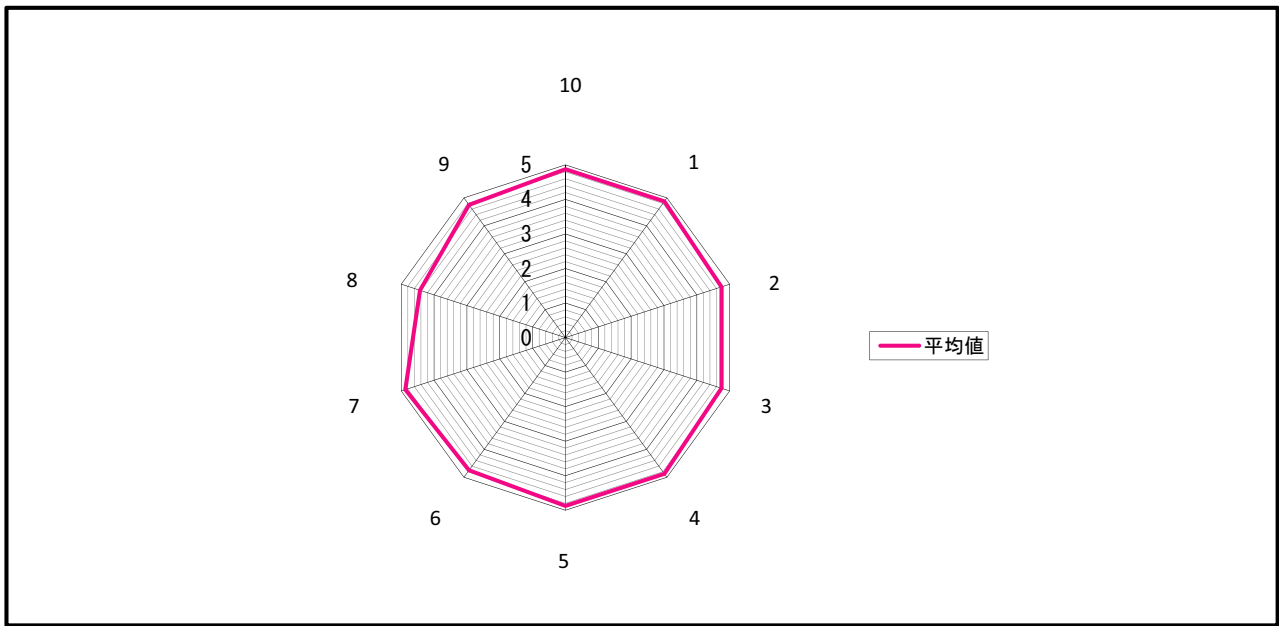
今回は、「大村はま氏の国語科単元学習を、若い世代により近づきやすくするには、どういう資料加工をすればよいか」という課題のもとに、一人につき、3回の演習をおこなった。考察結果は、苅谷夏子氏に送って、これからの仕事に役立てていただく、という目的が明確であったことが、参加者の意欲を維持するのに役立った。  
 自由記述欄に書かれた事柄から一部を引用する。  
 ・発表は準備が大変であったが、その分、実りも大きかった。／・大村先生の全集を読み深めることにつながった。3回に分けてプレゼンを行ったことで、一段階ずつ読み深められることがうれしかった。他の方のプレゼンも勉強になった。／・大村先生のお考えにふれることができ、本当にいい学びを提供していただいたと思いました。これからもどんどん読んでいきたいと思える学習内容でした。／・大村全集を20年前に購入しましたが、これまで読まずにいました。この授業で読み始めて、その指導について細かな配慮がされていることを知り、勉強になりました。

# 結果報告書

授業科目名 国語科授業演習  
 評価実施日 平成23年2月24日  
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7		1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2	1		1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



## 教員のコメント

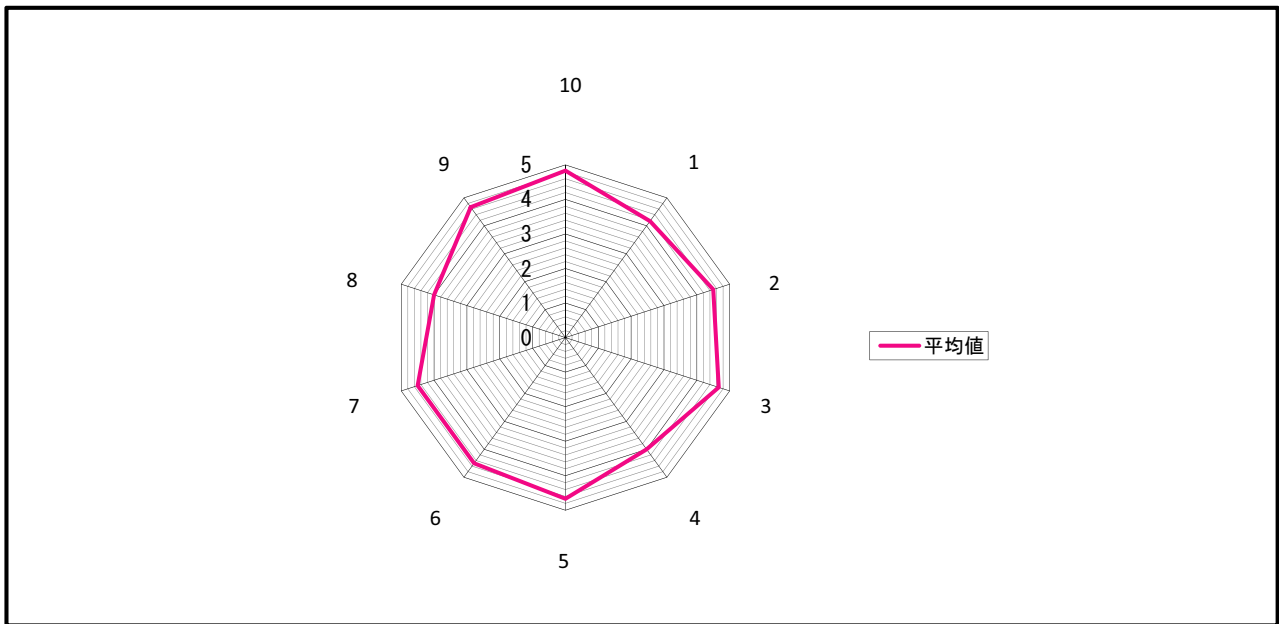
非常に高い評価をしていただきました。受講者が少人数だったうえに、それぞれの問題意識に沿って演習発表をしましたので、発表にも討議にも主体的・積極的に取り組まれていたように思います。授業者としても活発に討議が進んだと感じていましたが、受講者の側でもそのように受けとめておられたようでした。授業者としては、予備知識の有無など、受講生のみなさんが持っておられる背景のちがいに十分配慮しきれなかったように感じることもありましたが、今後、そのような点にももっと配慮し、授業を進めていこうと考えています。

# 結果報告書

授業科目名 国語科教材開発演習  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	2			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	2			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	2			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



## 教員のコメント

総合評価が、4.8であり、「国語科教材開発研究」は、受講生に満足を与えることができたと考える。  
 少人数の演習らしく、「一人ひとりの発表に対し、受講生や先生と話し合いの時間がもてたことがとても勉強になった。」とのコメントがあった。また、少人数の演習ながら、「自分の研究だけでなく、いろんな人の研究を見ること聞くことができ、勉強になった。」「様々なコースの学生と学ぶことが出来た。国語だけでなく、幅広い視点から“伝えること”を考えることが出来、興味深かった。」というコメントがあった。

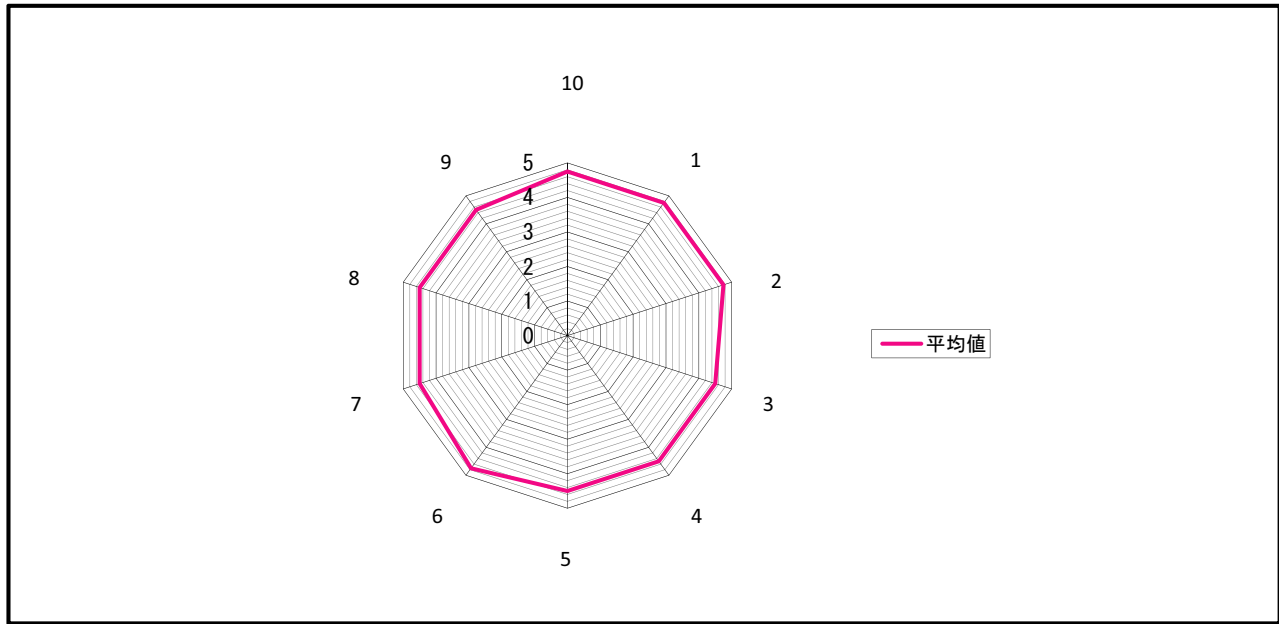
受講生の個人発表を中心とする演習形式の授業であったので、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」の評価は4.0と比較的低い平均値であった。しかし、この授業の問題点は、そうした数値の低さではなく、受講生が6人と少ないことにある。少人数の演習のメリットはあるものの、やはり10名を越える受講生を確保することを目標に、来年度のシラバスを改革する。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育法演習  
 評価実施日 平成23年2月8日  
 担当教員名 小野由美子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



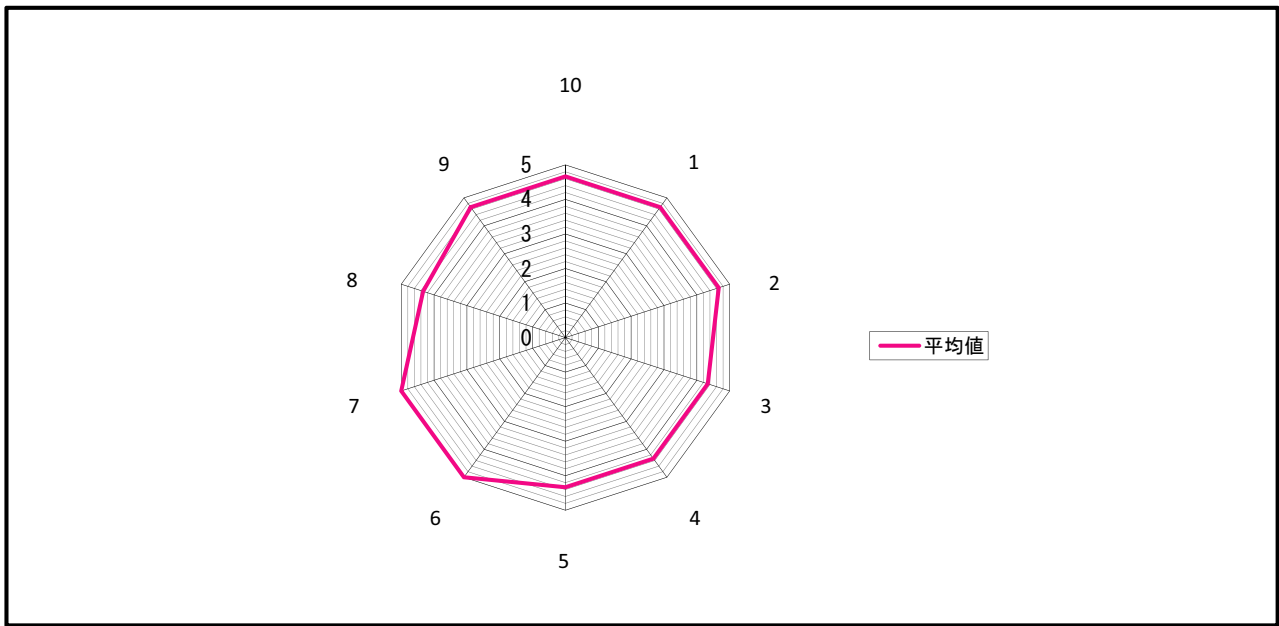
教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 英米文化研究Ⅲ(言語文化研究)  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 杉浦 裕子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



## 教員のコメント

今学期は現代劇を3本扱うという試みで、それぞれに趣向の違った劇を読みながら、かつイギリス現代劇の代表的な作品を講読・分析できたのはよかったと思う。受講生がしっかりした読解力を持っていたからこそ出来た授業であったし、活発な意見交換もできた。ただ、最後に扱った『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』は、5週で扱うにはもてあますほどの中身の濃い作品だったので、これはこの作品一つで半期の授業をしてもよかったと思った。数年後には再び挑戦したい。ちなみに今年度の後期の授業では、別の現代劇を一本に絞って深く扱うつもりである。

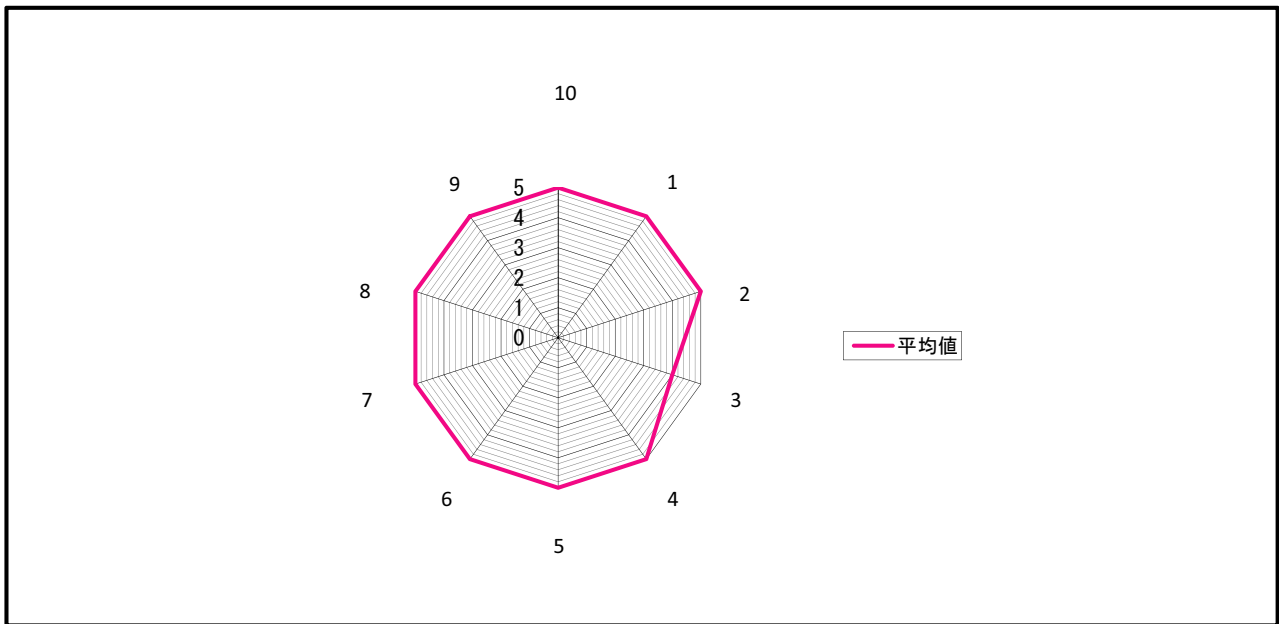


# 結果報告書

授業科目名 学習英文法演習 I  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 眞野 美穂

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

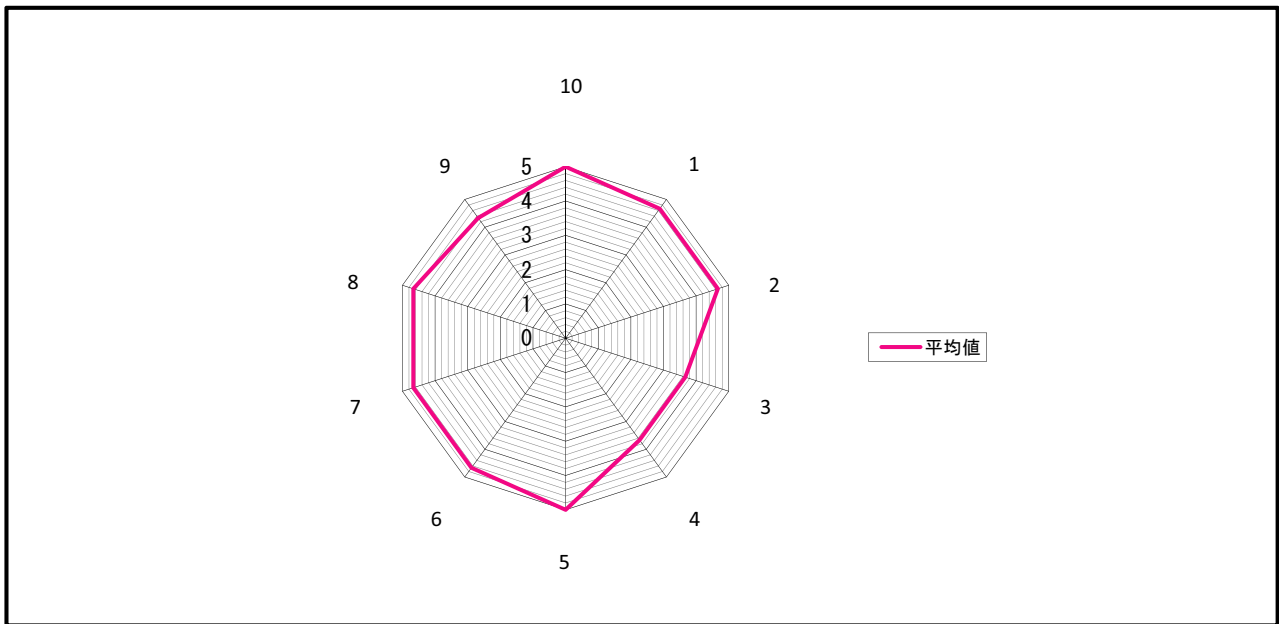
受講人数が少人数のため、統計的なことは言えないが、初めての担当科目かつ専門的な内容のため、理解度などを心配していたが、評価を見ると問題なかったことが分かり安心することができた。内容と分量については、詳細な説明でカバーできたようなので、今後も同様の取り組みを行いたいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 学習英文法演習Ⅱ  
 評価実施日 平成23年2月4日  
 担当教員名 藪下 克彦

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1		1		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		2			3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2				1	5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

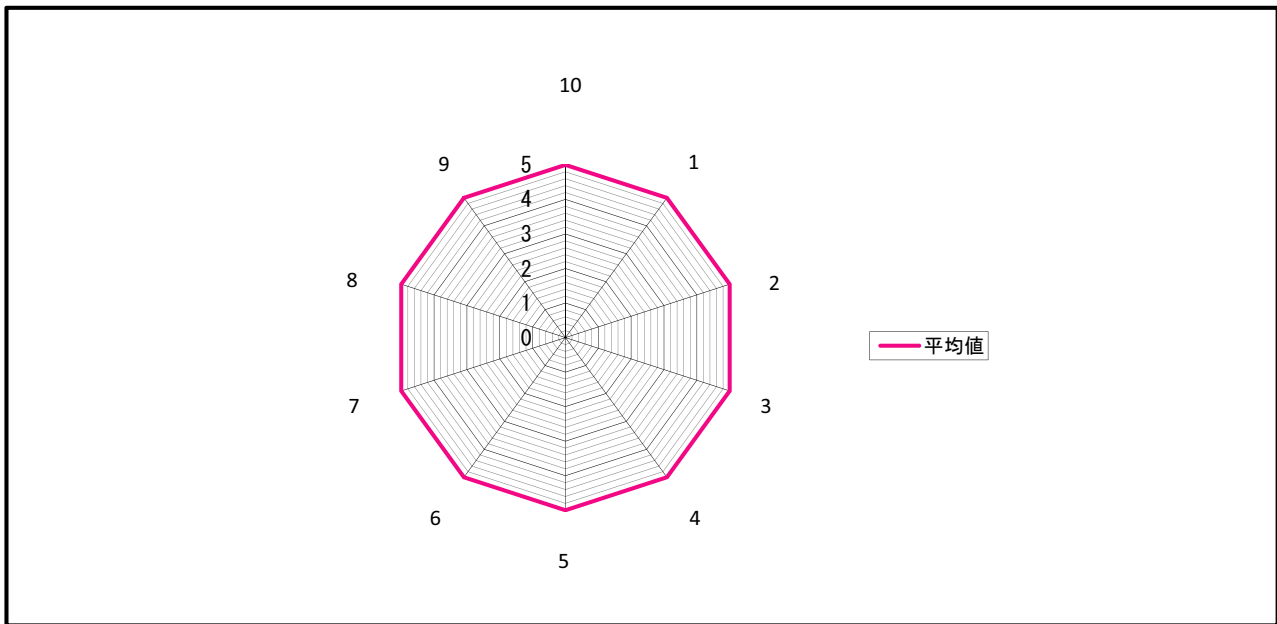
今回、受講生は二人であったが、聴講生の学生の中一人にも授業評価に加わってもらい合計3人に評価してもらった。質問項目(3)と(4)以外の項目においては良好な評価、特に、総合評価において5点満点をもらい光栄であった。しかし、「教師の実践力」の育成と成績評価の方法の説明が課題であることが分かった。本科目は教科教育というよりは教科内容に関するものなので、「教師の実践力」の育成にはあまり関係ないと受講生が思った現れである可能性もあるが、「教師の実践力」とは何か、また、それを育成するにはどうしたら良いかなどの問題を受講生とも話し合いながら考えていきたいと思っている。成績評価の方法に関しては、学期の最初の授業において周知を徹底したいと思っている。

# 結果報告書

授業科目名 英語科教育演習 I  
 評価実施日 平成23年3月4日  
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

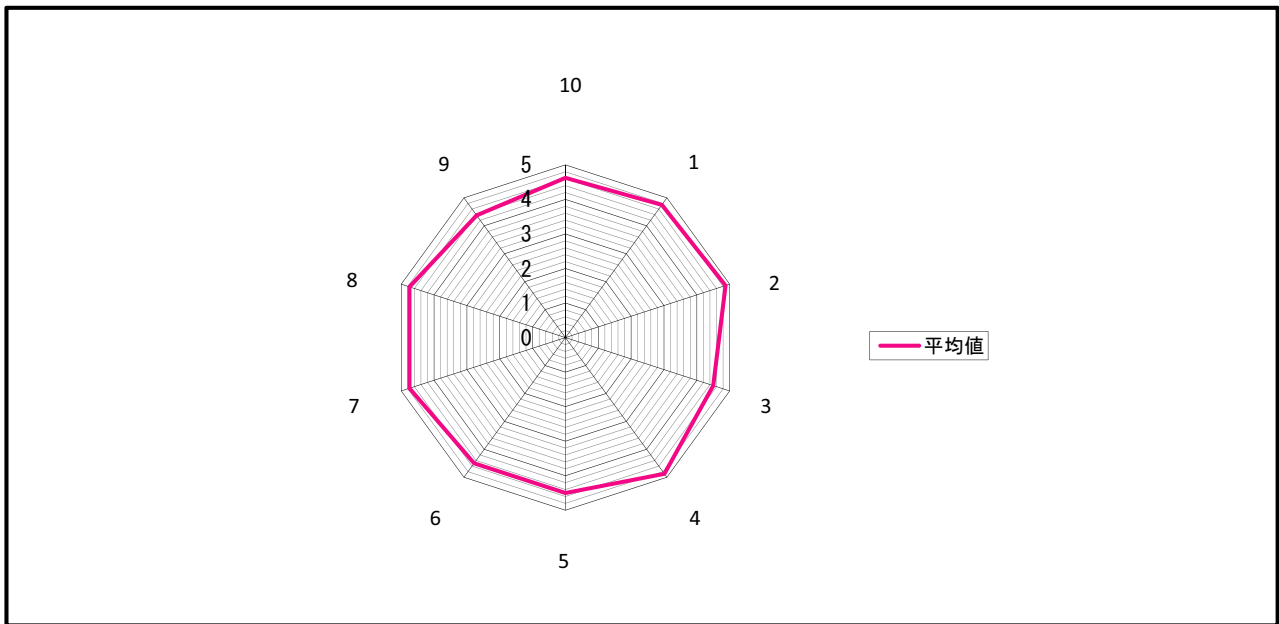
本授業の目的は、第二言語習得研究の最新の動向について、基本的な文献を輪読しながら、理解を深めるとともに日本の学校英語教育の在り方について、討論を交えながら、考察して行くことであった。受講生全員からすべての項目に関して5の評価を得ることができた(平均点5.0)。受講者が少人数であったため、評価において必ずしも率直な評価が得られたかどうか不明であるが、その点を差し引いても、本授業の目的は達成できたものと判断できる。具体的な感想としては、「英語をたくさん読み、そして訳を訂正していただき、読む力が以前よりついたと思う。」「訳するのは大変でしたが、とてもおもしろく、楽しかったです。少し力がついた気がします。」「輪読をしていったので、自分の担当は責任を持って読むようにしたので、少しは読めるようになったかなと思います。先生の説明がとても分かりやすかったので、難しい内容も何とか理解できました。丁寧に指導していただいたのでとても勉強になりました。」という好意的な感想が寄せられた。優れた理論ほど実践的なものはないというのが持論であり、今後も実践につながる理論と理論に支えられた実践の関係を模索していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 英語科教育演習Ⅱ  
 評価実施日 平成23年2月16日  
 担当教員名 山森 直人

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	4				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1		1		4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7		1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1	1			4.6



## 教員のコメント

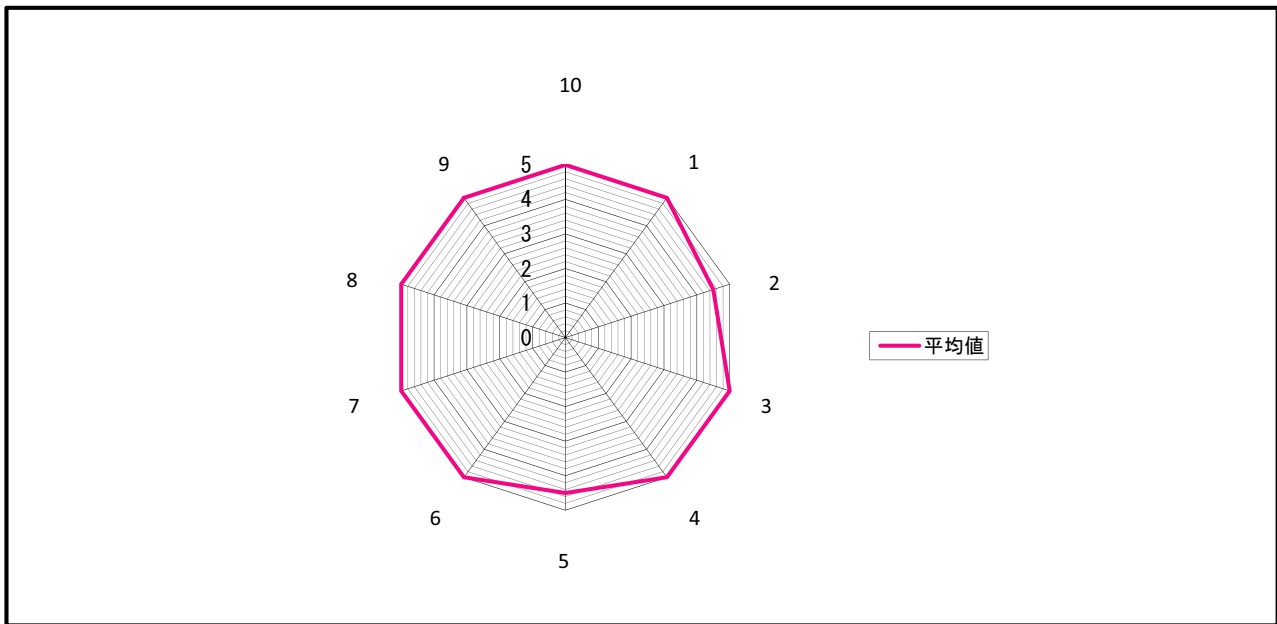
全項目の得点が4以上であることを考慮すると、本授業はおおむね良好だったと考える。その中でも、項目(1)「授業概要は、この授業を適切に表現していた。」(4.4→4.8)と項目(5)「授業の進む速さは、適切であった。」(4.1→4.5)の平均得点が前年度の得点よりも伸びている。前年度は授業内容を一部新しくしたため、受講生にとっては授業全体の一貫性に分かりにくいと思われる部分があったが、項目(1)の得点向上を考慮すると、今回はその点が解消したのではないかと考える。また、項目(5)の得点をふまえると、授業進度は改善されたようである。授業者自身はもう少し内容を精選しつつ、学生による活動場面にさらに含める方向で、より質が高く適度な進度の授業を提供したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 地理学実習  
 評価実施日 平成23年2月27日  
 担当教員名 木原 克司, 立岡 裕士

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

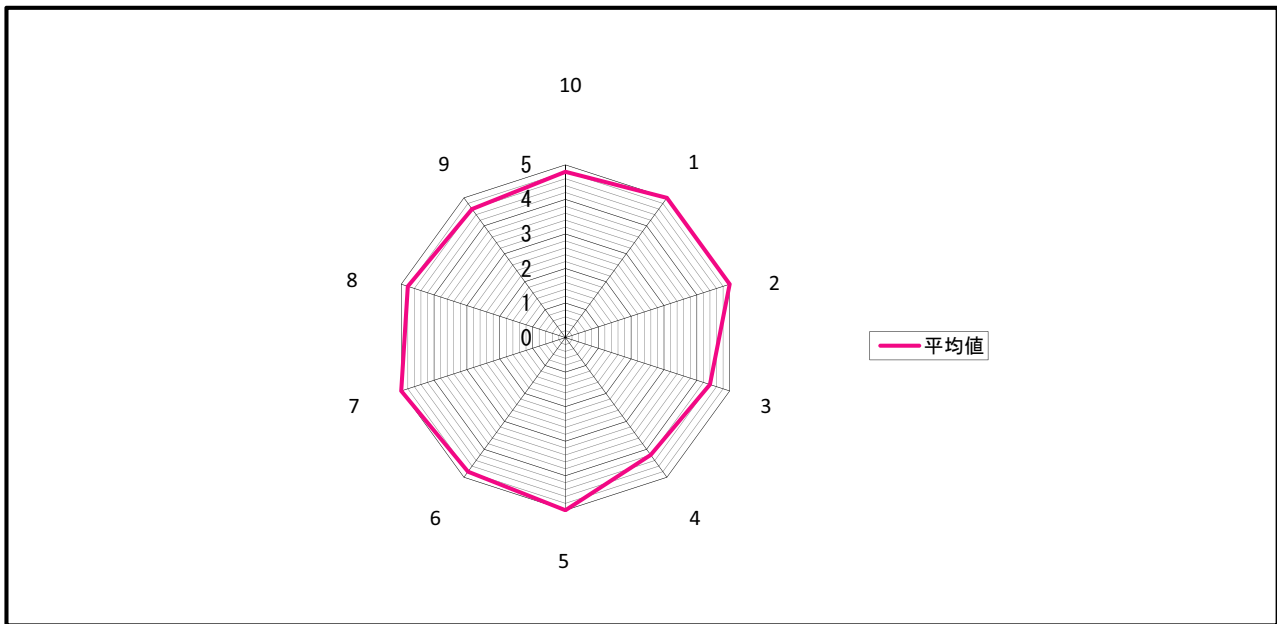
受講学生が地理学専攻の2名であり、授業構成も修士論文作成のための内容(パソコンによる資料分析方法・地図作製方法・統計処理や論文での図・表の作成方法・トレースなど)や地理学専攻生として身につけておくべき初歩的な測量技術などであったこともあり、受講生の評価はすべての項目で極めて高かった。当然の結果であると思える。地理学専攻生以外の学生が受講した場合も、論文作成に向けての技術を中心とした授業内容であることから考えると、ほぼ同じような評価が得られると期待している。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習 I  
 評価実施日 平成23年2月14日  
 担当教員名 大石 雅章

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



## 教員のコメント

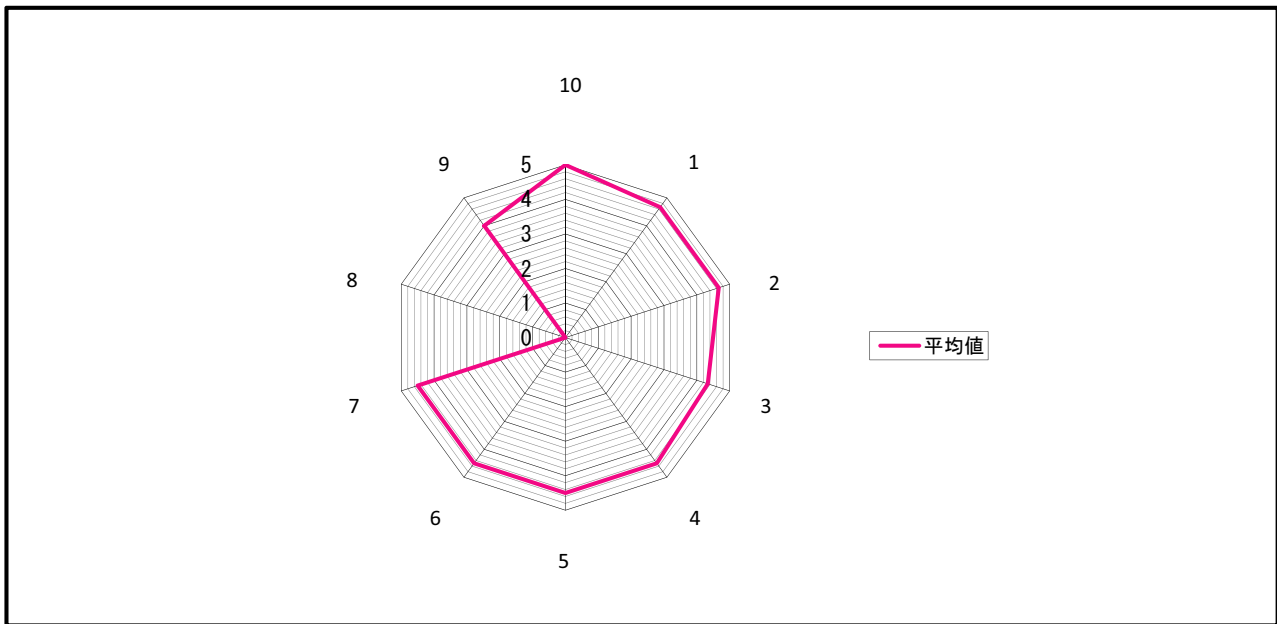
①大学院授業により、教科の専門性を高める授業内容であったため、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」で評価が少し下がった。この点を考慮しながら改善につとめたい。総合評価として4.8の評価を得たことは、受講生がこの授業に一応満足を得たと考える。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅱ  
 評価実施日 平成23年2月3日  
 担当教員名 町田 哲

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1			1	4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1			1	4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1			1	4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1			1	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

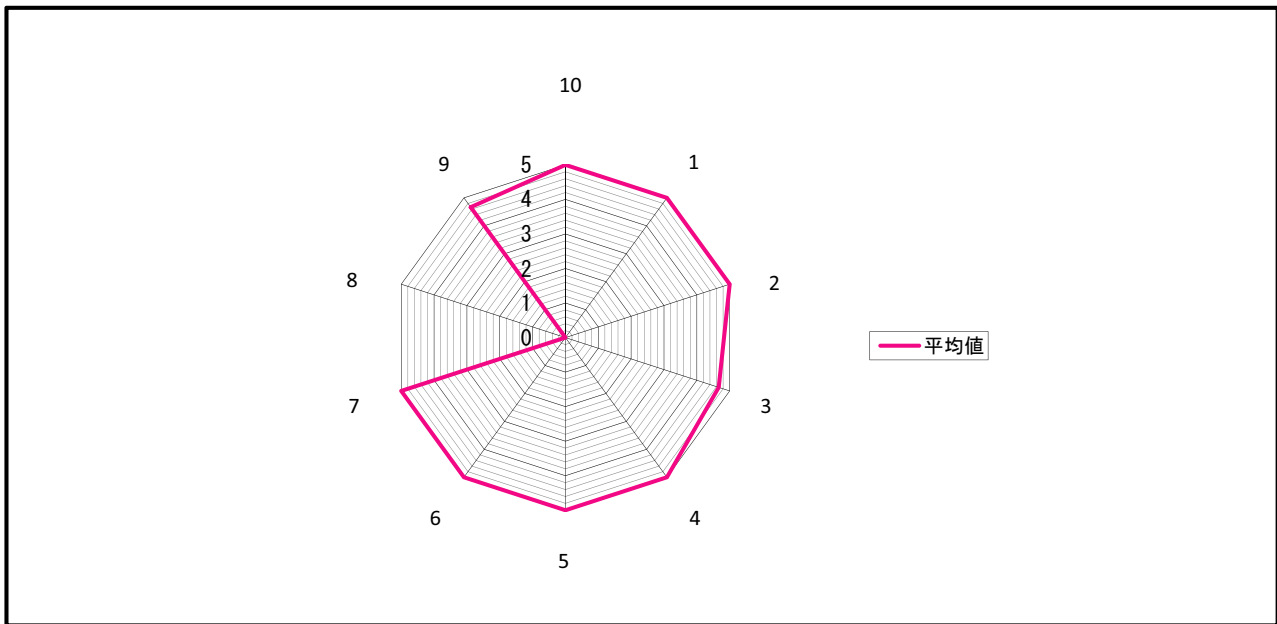
本演習では、ダニエル・ポツマン『血塗られた慈悲、答打つ帝国』（インターシフト、2009年）をテキストとし、これを読み進めながら、日本における近世から近代の転換の意味を、刑罰を窓口に理解した。毎回、予習・報告があったが、参加院生は、これに積極的に参加し、充実した議論を進めることができた。身分制社会、帝国主義、条約改正といった内容を、事象に則して理解したことが、高い評価を得られたことにつながったと考える。こうしたやり方を、今後の演習にも活かしていきたい。なお、本年は受講生が少なかった点が、残念であった。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅲ  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

本授業は受講者が決められたテキストの内容を毎週輪番で報告し、それに基づいてディスカッションする形で進められ、さらに、受講者はテキスト以外にも追加的に配布される関連論文も読んでテーマに対する理解を深めた。全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」の評価となっており、いずれの項目も平均値が「4.7」以上であった点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問2で全員が「5」と評価していたことから、本授業が歴史学(外国史)の専門的知識の習得に役立ったと感じていることが読み取れる。また、内容的に専門性が高いものであった半面、レジュメ作成を数回課したことや受講者自身の意見を積極的に求めたことが「実践力の育成」の評価を高いものにしたと考えられる。最後に、質問10で全員が「5」と評価している点からも、学生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。

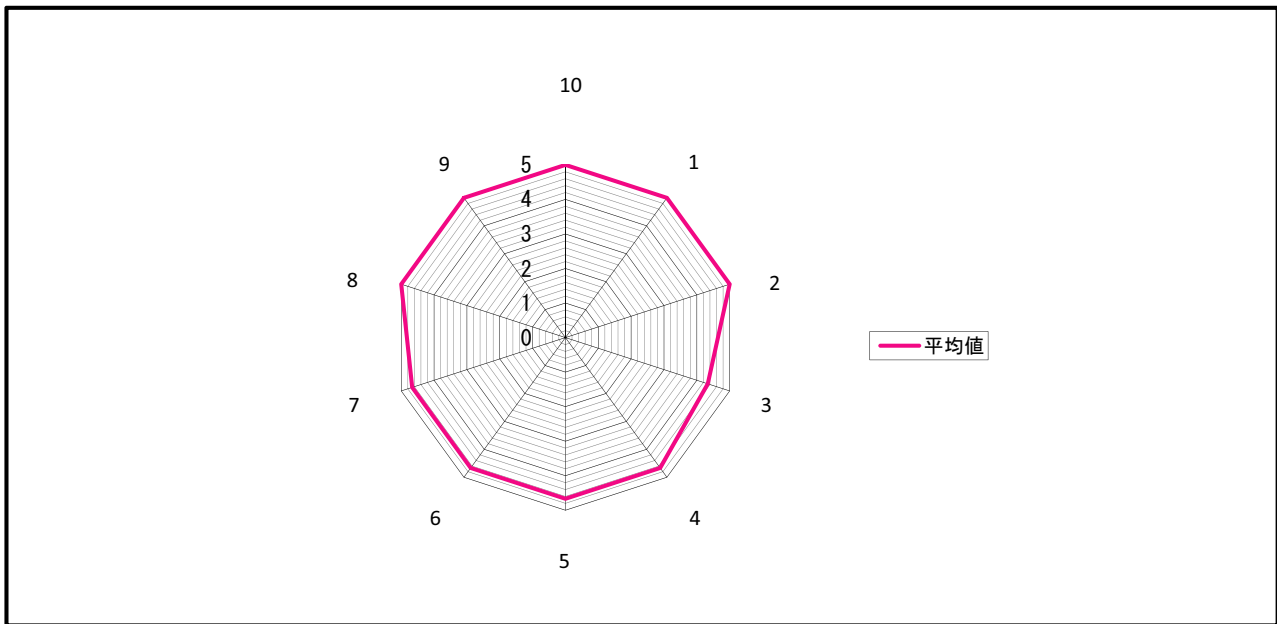


# 結果報告書

授業科目名 地理学研究Ⅱ  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 立岡 裕士

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

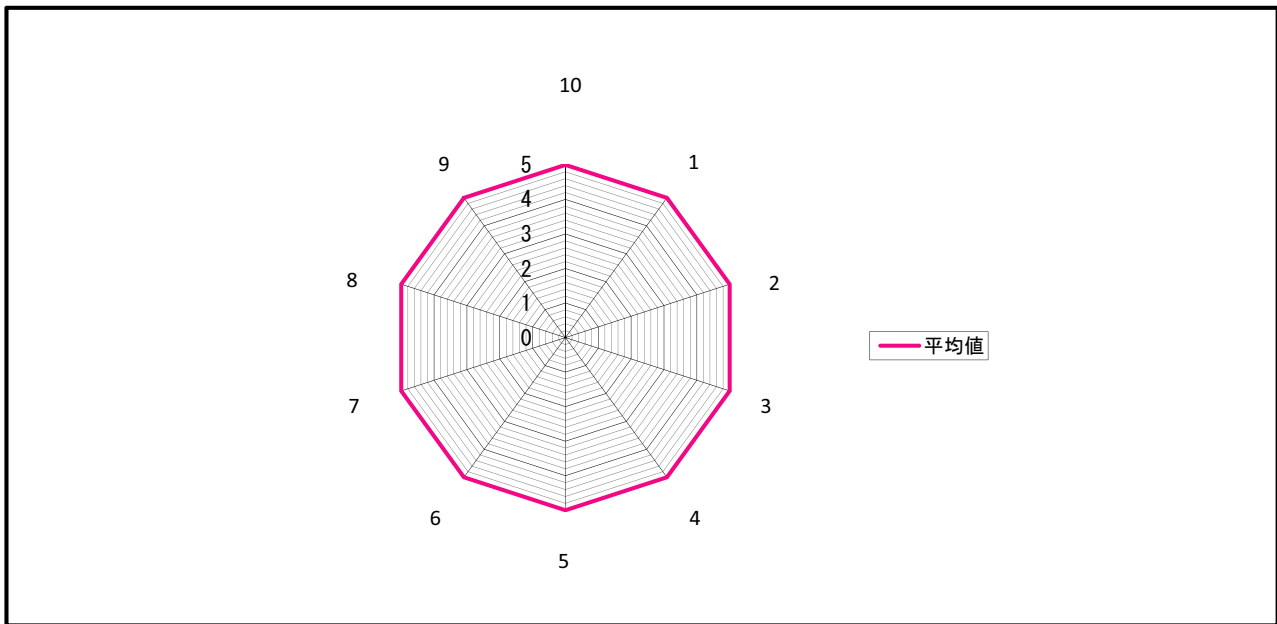
「世界一周の技術の発展がよく理解できた」という趣旨のコメント2件、「視聴覚機器の使用が良かった」という趣旨のコメント1件を得た。受講生が3人のため、理解の程度をはかりながら授業を進めることができたと思う。

# 結果報告書

授業科目名 法学・政治学演習  
 評価実施日 平成23年2月15日  
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

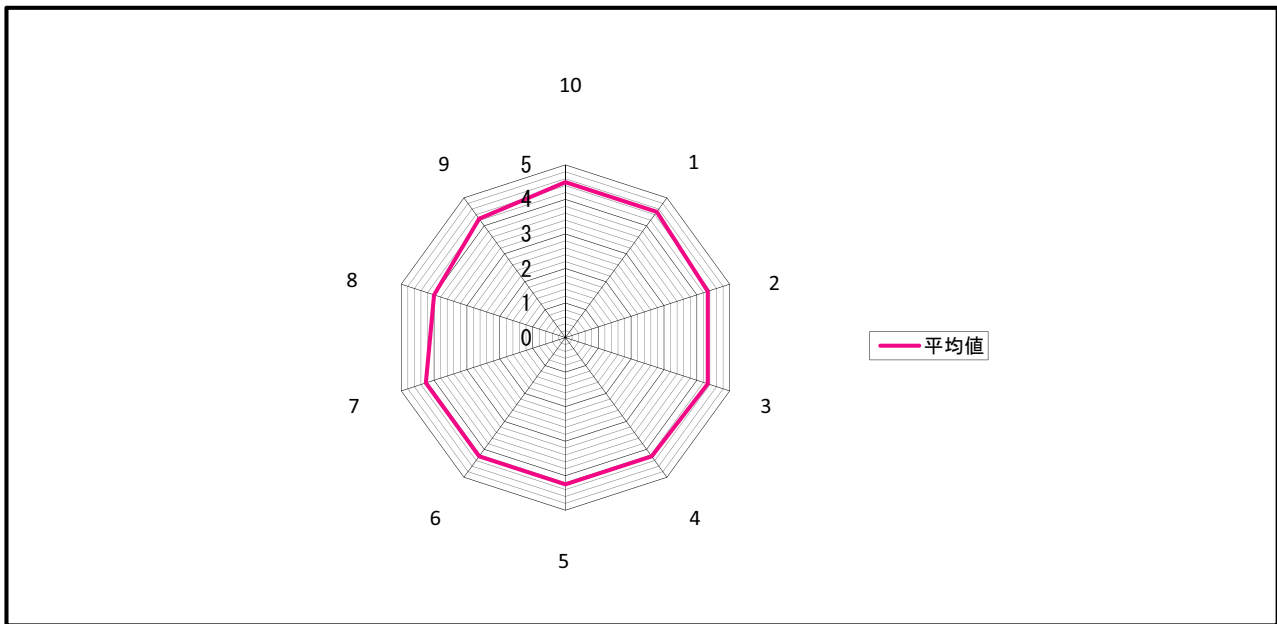
履修者人数が4名という環境下での今年度の「法学・政治学演習」は、アットホームな雰囲気の中でお互いに気持ち良く時間を過ごすことができたように思われる。受講者は各人が積極的な姿勢を維持し、教員のモチベーションを高めることを通じて講義に大いに貢献してくれたように思う。

# 結果報告書

授業科目名 社会科授業研究  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3		1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		1		1	4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1		1	4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3		1			4.5



## 教員のコメント

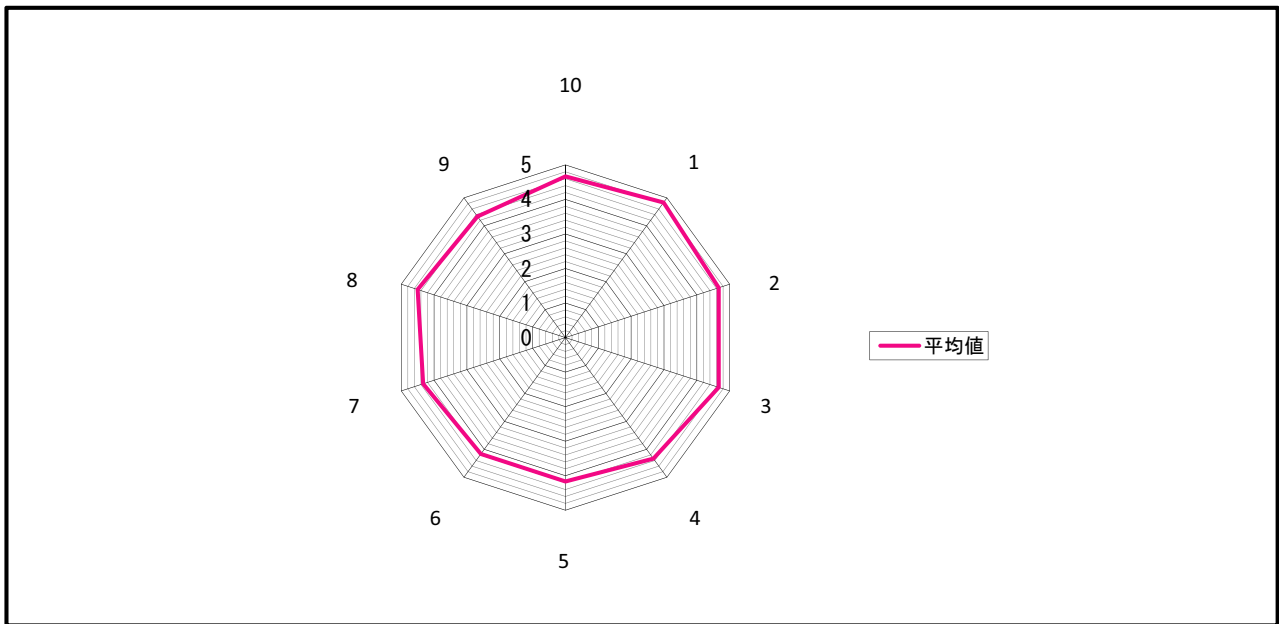
本講義は、①社会科授業研究の方法論を理解し活用できる、②社会認識論を視点にした社会科授業の種類・特色・限界を理解し説明できる、③社会的判断力育成型授業の種類・特色・限界を理解し説明できる、ことを到達目標に展開した。受講生は、全部で6名であった。本講義では、社会科授業の理論を取り上げ検討したが、受講生には、教育現場での授業実践と結んで理論を理解できるよう、小・中学校で実際に行われた授業研究から事例を引くことと、ビデオの視聴等を通じて、可能な限り実践の事実がリアルに伝わるような配慮に努めた。回答者が4名なので、行き過ぎた一般化は慎まねばならないが、授業内容に対する評価や総合評価から判断すると、本講義の目的・内容は、概ね受講生から意義あるものとして評価されたとみることができる。

# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と社会認識教育  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 井上 奈穂

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	4				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	2			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	4				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



## 教員のコメント

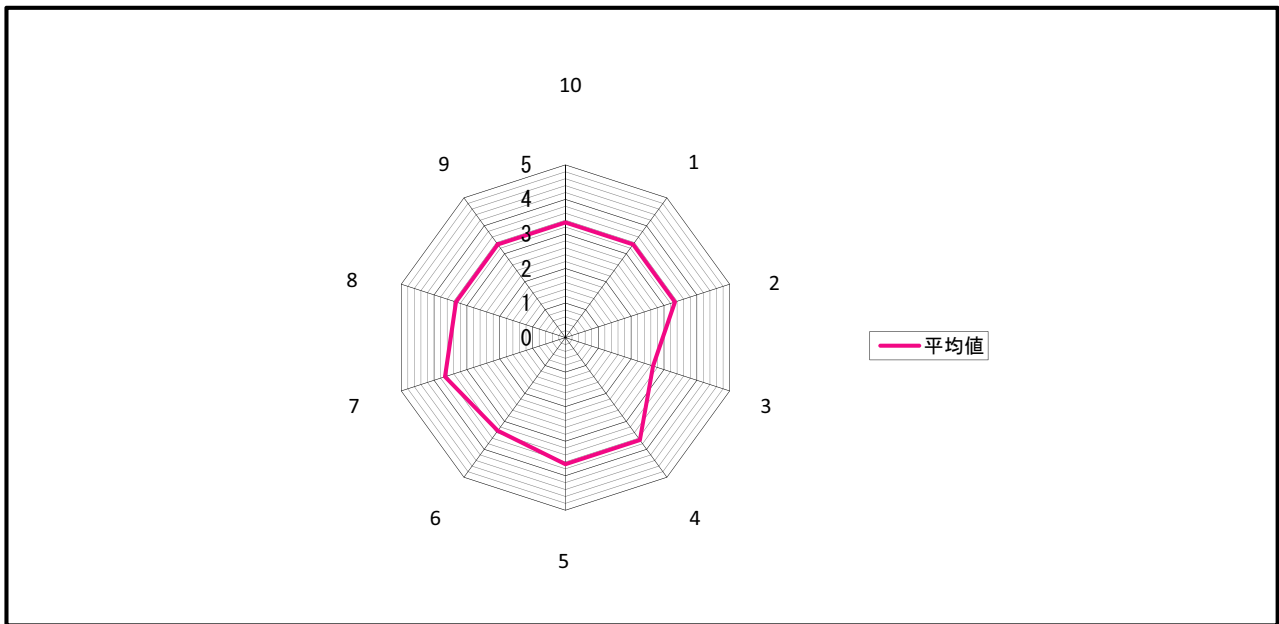
回答を含めた10項目全体の平均は4.4であった。カテゴリー別にみると、「授業の内容について」の3項目は4.7、「教員の授業の進め方について」の5項目は4.3となっており、教員の授業そのものについては一定の評価を得たと考えられる。また、「あなたの授業への取り組みについて」の項目も4.3、「総合評価」も4.7であり、総合的にも一定以上の評価を得たと考えられる。本授業は、社会科の授業を事例に、授業検討会と学習評価のあり方を相互に検討することを目的としていた。そのため、社会科の授業についての講義とその検討を行う演習を交互に行うものであった。その意味で、受講生が積極的に取り組んでおり、満足度も高いことから、本授業の目的を概ね達成できたと考えられる。しかしながら、「テキストもしくはテキストに準じる資料があれば・・・」があった。授業者としては、いくつかの授業の形態を並列的に示したつもりであったが、結果的に、それらを俯瞰できるような資料の提示が不十分であった点から来る指摘ではないかと言える。以上の点を、次回の授業改善につなげたい。

# 結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅲ(公民領域)  
 評価実施日 平成23年2月28日  
 担当教員名 井上 奈穂

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		1	2			3.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1	1		3.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			2	1		2.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	1			3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2	1			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2		1		3.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1		1		3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2		1		3.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	2			3.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1		1	1		3.3



## 教員のコメント

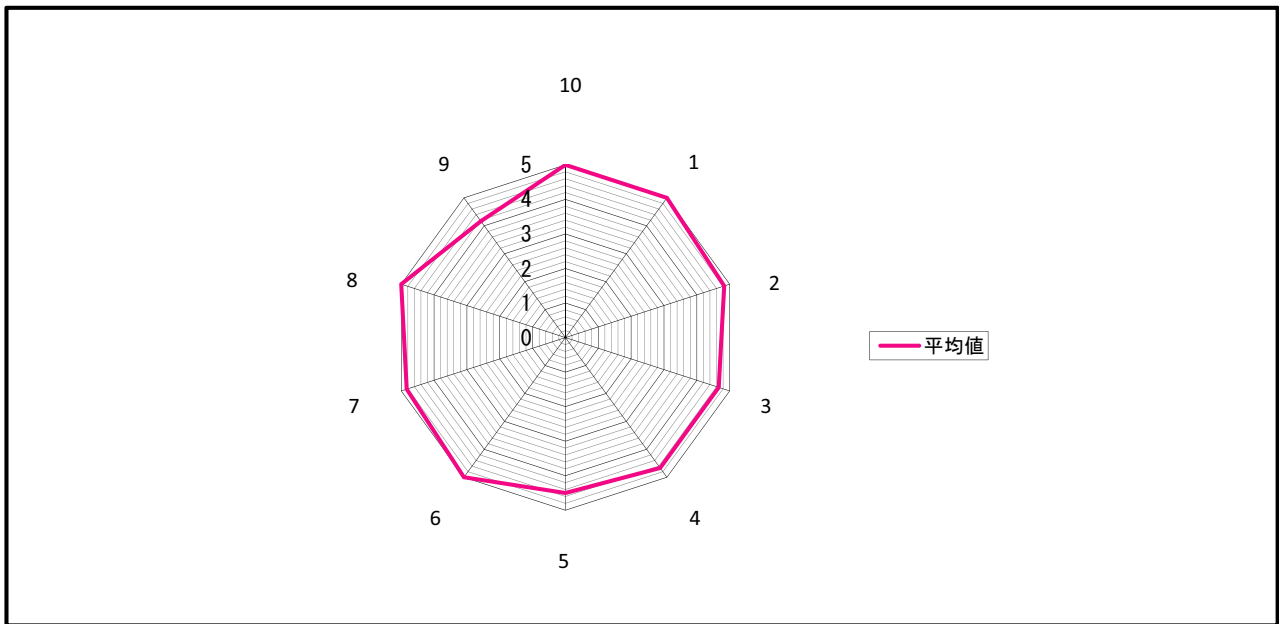
アンケートの回答学生数が3名であり、統計的な処理を行うのに適切な人数ではない。そこで、平均点ともに学生の回答により、来年度に向けた改善点を導きたい。アンケートに示されている10項目全体の平均は3.4であった。カテゴリー別に見ると、「授業の内容について」の3項目は3.1、「教員の授業の進め方について」の5項目は3.5となっており、教員の授業そのものについては一定の評価を得たと考えられる。また、「あなたの授業への取り組みについて」の項目も3.3、「総合評価」も3.3であり、総合的に一定以上の評価を得たと考えられる。授業では、社会科の授業分析のための理論的枠組みを演習を通して学習するというものであった。また、後半は、大塚製薬へ工場見学を行った。これは、前半の理論的な学習と後半の体験的な学習を結びつけることを意図してのものだった。しかし、個々の演習・見学に関しては学生の記述から、一定の評価を得ていると推察されるが、その割に、学生の満足度が高くないことから、それらの関連性を示すという点で不十分だったのではないかと考えられる。以上の点を、次回の授業改善につなげたい。

# 結果報告書

授業科目名 幾何学研究  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1			1	4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



## 教員のコメント

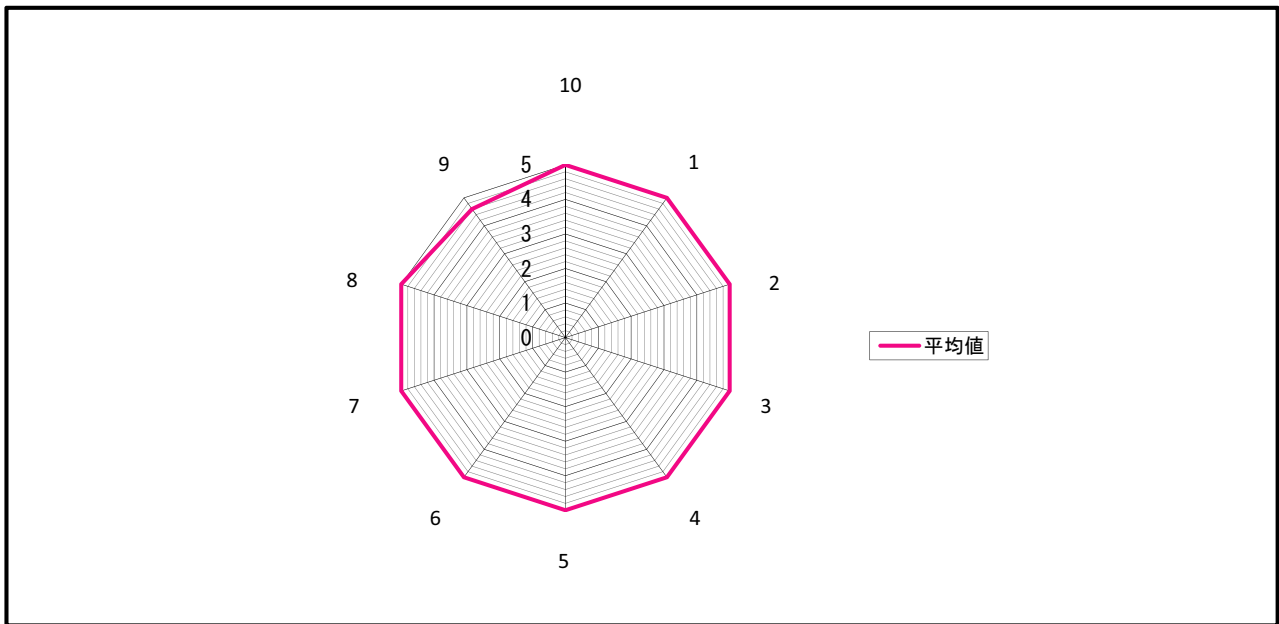
各項目の評価平均値は、4.2から5.0の間に分布し、総合評価も5.0であり、受講生からの評価は良好であると思われる。自由記述の「良かった点」欄には、以下の回答があった。「とても具体的な話題が良かった。先生になった時に直接的に教材・教具として使える話題が豊富でとても良かった。」、「The subject was really interesting and quite new for me. The paper folding I was a little bit familiar, but here we study it deeply and find how we fold and what happens with each crease. I really learned many things from it.」, 「This course is very benefit for me, because in the class we have practice a lot, by making teaching materials, example, paper folding. So we can use simple paper to make teaching materials. I also learned many mathematic knowledge in this course.」。「その他感想」欄には、「とても楽しい授業有難うございました。」との回答があった。改善点欄には回答が無かった。

# 結果報告書

授業科目名 幾何学演習  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



## 教員のコメント

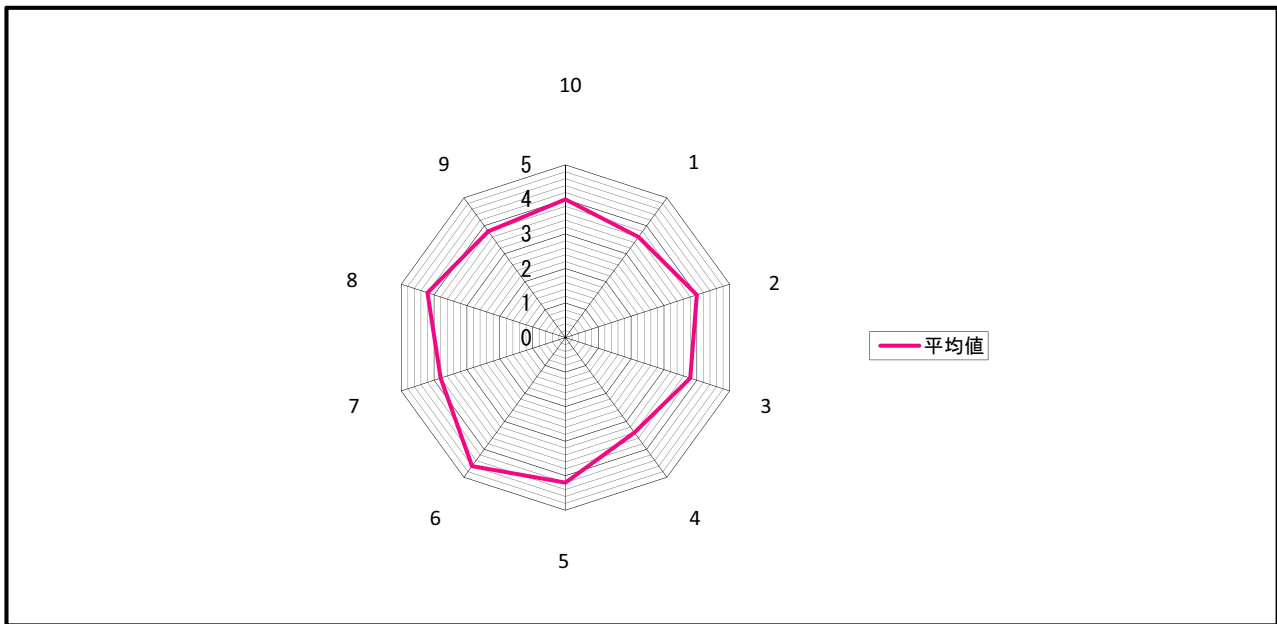
各項目の評価平均値は、項目(9)が4.6であった他は、すべて5.0で、大変高い評価であった。自由記述の「良かった点」欄には、以下の回答があった。「演習スタイルでとても楽しかった」、「This class was very practical and we learned a lot. We have made different movable shapes which can make vary easy to prove mathematical shapes and theory. The teacher was very kind and helpful.」、「This course is good for me, because I learn math knowledge by practice doing some activity and make teaching materials. I believe I can use this knowledge to teach in my country, because use simle teaching materials.」、「その他感想」欄には、「とても楽しい授業有難うございました.」、「I found this curse, specially for mathematics teachers and educators, I hope to continue this course for future.」との回答があった。改善点欄には回答が無かった。

# 結果報告書

授業科目名 解折学研究  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2	1	1		3.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1	2			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	2			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1		1	1	3.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	2			3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3		1		3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1	2			4.0



## 教員のコメント

こちらが与えた課題に対し、学生が中心となって調査・研究を行い、それを発表するという形態をとった。聴衆の立場に立った学生は積極的に質問を行い、それに対し直ちに説明は行わず、できるだけ学生の間で議論を行って解決するようにした。こちらは、どうしても解決に至らなかった場合にヒントを与えたり、間違った方向に進んだときにコメントを与えるにとどめた。その結果、自ら解決しようとする態度や、新たな問題点を見いだそうとする姿勢が現れてきたように思われる。自由な発想で発言できるよう、できるだけ各人の発表を尊重して進めたため、成績評価については不明確と感じられたのかもしれない。その結果が(4)の成績評価の方法の説明の項が3.4となってしまった。その他においてはおおむね満足な結果であると評価される。わずか5名の授業であったにもかかわらず、よかったと思われる点において、「たくさん演習ができた。」「とても詳しく説明して頂けてとても分かりやすかったです。」と評価される一方で、改善すべきと思われる点で「もっと分かりやすく説明してほしい」と相反するコメントがあり、全員の学生が満足する授業を行うことがいかに難しいか感じられる。ただ、学生を中心として進めた結果が、「楽しかった。」とのコメントもあった。

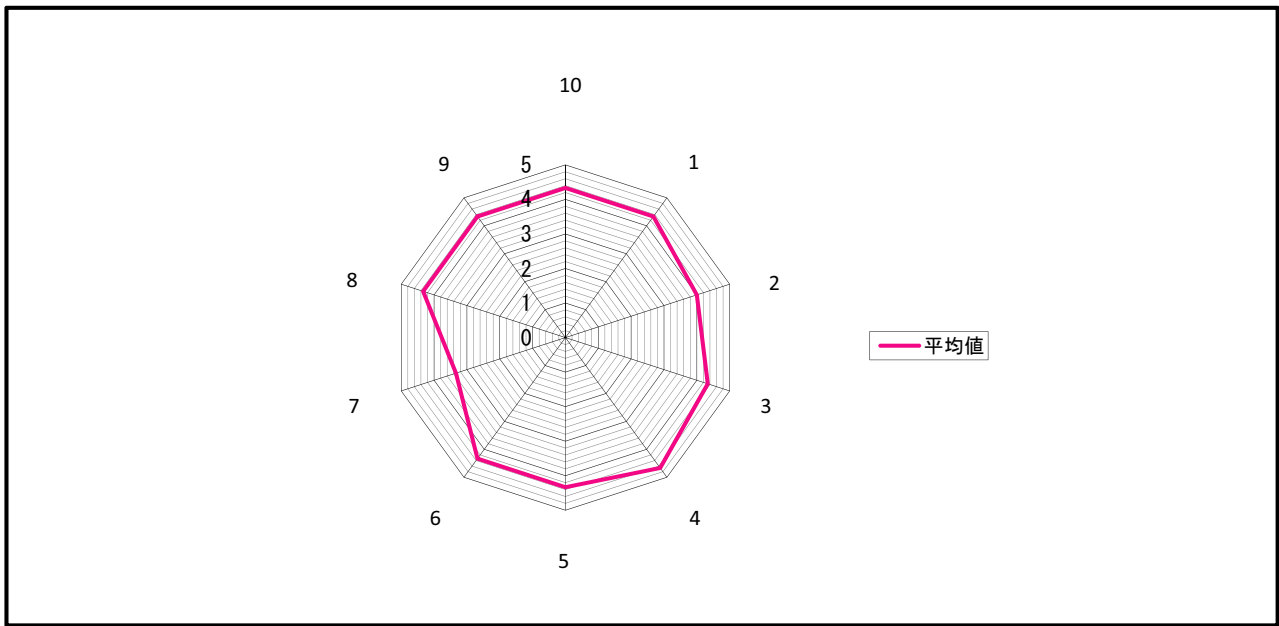


# 結果報告書

授業科目名 解折学演習  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2		1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2			1		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2		1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1		1	1		3.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2		1			4.3



## 教員のコメント

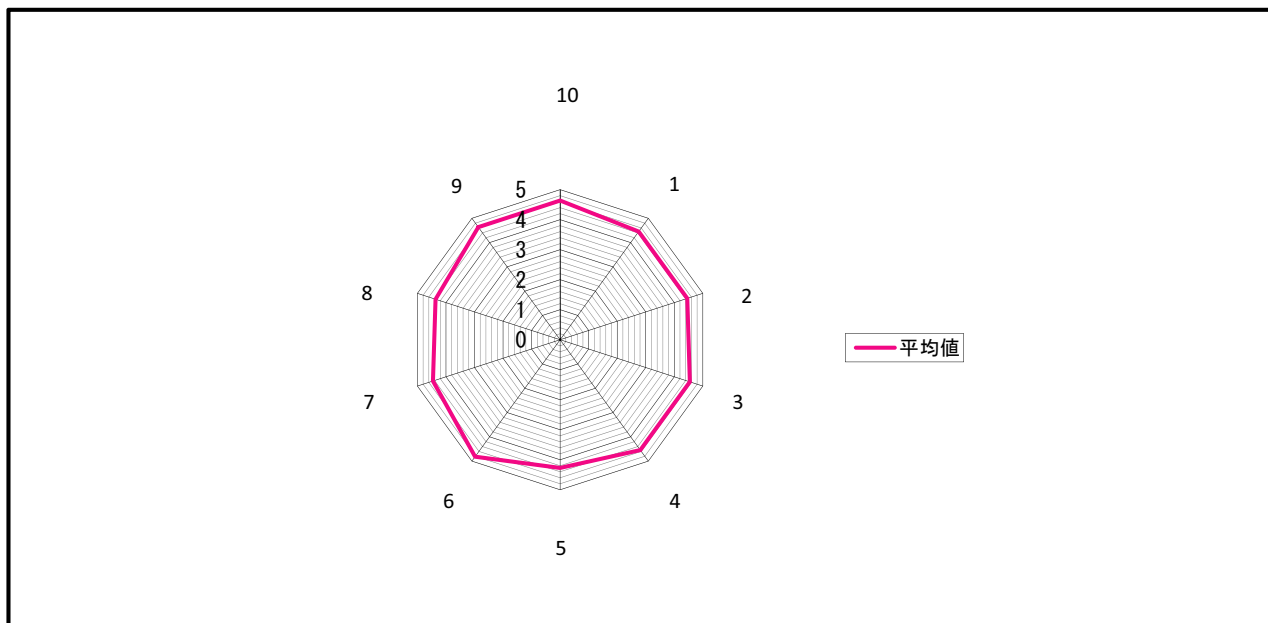
学生の自主的な研究態度を養うことを大きな目的として演習を行った。そのために、前半では毎時間学生が興味を引いたテーマに関して調査・研究を行ったものを時間内に解説させ、それに対して他の学生が質問やコメントを行うという形態をとった。学生は非常に熱心に準備を行い、その発表に対しても白熱した議論を行った。特にテーマを学校教育と密接に関係のある話題に選んだため、強く興味を持って取り組むことができたようである。後半では学校数学において思考力を鍛えるのに重要だと思われる、作図問題、等積問題、等周問題に関するトピックを演習として取り扱った。柔軟な考え方を養う問題であり、学生も興味を持ち、コメントでは、「作図問題がとてもおもしろかったです。」「作図問題がたくさんできた。」「頭を使う数々の作図をありがとうございました。」との記述があった。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教育学演習  
 評価実施日 平成23年2月15日  
 担当教員名 齋藤 昇, 秋田 美代

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	3	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2	3			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10		1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	6				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	4				4.6



## 教員のコメント

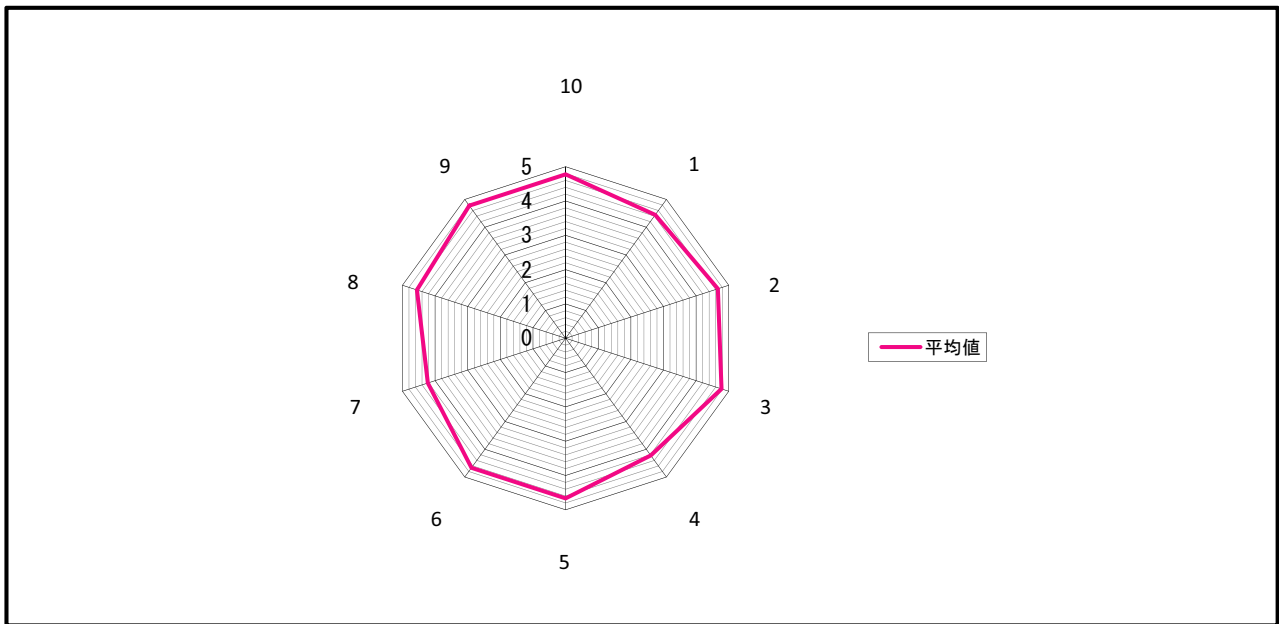
本授業の主な目標は、前期の「数学科教育学研究」の授業内容を基盤として、受講者に算数・数学学習において基礎的・基本的な内容をしっかりと定着させて創造的思考を活性化するための原理と指導方法を獲得させ、授業実践力を高めることである。  
 この授業に対する受講者の評価平均値は4.5、総合評価は4.6であった。評価平均値が高かった質問項目は「(6)受講生に分かりやすく説明した」、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」であり、評価平均値が低かった質問項目は「(5)授業の進む速さは、適切であった」、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」であった。  
 記述による回答では、「数学の評価に対する理解を深めることができた」、「教材開発についてよく学べた」、「創造性について最先端を知ることができた」等の内容が記載されていた。記載の内容から、受講者が、評価・教材開発に対する認識を深め、授業実践力を高めたことがうかがえた。  
 以上の各質問項目に対する評価、及び記述による回答から判断して、本授業の目的は概ね達成できたと判断できた。

# 結果報告書

授業科目名 数学科授業研究  
 評価実施日 平成23年2月24日  
 担当教員名 佐伯 昭彦

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	3	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8		1			4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3			1	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	3				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3	2			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



## 教員のコメント

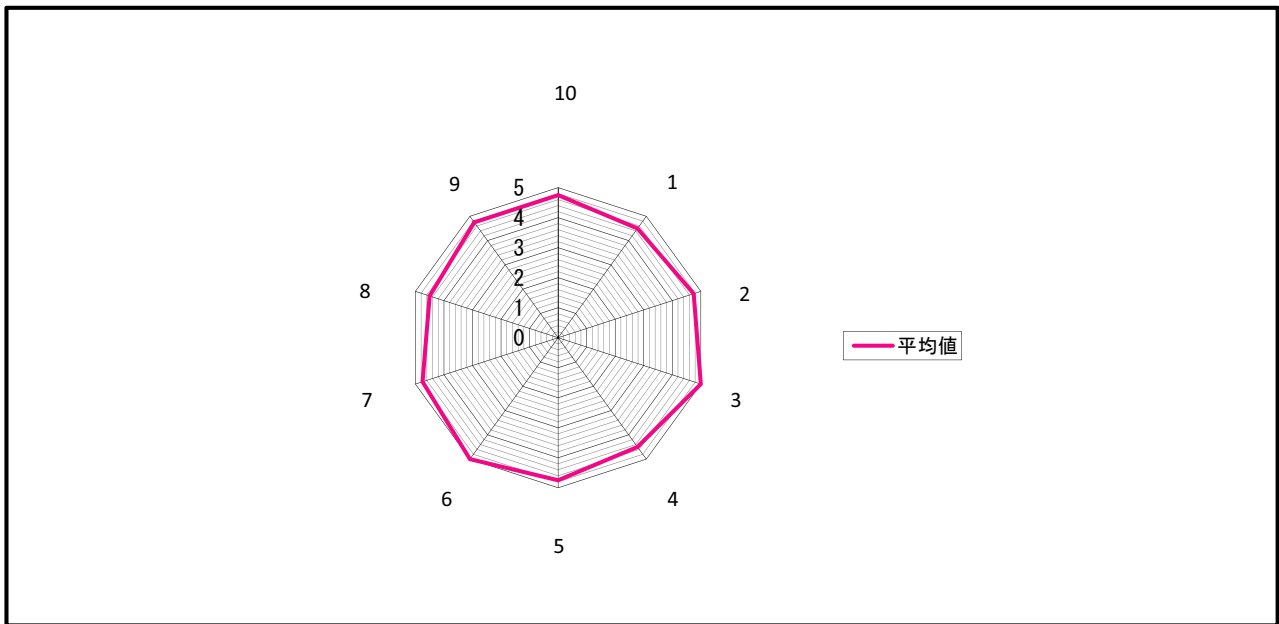
大学院の授業は、初めてであり模索しながらの授業であったが、全項目を通じて「4」以上、総合評価では「4.8」という高評価を得ることができた。これは、各課題に対して学生たちが興味・関心を持って取り組んでくれたこと、授業は学生主体による活動をもとに自由に議論できたことが大きな要因であったと考える。また、留学生が3名受講したため、日本の学生とのコミュニケーションに少し難はあったが、日本と海外との教育方法の違いを知ることができたとの感想が見受けることができた。以上の結果から、本授業の内容は受講生にとっておむね満足できるものであったと結論づけることができるであろう。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教材開発演習  
 評価実施日 平成23年2月16日  
 担当教員名 齋藤 昇, 秋田 美代

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

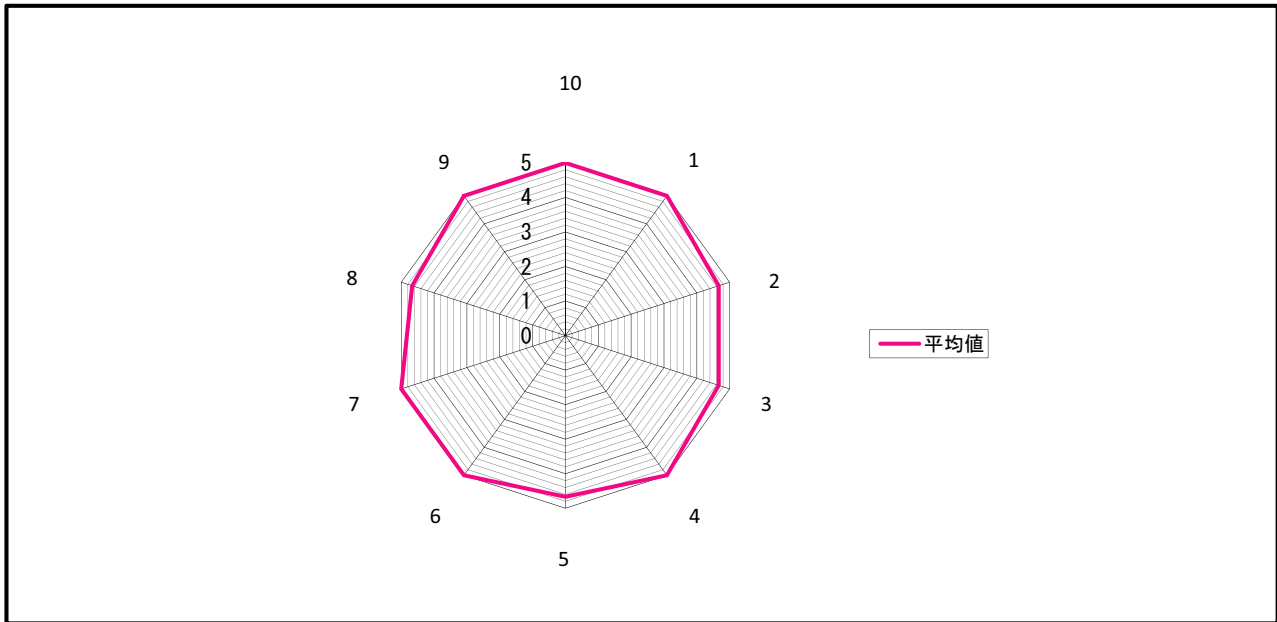
本授業の主な目標は、前期の「数学科教材開発研究」の授業内容を基盤として、生徒の思考力や創造力を育成する数学教材について探究し、数学科における教材の活用方法・開発方法についての理解を深めることである。  
 この授業に対する受講者の評価平均値は4.7、総合評価は4.8であった。評価平均値が高かった質問項目は「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、(6)受講生に分かりやすく説明した、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、(7)教科書や配布された資料は、適切であった、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」であり、評価平均値が低かった質問項目は「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」であった。  
 これらのことから、受講者が授業に主体的・積極的に取り組んで、教材開発に対する認識を深め、教材開発能力を高めたことがうかがえた。  
 以上の各質問項目に対する評価から判断して、本授業の目的は概ね達成できたと判断できた。

# 結果報告書

授業科目名 原子物理学特論  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 松川 徳雄

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



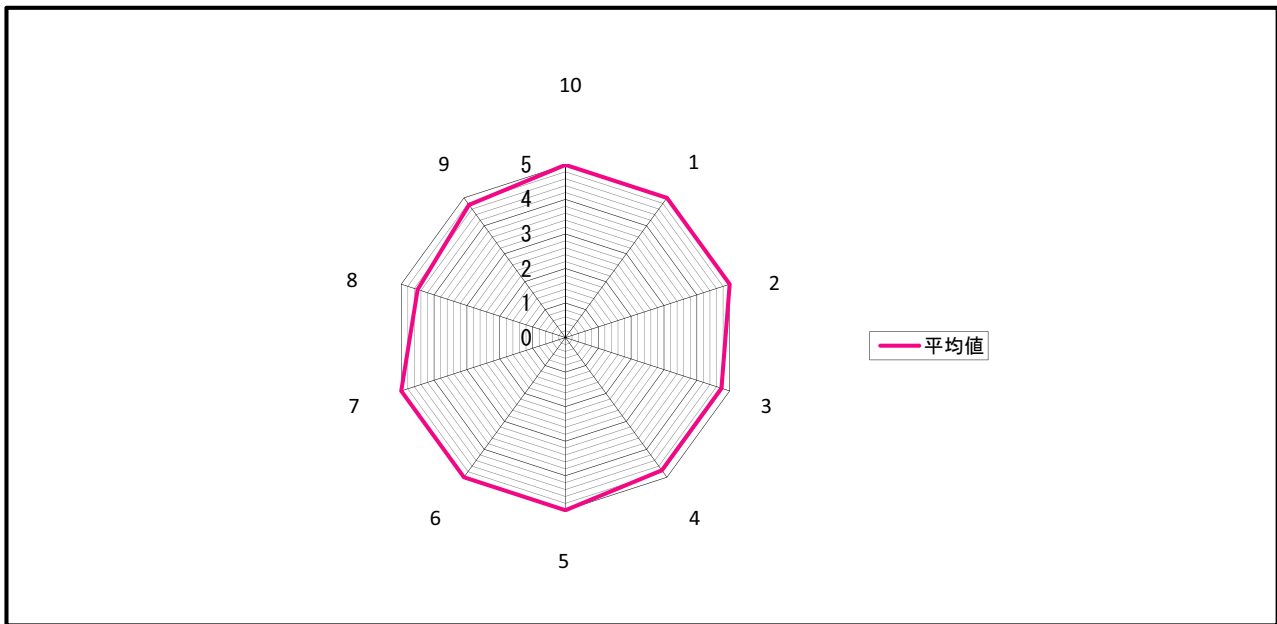
教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 細胞生物学特論  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 米澤 義彦, 佐藤 勝幸

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



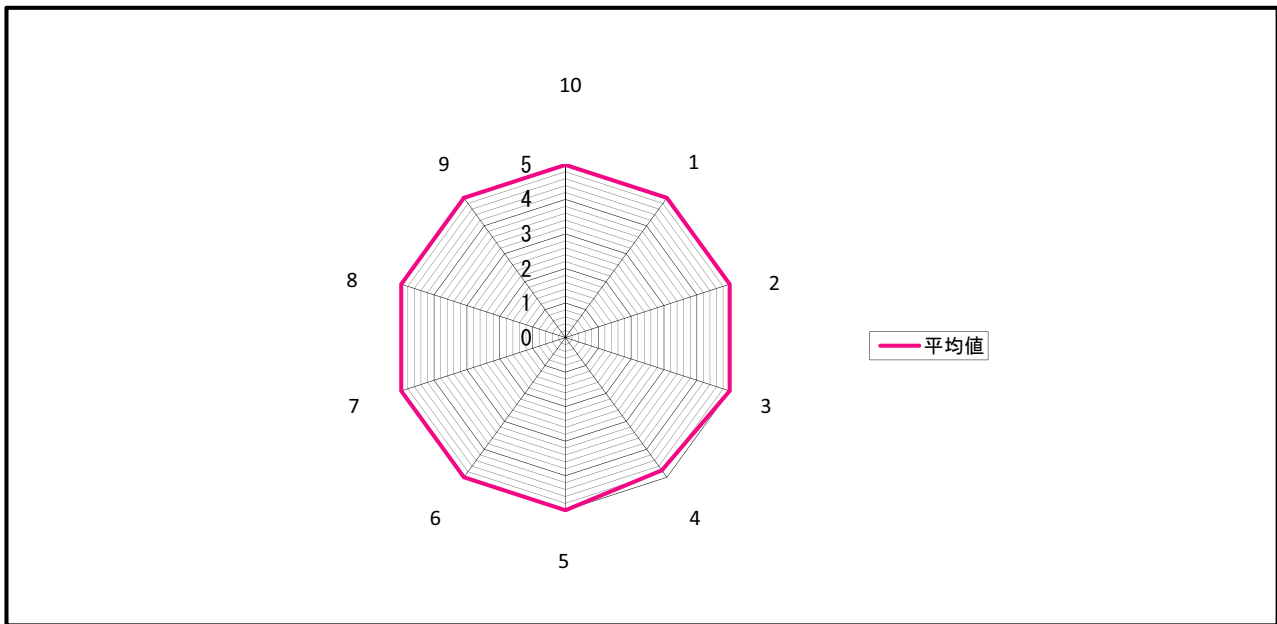
## 教員のコメント

高い評価をしていただいたのは光栄であるが、たった4人の評価であり、鵜呑みにすることはできない。むしろ、学生が「当たり障りのない」評価をしているのではないかと心配している。授業評価は、教員の授業改善のために行われているはずであり、少人数の授業では必ずしも必要ない(学生による真の評価が得られない)と思われる。次年度は、たぶん多くの長期履修生が受講すると思われるので、彼らの知識をどのようにしてレベルアップするかを、真剣に検討する必要があると思われる。

# 結果報告書

授業科目名 地学実験法特論  
 評価実施日 平成23年2月16日  
 担当教員名 小澤 大成, 村田 守, 西村 宏, 香西 武 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

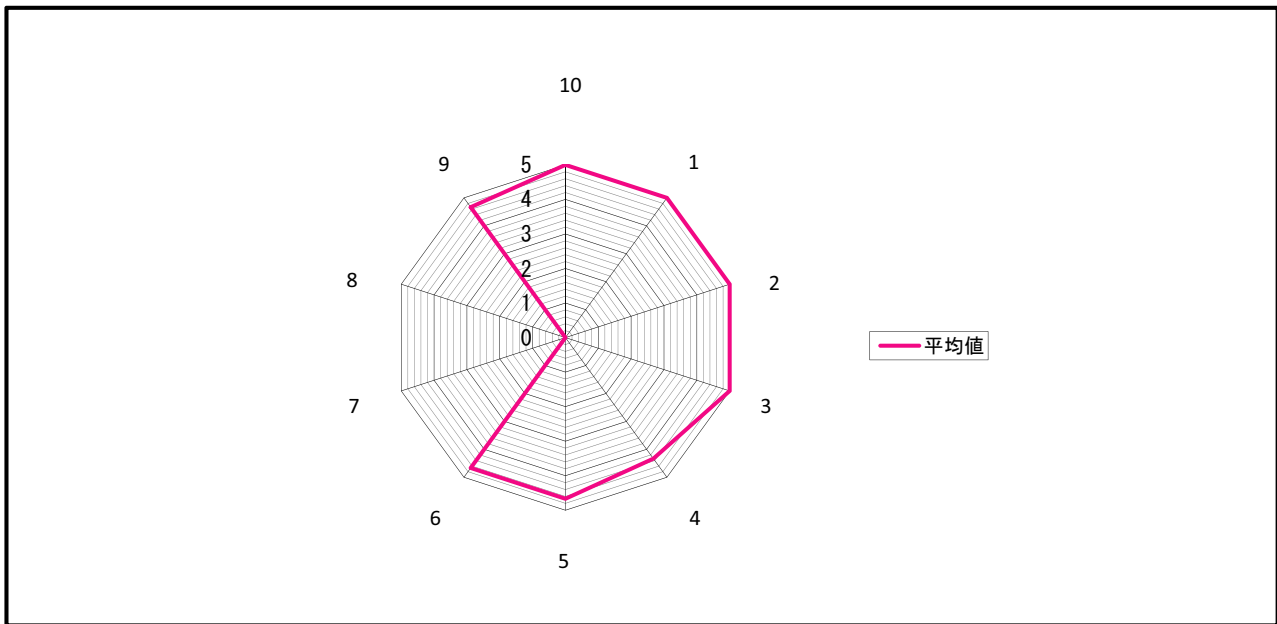
成績評価に関して1人の学生が4を付けた以外は全て5の評価であった。コメントから「偏光顕微鏡の活用ができるようになった!」「自ら岩石を薄片にしたのが良かった!」「X線マイクロアナライザーを操作したのが良かった!」など実験面での評価が高かった。今後は成績評価の説明を充実させ、引き続き実験を多く取り入れていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 理科教材開発研究 I (物質とエネルギー)  
 評価実施日 平成22年11月26日  
 担当教員名 本田 亮, 今倉 康宏

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4		2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5		1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5		1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



## 教員のコメント

受講者数が6と分析に値するほどのサンプリング数ではないので、価値ある分析はできないことを前置きしておく。受講生自らが、学校現場で困惑している又は必要とされている教材について、課題・問題点とその解決方法を探ることを目的にこの授業は開かれている。受講生はこのことを理解しており、活発な議論がなされた。また、このような作業にはかなりの物理的時間が必要であるので、現場を離れた機会にしかできないという主旨のコメントが受講生からあった。

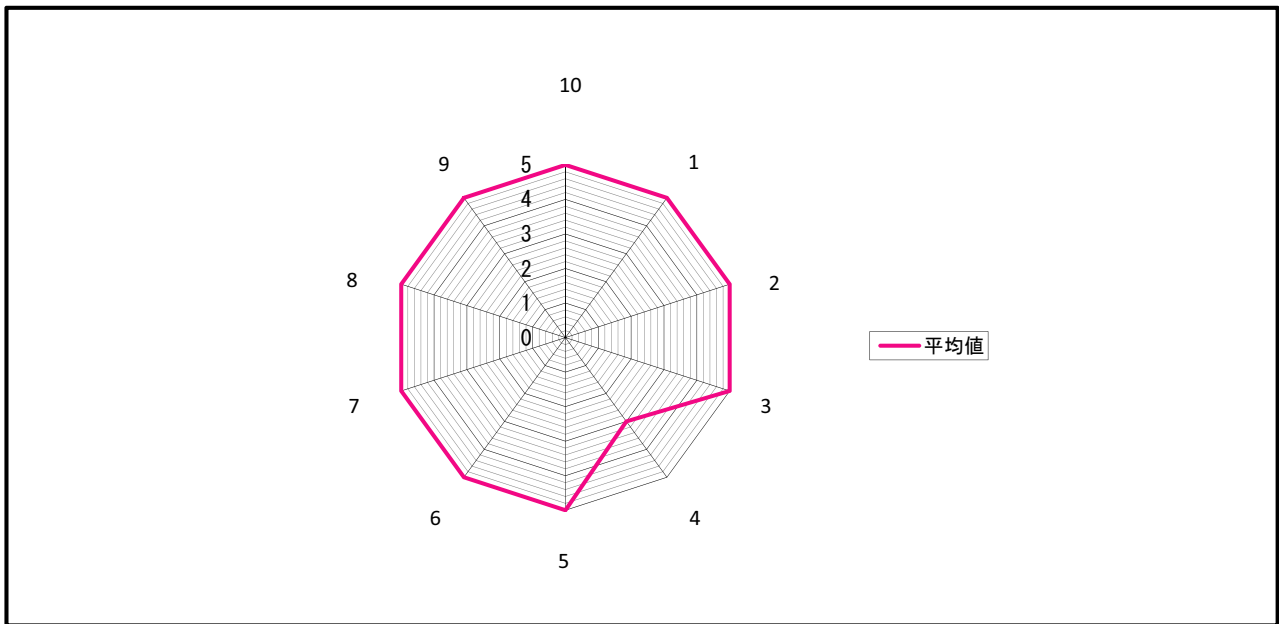


# 結果報告書

授業科目名 歌唱表現演習  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 頃安 利秀

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。			1			3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



## 教員のコメント

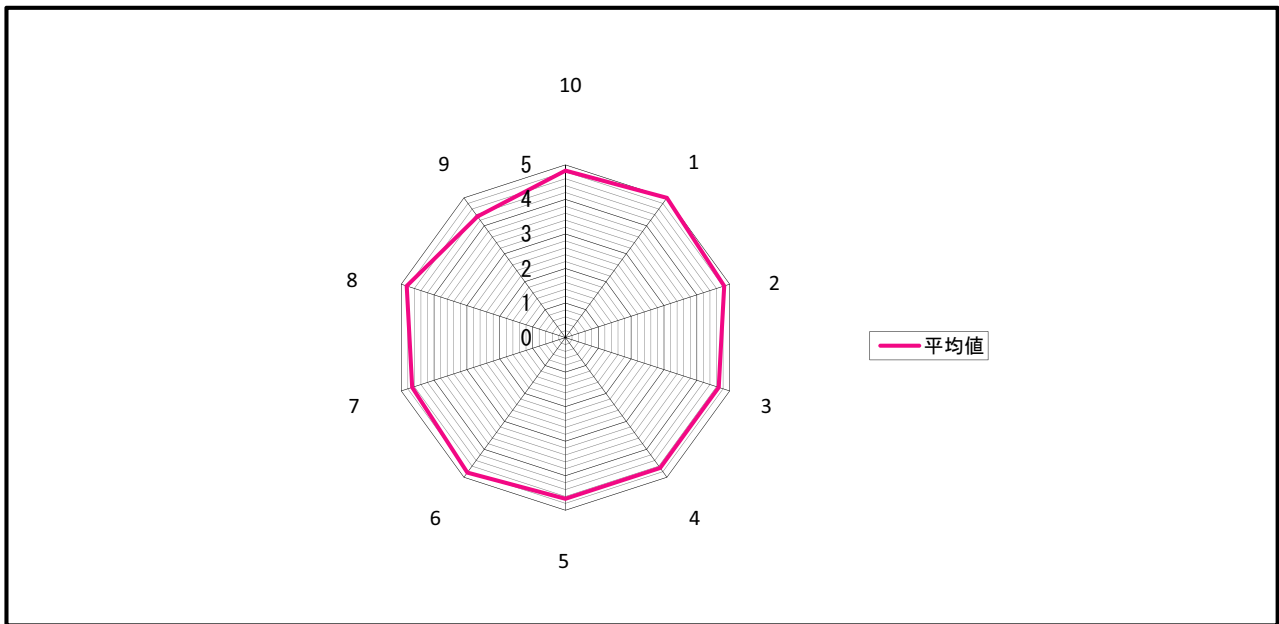
当該年度の授業では、受講生が1名、聴講生が4名ということで授業を行った。実技が中心の授業であるため、受講生1名に対する成績評価については十分な説明ができていなかった。歌唱表現演習という授業の目的は、教員として自ら歌い、また指導できる実技能力を養うことにある。そのため受講生1名ということもあって、成績に関しては他との比較をするのではなく、受講生の持っている力がどれだけ伸びたかに注目した。成績は授業への出席と取組み状況、さらに成長の度合いを考慮した。

# 結果報告書

授業科目名 歌唱表現演習  
 評価実施日 平成23年2月10日  
 担当教員名 草下 實

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5		1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



## 教員のコメント

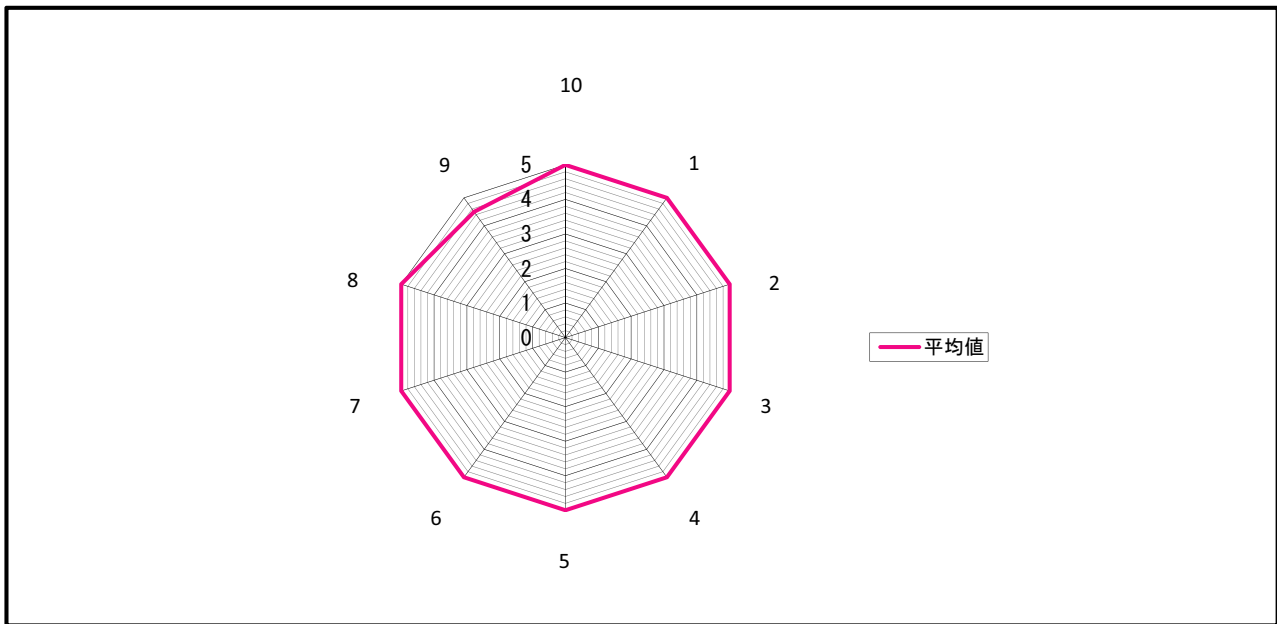
本授業に関しては、いずれの項目においても高い評価を得ている。特に授業担当者として嬉しいことは、履修者が授業への積極的な取組がなされている点である。これは授業において、常に問い掛けをし、履修者相互の意見の交換や課題について検討する形で授業展開させている点、また、事前に資料を配付し、授業における課題を明確に示していること。さらに歌唱表現に係る知識と理論及び技法との連関を範唱による具体の表現事例を提示しながら、授業を進める担当者の意図と表現活動に係る理念が履修者に浸透していること。また、それらと授業の到達目標に整合性があることなどが考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 ソルフェージュ研究  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

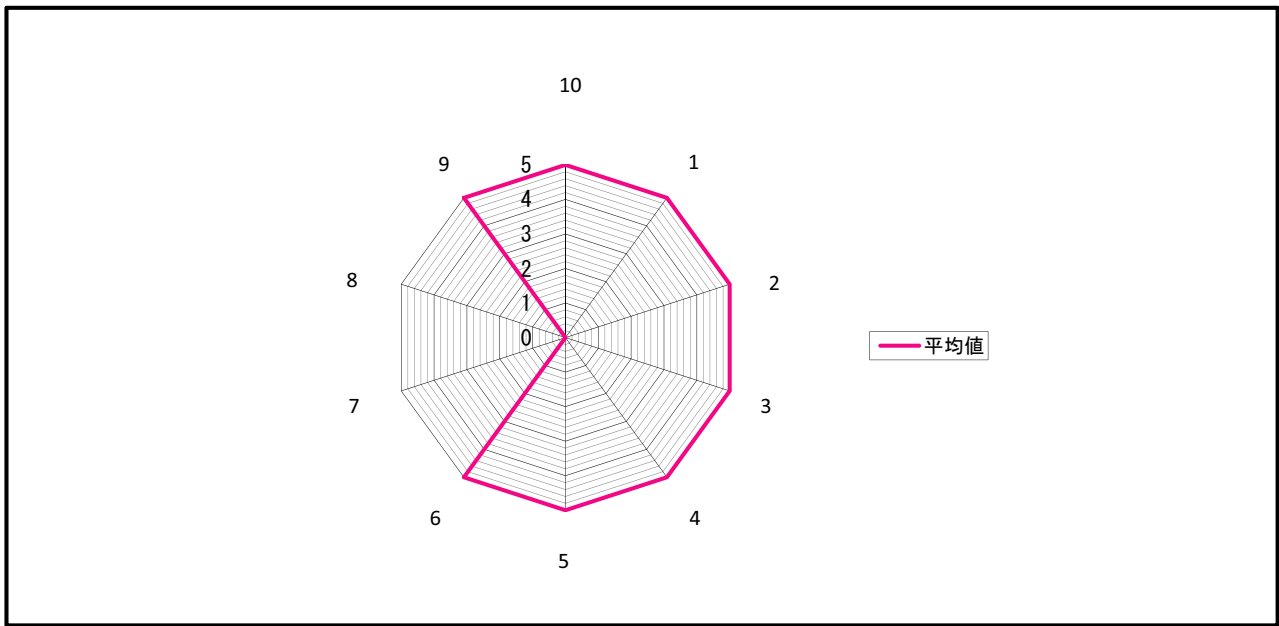
回答者数が2名ということもあり、あまり参考にはならない。しかし、裏面の自由記述の欄において、そもそも授業評価アンケートを行なう必要があるのかとの疑問が書かれていたことは、今後全学的に検討すべき事と思う。単に対外的に体裁を整えるためだけで、学生の役に立たないような形のアンケートなら、必要ないのではないか。むしろ、授業に対する学生の苦情を汲み上げる窓口を作るなど、より良い方策もあるのではと考える。

# 結果報告書

授業科目名 室内楽(器楽)  
 評価実施日 平成23年2月22日  
 担当教員名 森 正, 山根 秀憲

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

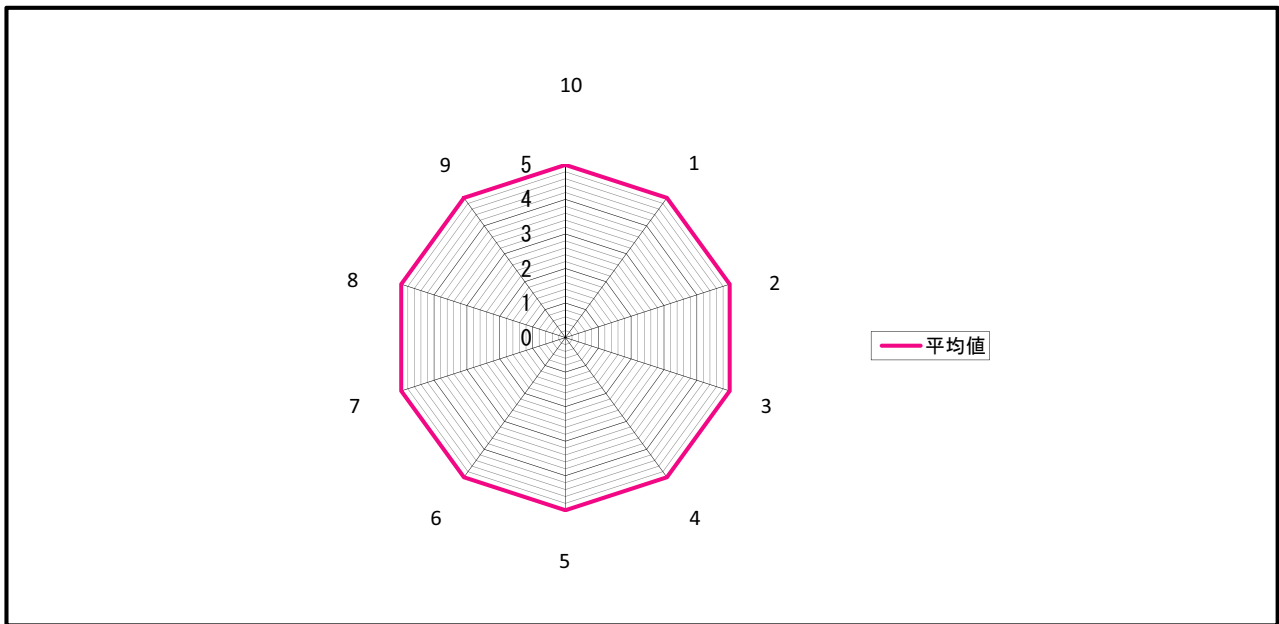
韓国からの留学生と現職教員の学生という、これまでの音楽経験がまったく異なる二人の受講生による授業で、教材としてはピアノによる室内楽の、もっとも基礎的なピアノ連弾を課題とした。他人と合わせて音楽をつくっていくことの経験がほとんどなかった学生たちであったが、独奏のときとは異なる問題点や魅力を感じることが出来たようで、新たな音楽体験を深めることが出来たことが、高く評価されたようである。

# 結果報告書

授業科目名 作曲法基礎演習  
 評価実施日 平成23年2月24日  
 担当教員名 松岡 貴史

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

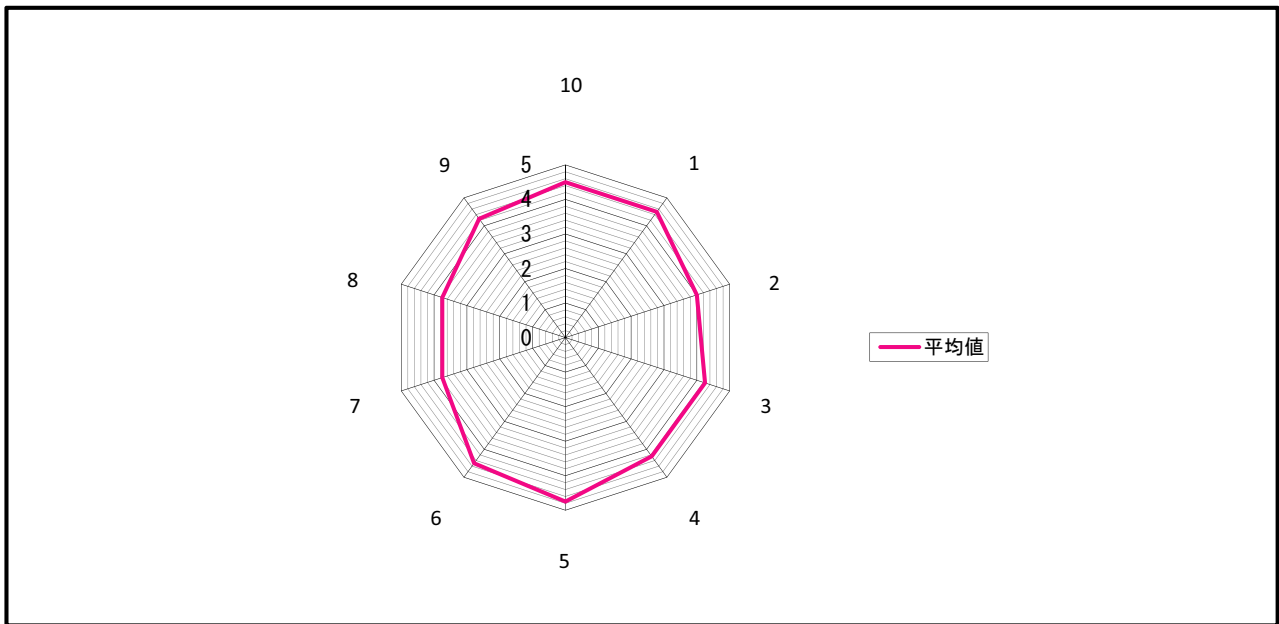
受講者は3名、うち現職教員1名、留学生2名であった。受講者が、それぞれの文化的背景の中で、作曲をととして自らの音楽表現を見だし、自己の音世界を表出する喜びと他者の音世界を享受する喜びを体験する、学び合いの機会とすることができたと思う。5段階評価ではすべてが5となっているが、少人数であったことを考えると、数値の有意性をあまり高く見ない方が良いと思う。自由記述には、「好きな授業だった。」「それぞれに違った内容の作品をいろいろ聴くことができて楽しかった。」「それぞれの受講者に合わせて先生が指導してくれた。」「先生自身の曲も聴けたのが良かった。」「年間を通して開講してほしい。」等の記述があった。

# 結果報告書

授業科目名 油画制作演習  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 鈴木 久人

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3		1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2	1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	2			3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



## 教員のコメント

質問事項の数値については概ね好意的回答だと受け止めている。質問事項(7)(8)が数値として低く目立つが、本授業は絵画制作の実材を主に扱う演習の授業であるため教科書や視聴覚機材を使用しないため学生がどのように評価するべきか迷ったための数値と思われる。

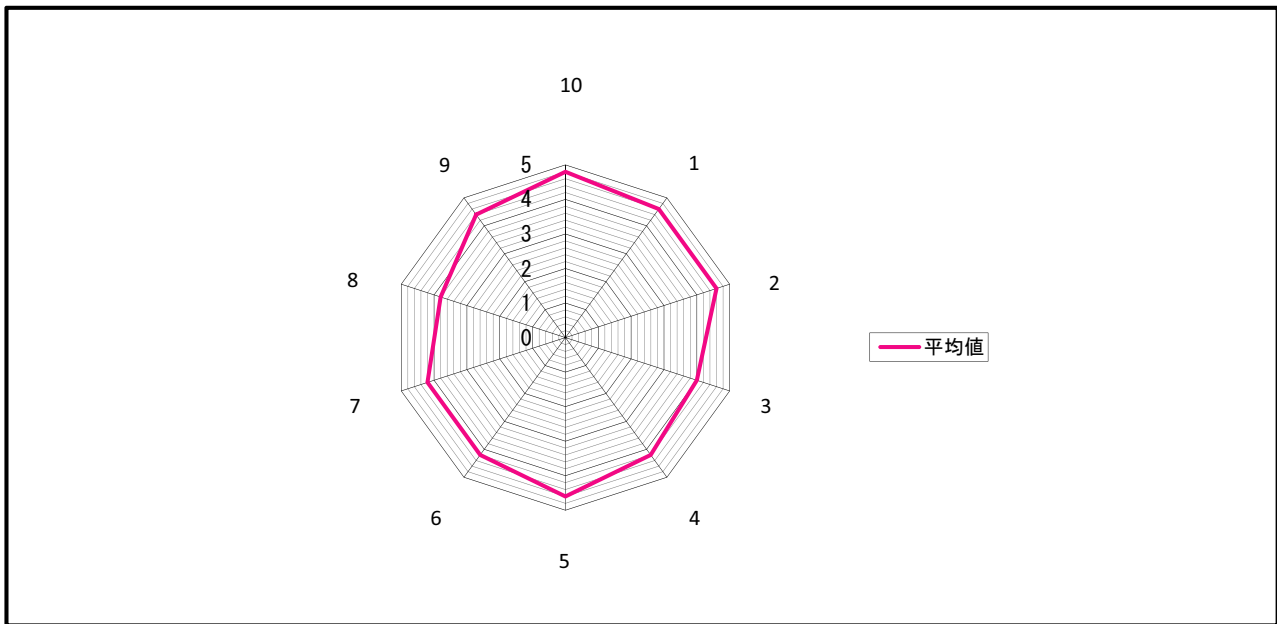
自由記述欄についても好意的回答が主であるが中間講評の導入やより多くの参考図版の紹介の要望があった。このことについては検討したい。また本授業が現場での展開の可能性や教材開発の可能性、児童、生徒の作品鑑賞や評価法についてもより学生とのディスカッション等を通じて深めたい。

# 結果報告書

授業科目名 平面造形演習  
 評価実施日 平成23年2年15日  
 担当教員名 西田 威汎

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	2			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		2			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		3			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



## 教員のコメント

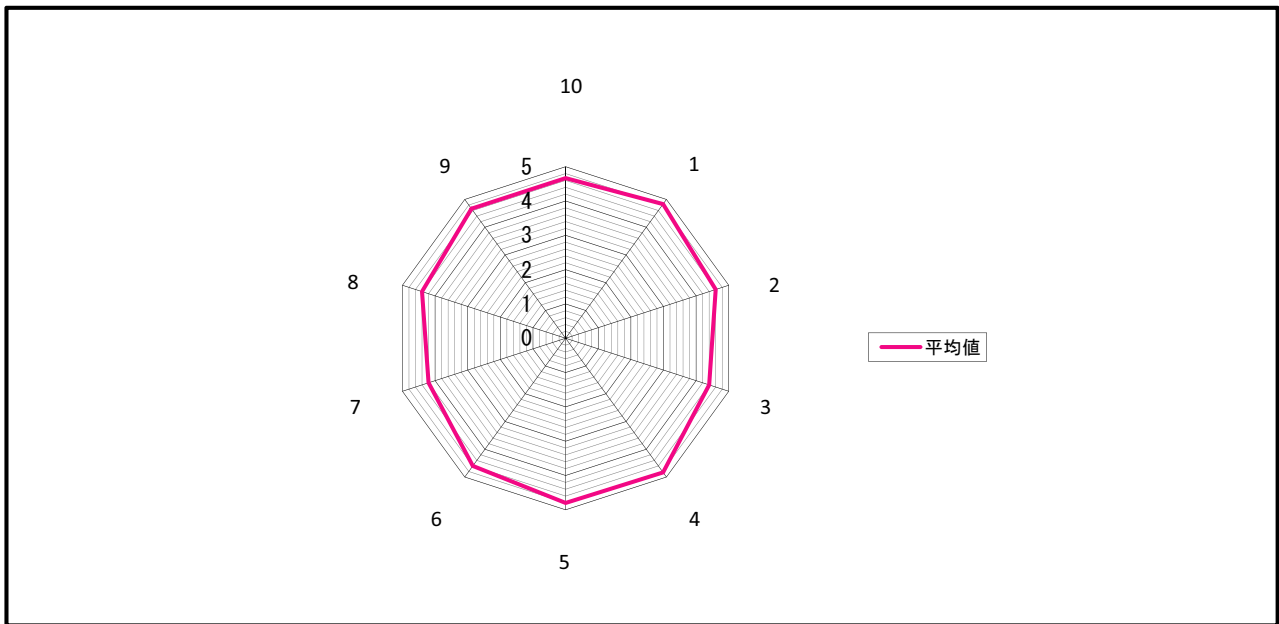
指導教員が研究している白亜地とテンペラの技法による絵画制作を、学生たちにF3号で体験させた事が、具体的に面白かったのではないだろうか。また、香川県の猪熊源一郎美術館における、杉本博司展の閲覧と講習会も大変興味を引くものであった。

# 結果報告書

授業科目名 デザイン制作研究  
 評価実施日 平成23年2月15日  
 担当教員名 松島 正矩

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4		1		1	4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4			1	1	4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1			1	4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		1		1	4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1		1	1	4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1		1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5		1			4.7



## 教員のコメント

この授業は、マルチメディア教育実習室の画像編集アプリケーションを利用して行った。美術コースの学生5名、他コースの学生1名という少人数の受講であった。1名の出席率が75%くらいと悪かったのであるが、他の学生は全員が素晴らしい出席で熱心に受講してくれたので、それが、よい評価点に結びついてくれたものと思われる。画像編集アプリケーションは初めてという学生もいたのであるが、幸いに人数が少なかったため、能力に応じて個別に指導することができ、理想的な授業を展開することができたと感じている。

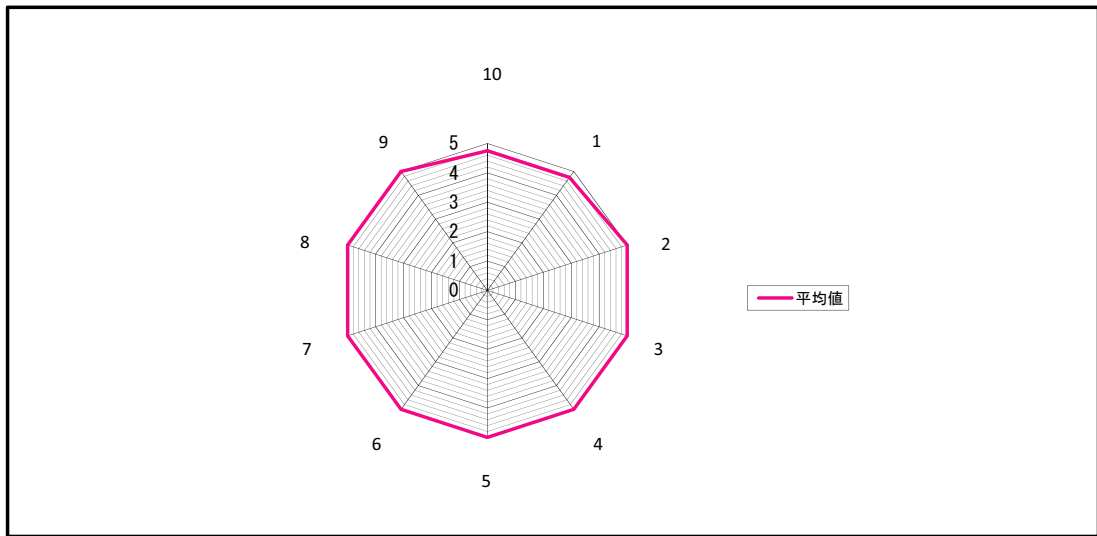


# 結果報告書

授業科目名 映像デザイン演習  
 評価実施日 平成23年2月14日  
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3				1	5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3				1	5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3				1	5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3				1	5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3				1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3				1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



## 教員のコメント

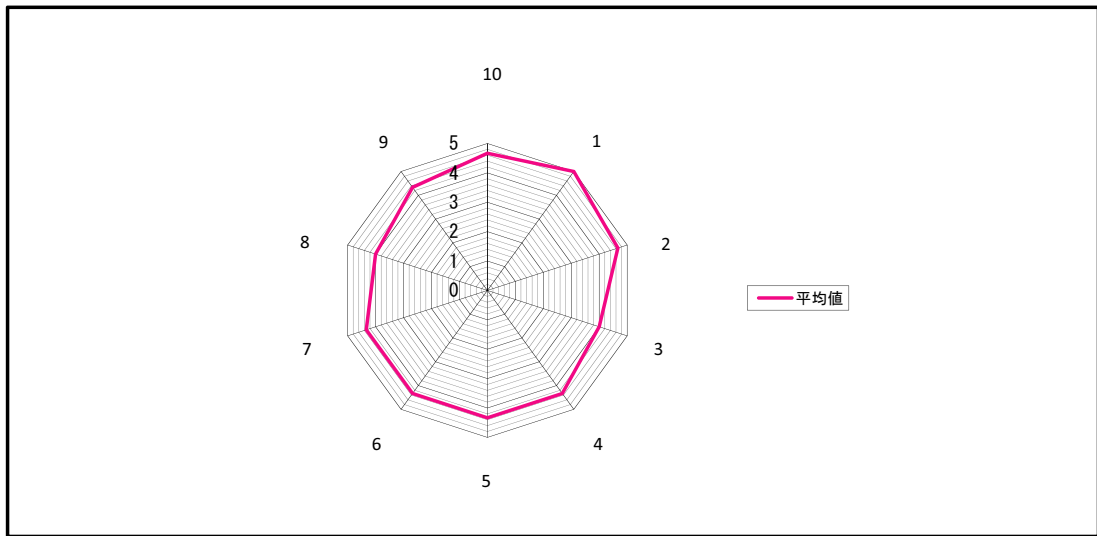
本年度の受講者数は6名だった。このうちアンケートに回答してくれたのは4名である。本年度もここ数年同様、段ボールと虫眼鏡でカメラ(印画紙を装填し撮影できる)を制作する内容と、デジタルカメラでの撮影実習とを主な内容とした。この内容編成はこれで4年目。授業当初に全員に了解をとり、前半を段ボール製カメラの工作に費やした(この行程は若干遅れが出た為、昨年比で2週間延ばした)。続く2週間に手製カメラでの撮影・現像作業、次の3週間は情報基盤センターから借りた一眼レフデジタルカメラとスタジオの使用法説明及び撮影実習(モチーフは人物と小物)、最後の1週に古典映像の一部とビデオ撮影方法の工夫についてを紹介した。グラフを見ても判る通り、概ね好評を得ていると考えている。アンケートの記号回答では、大方の項目で5をもらったが、4をつけられた場所が2カ所(2名で各1カ所ずつ)あった。一つは(1)の「授業概要標記の適切さ」で、工作時間が延びてスケジュールがずれたことが原因と思われる。今一方は、(10)の「授業の総合評価」で、こちらはコメント欄(改善要求)に「カメラ構造理解の余裕がなかった」記してあるため、やはりスケジュールを修正することで改善できると思われる。以下は自由記述について。好意的評価のみは2枚、残る2枚も良かったと思われる点については共に記入があったが(有り難いことながら)コメントは省略する。改善要求は2つ記入があったが、片方は上に挙げたとおり。今一方は「もう少し先生のお話が聴けたらと思いました」であった。ともに、授業スケジュールにもう少し余裕を設ければ解決できそうである。やはり各自の工作経験の差から予想以上にカメラ作りに時間がかかってしまう点に問題があるようだ。今後、なんとかスケジュールを工夫したい。さて昨年コメントでは「今後ビデオ編集等に内容を移行したい」旨も記したが、古い技術であるにも拘らず「他で体験できない」ということからカメラ作りや暗室作業への学生の要望は意外に強い。今後の内容構成に迷うところである。

# 結果報告書

授業科目名 総合造形研究  
 評価実施日 平成23年2月10日  
 担当教員名 内藤 隆, 野崎 窮

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	1	2				4.3
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2				4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



## 教員のコメント

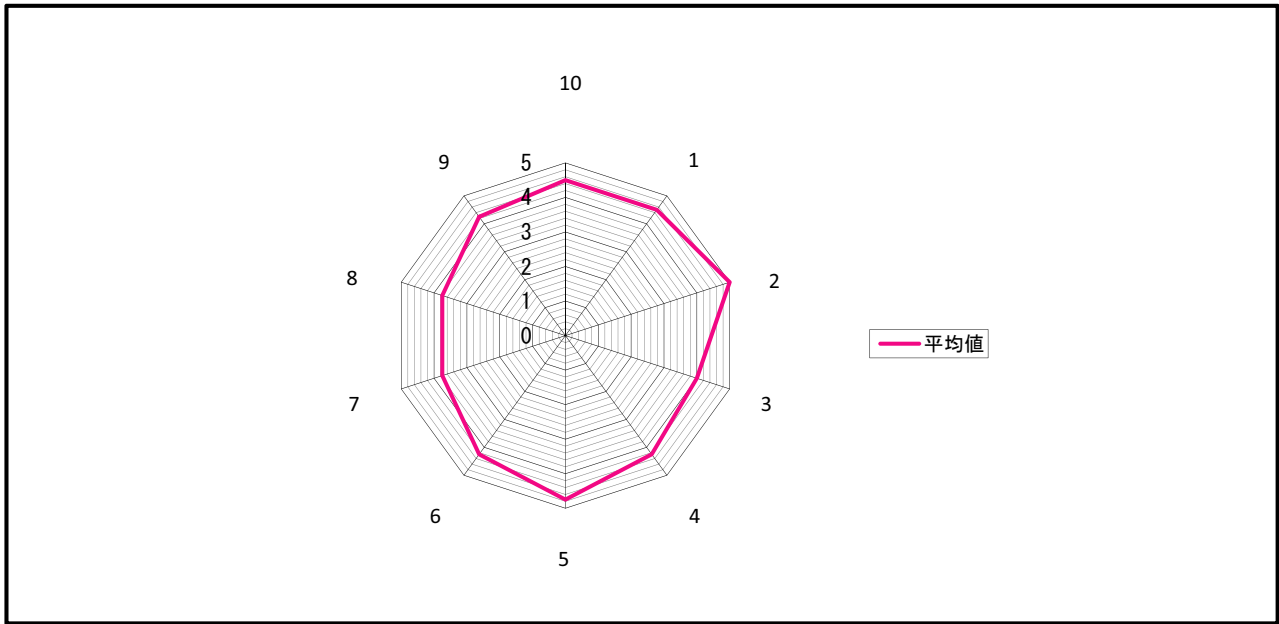
この授業の本年度の内容は、第1時間目に「授業日程の説明」、次の5時間分を「日帰りで瀬戸内国際芸術祭(男木島・女木島)の見学・資料収集」、続いて3時間分を「各自が興味を持っているアーティストの研究とその発表」、残り6時間分を「各自の作品制作とその展示(会場は芸術棟1階ギャラリー)」に費やすというものであった。コンセプチュアル(概念)アートを基本的なターゲットとし、この考え方に沿って自分なりの考えと表現の実現を試みて行く。グラフを見ても判るように、概ね好評を得ていると考えられるが本年度は昨年比では若干平均点数が4に近い。受講者3名のうち1名はオール5をくれていたが、他の2名の採点方法が平均を4に置き、良かった点と悪かった点に5と4を付けるやり方だったと思われる。今回は特に点数が低めの4であった項目が2カ所の(3)と(8)であった。(3)の「教師の実践力につながる」の項目については、本授業の目的からして人間形成的側面での内容育成を目標にしており、即席に授業に応用できる内容を伝授することが目的でないため、例年やや低めに収まる傾向があるため、妥当な評価だと考えられる。また(8)の「板書や視聴覚機器の使用は適切であった」については、この授業では基本的に教員側からの指定教科書や配布資料は無いこと、また、板書や視聴覚機器を特別に使用する箇所が無いこと、の為にこの回答と思われる。なお、以下は自由記述についてであるが、記述があったのはオール5をくれた一名のシートのみであった。授業で良かったと思われる点の記述は「追い込まれた！」で、作品展示のため必死で制作をしながらも、この状況を楽しんでくれているのが判る。一方授業に改善を求める点は記入無し。その他の感想等の欄では「制作サイコー」と書かれており、彼がこの授業を本当の意味で楽しみながら「効果的に使い切って」学んでくれた様子が判る。

# 結果報告書

授業科目名 芸術学演習  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 小川 勝

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		3	1			3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		3	1			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



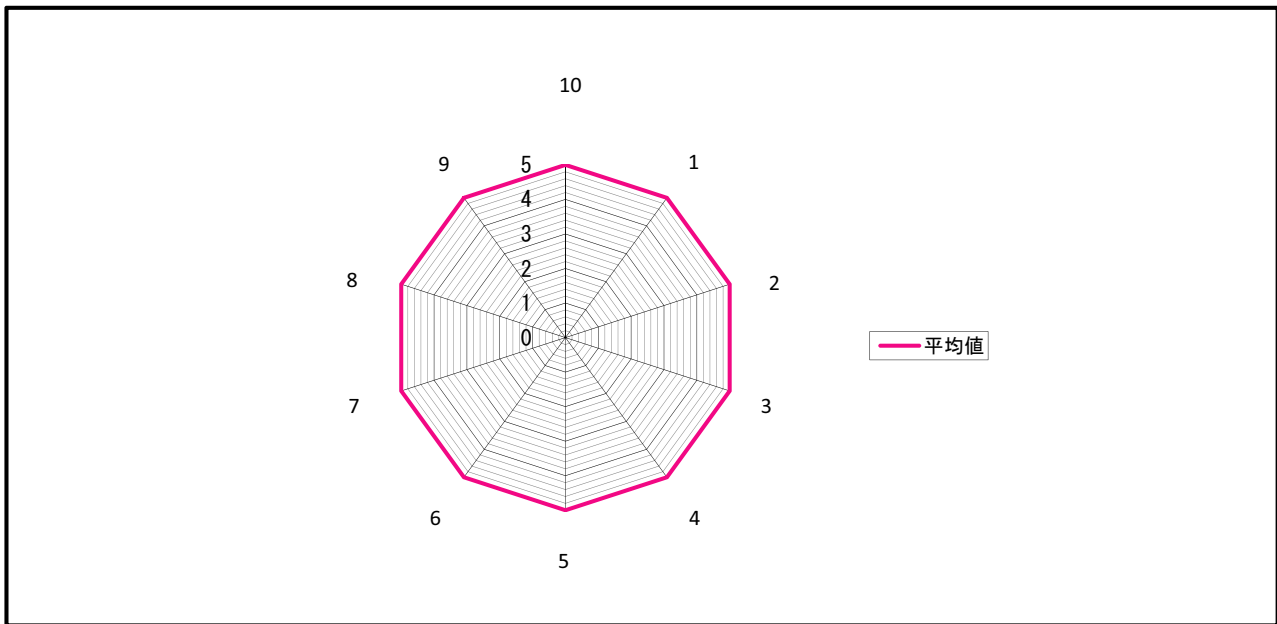
教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 体育・スポーツ心理学演習  
 評価実施日 平成23年2月28日  
 担当教員名 賀川 昌明

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

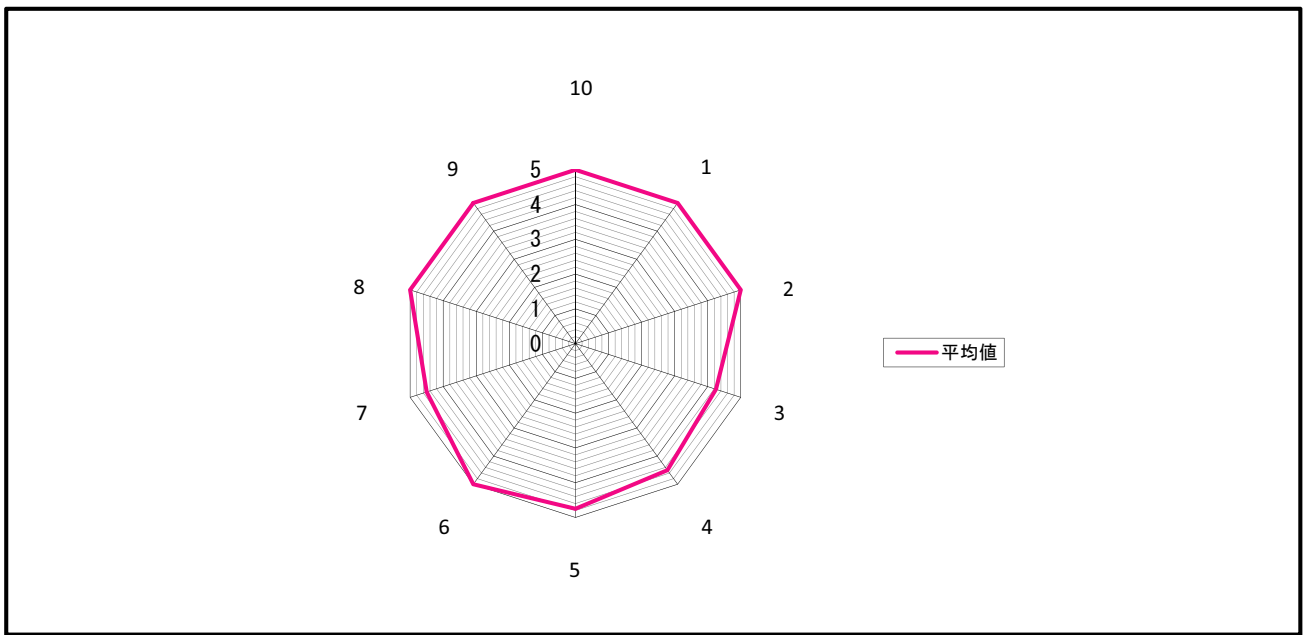
受講生は3名であり、全員、授業担当者のゼミに所属している学生であった。  
 そのため、授業内容を3名の研究課題遂行に必要な内容に絞り、各自の能力に応じたペースで授業を展開した。  
 その結果、全項目の平均値が5.0という高い評価値を得ることができた。しかし、その中には、授業担当教員が自分の課題研究指導教員であるという要因の影響も含まれていることが考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 スポーツ・トレーニング演習  
 評価実施日 平成23年2月24日  
 担当教員名 南 隆尚

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3			1		4.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

受講者4名と少数で行われた。授業内容は、トレーニングの方法論について具体的に理論と方法を説明しながら実施した。また毎週交代で、指導模範を実施していただいた。受講生の指導経験と各種目によるトレーニングの特異性の理解など得るところも多かった。

上記の項目別評価では、問「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。」と、問「(7)教科書や配布された資料は、適切であった。」が評価平均が4.5であった。(4)では、指導法やその内容、受講生の授業への取り組みなどから授業評価を行ったため、客観的尺度が欠けるように感じられたのかもしれない。また(7)では、演習形式のため、各回で資料を準備せず、また模擬指導者にも指導案の作成も指示しなかった。また授業実施中も特別記録するような場面を設けなかったため、各人の記憶に残るものを記録することどまった。この点は来年度以降修正すべき点である。

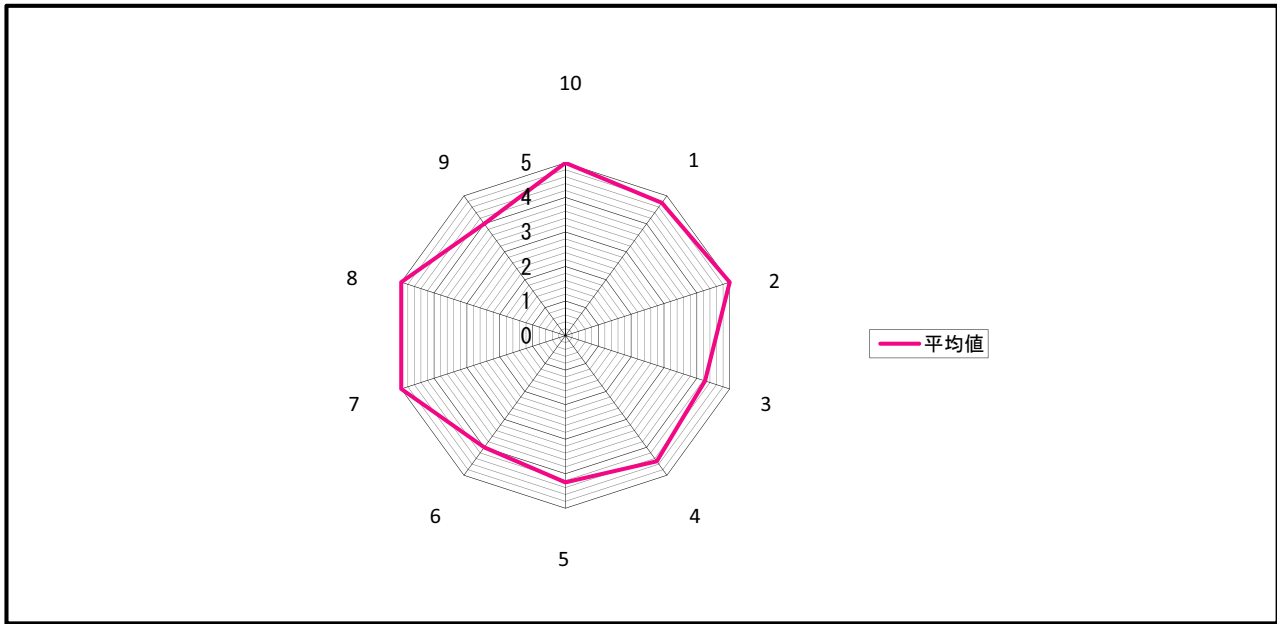
ただし、問「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」では全員が5の評価であり、概ね満足している。ただし、人数が少ないことや体育の専攻生のみ受講であり、今後より授業改善に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 健康科学演習  
 評価実施日 平成23年1月28日  
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3			1		4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3				1	4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3				1	4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

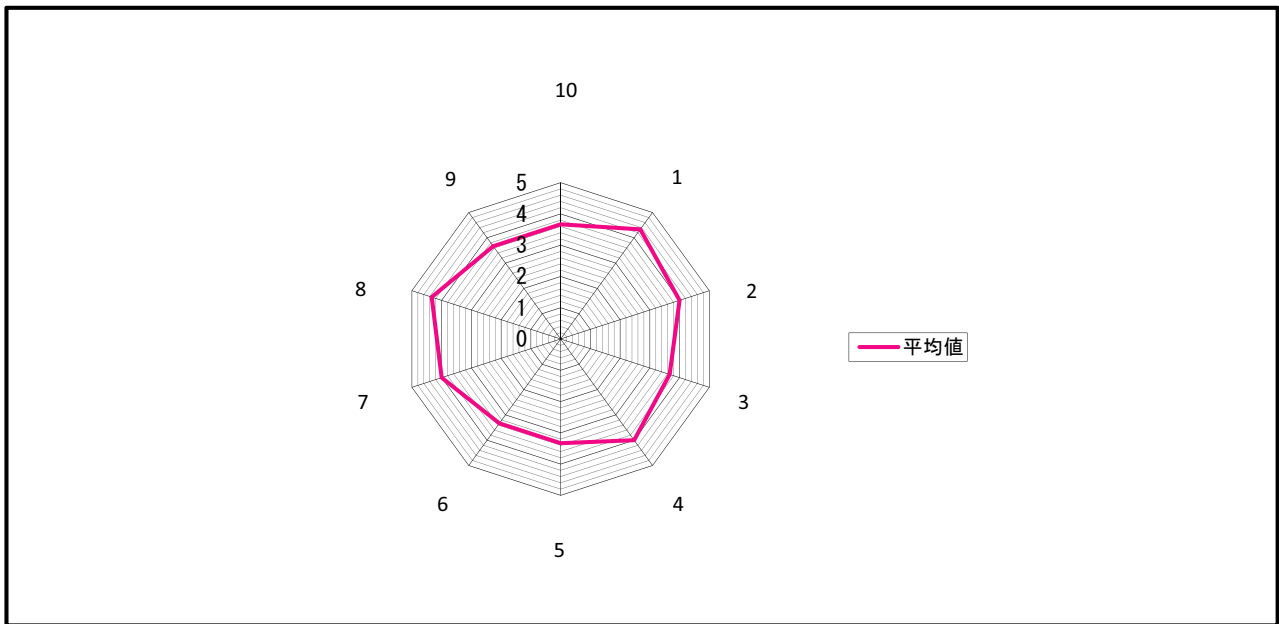
授業内容は、教員の伝えたい事柄が受講者の希望と一致したと受け取れる結果である。授業の進め方については、適切でないとの回答もみられる。学生側の取り組みの姿勢に反省を促したい。

# 結果報告書

授業科目名 情報技術研究  
 評価実施日 平成23年2月28日  
 担当教員名 菊地 章

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	1			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		3				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1	2			3.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2		1		3.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		3				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1			3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2	1			3.7



## 教員のコメント

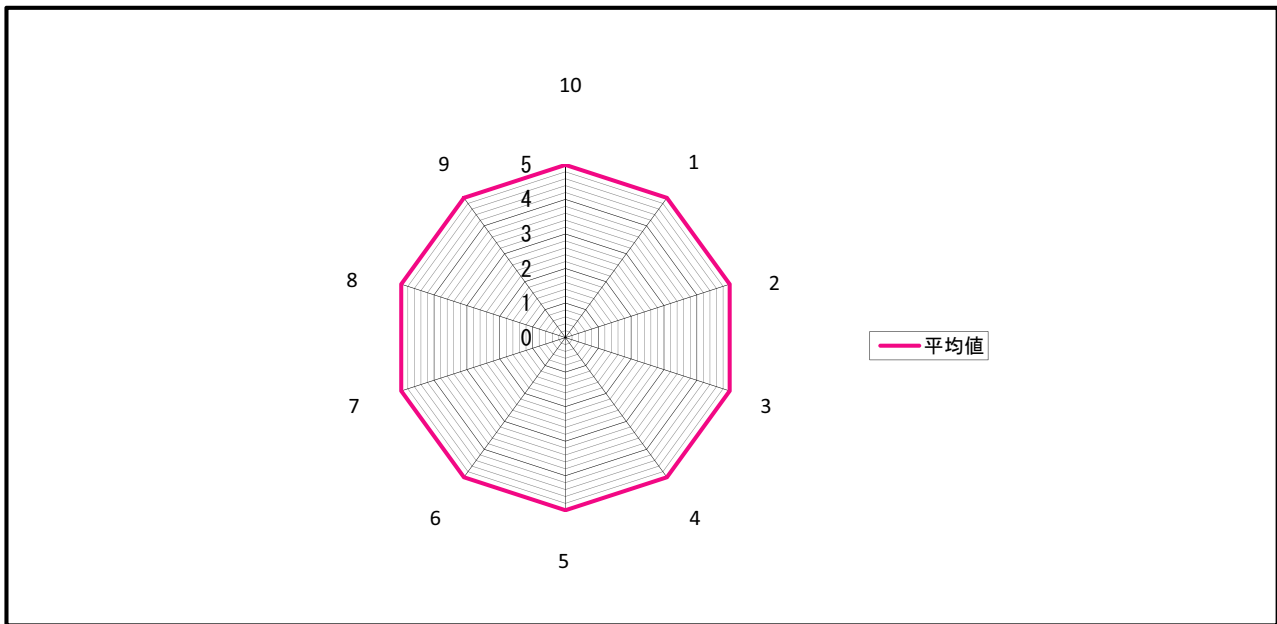
今年度は実習内容を多く取り入れたため、受講者にとっては消化不良になったようである。回答が少ないが好意的な意見としては、学校で利用されているファイアウォールの環境が理解できてよかったとの内容もある。なお、アンケート方法が点数制であるため、また自由記述欄にはほとんど書いていないため、どの点で具体的に分かりにくかったのかを判断できない。アンケート方法の改善が必要であろう。

# 結果報告書

授業科目名 エネルギー工学研究  
 評価実施日 平成23年2月10日  
 担当教員名 畑中 伸夫

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



## 教員のコメント

受講者が1名であり、内容・難易度・進度に十分配慮することができた結果であると思われる。この結果に満足することなく、授業の改善を続ける。

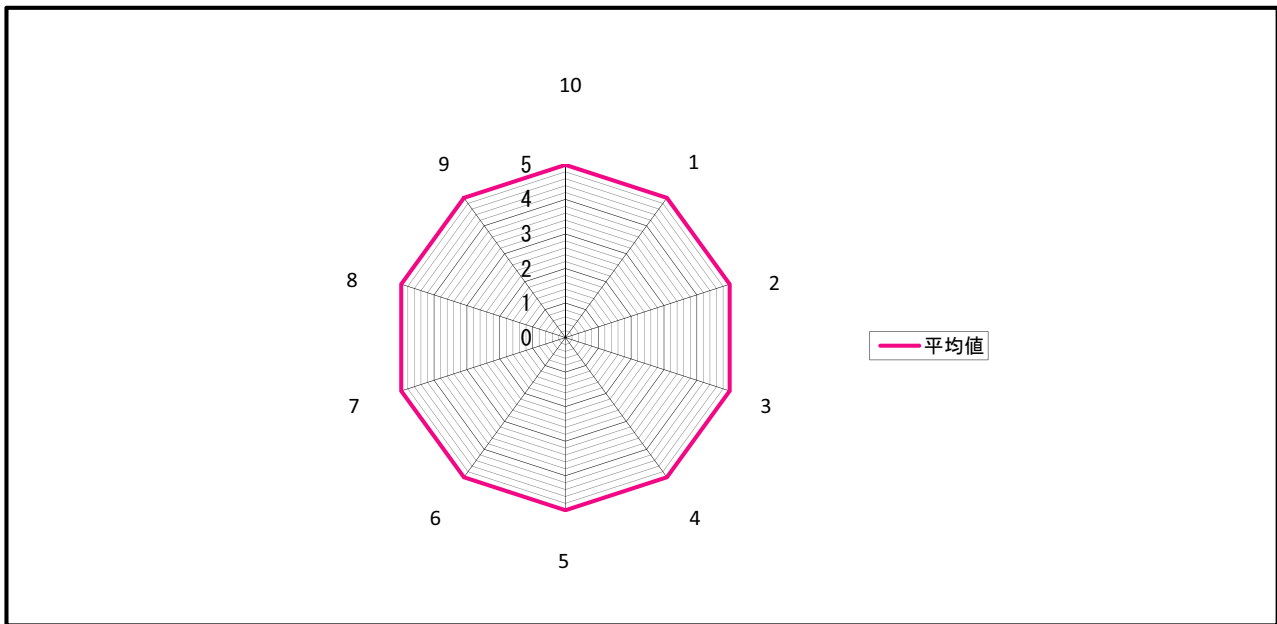


# 結果報告書

授業科目名 エネルギー工学演習  
 評価実施日 平成23年2月10日  
 担当教員名 畑中 伸夫

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



## 教員のコメント

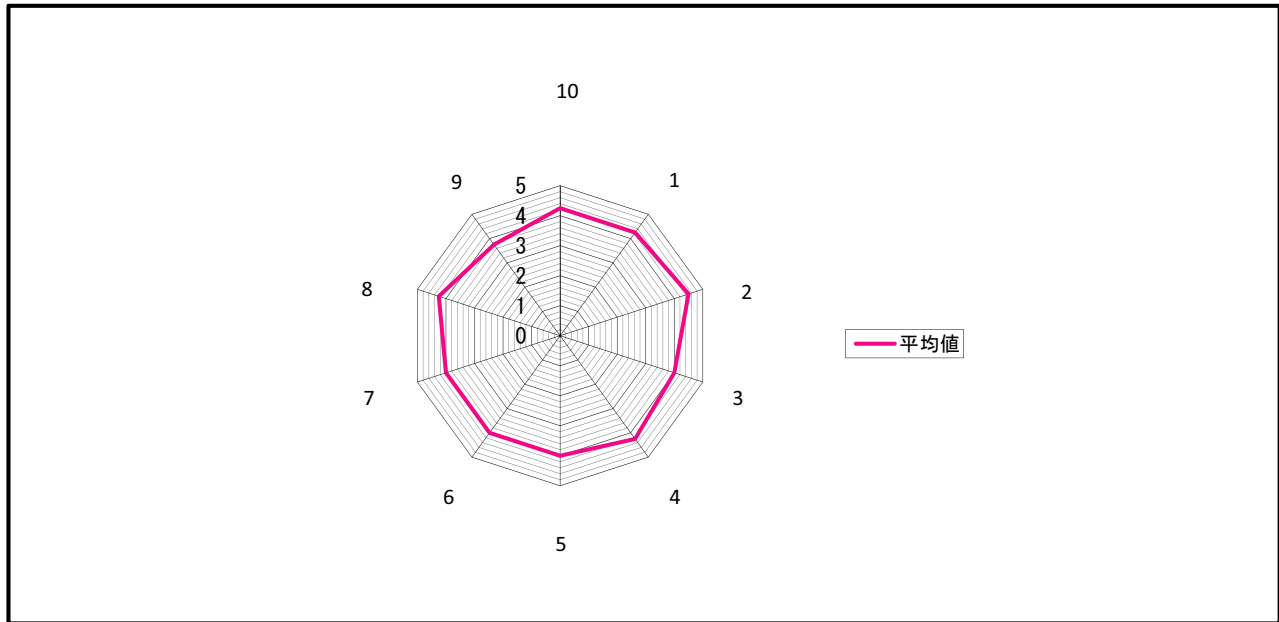
受講者が1名であり、内容・難易度・進度に十分配慮することができた結果であると思われる。この結果に満足することなく、授業の改善を続ける。

# 結果報告書

授業科目名 画像情報処理研究  
 評価実施日 平成23年2月23日  
 担当教員名 伊藤 陽介

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		2			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3	1			3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1	1			4.3



## 教員のコメント

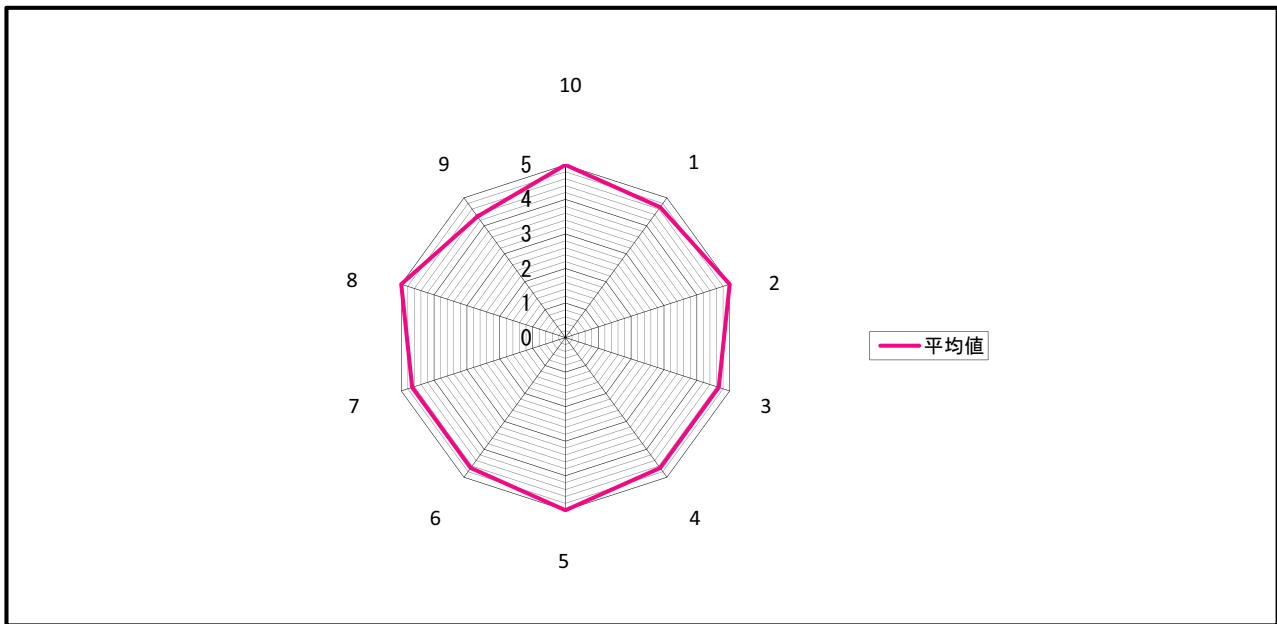
4名の回答数では客観的な授業評価は難しいが、総合的に見ると満足できる結果と思われる。使用した教室(自然棟特殊端末室)において教示用ディスプレイとホワイトボードが見づらい等の問題点が指摘されているため、同教室を使用する場合は改善が必要である。

# 結果報告書

授業科目名 プログラミング演習  
 評価実施日 平成23年2月15日  
 担当教員名 林 秀彦

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

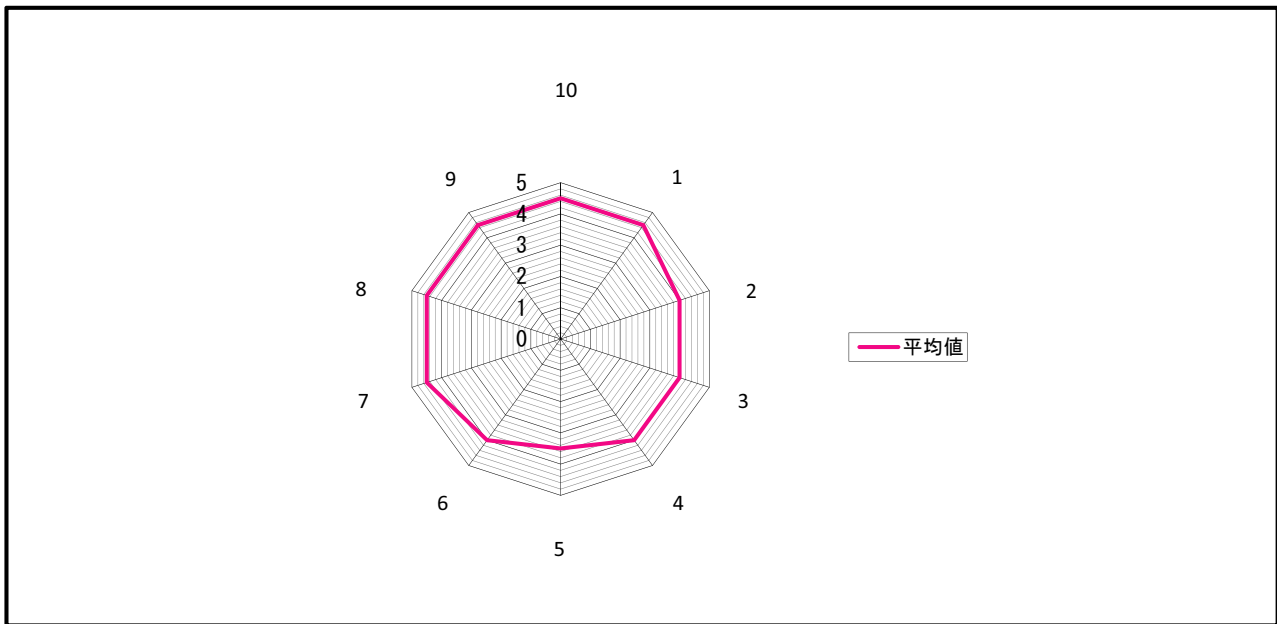
受講人数が少なく、かつ受講者間のこれまでの学習状況や専門に大きな違いがなかったこともあり、昨年度に比較して授業は進めやすく、アンケート結果もその状況を反映していることが考えられる。回答数が統計的に考察をするうえでは十分ではないが、総合評価から、おおむね高い評価が得られていると考えられる。今後の課題としては、プログラミングスキルなど、受講者間の差異が大きい場合の対応を検討することが考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 デジタル制御研究  
 評価実施日 平成23年2月28日  
 担当教員名 菊地 章

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1	1			3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



## 教員のコメント

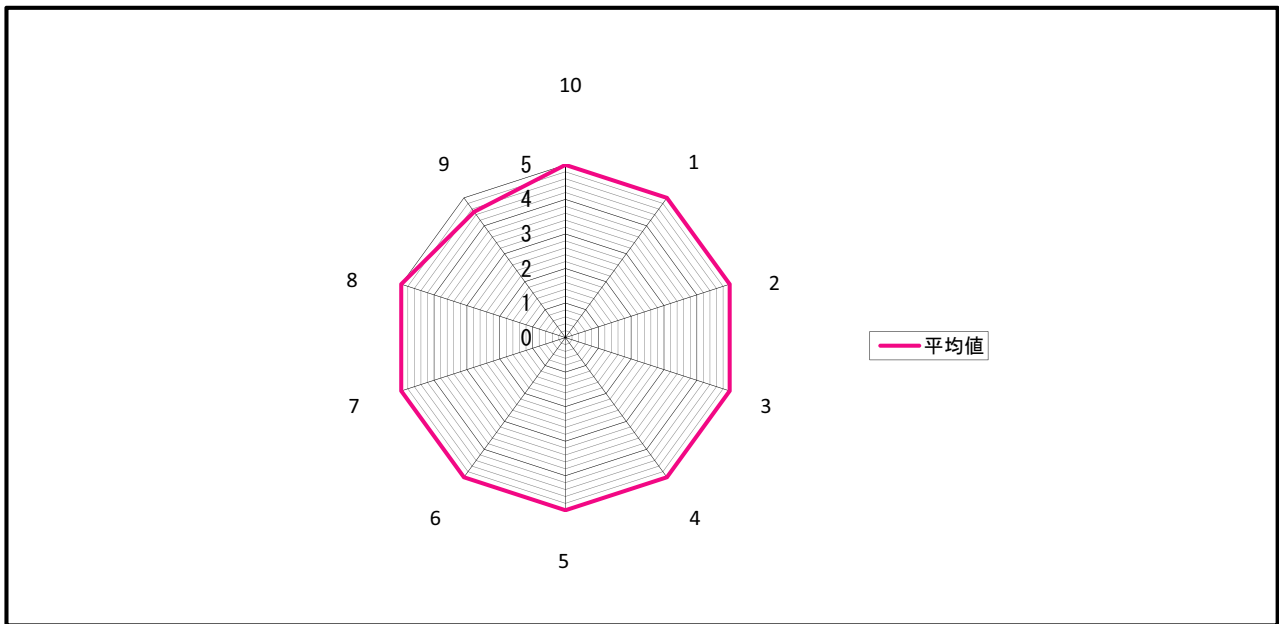
今年度は従来と異なり、中学校で利用されている教材を用いて実践的な話題に転換している。ただ、「教師の実践力の育成につながる内容であった」の回答が思ったほど上がらなかったのは残念である。アンケートを無記名式ではなくて記名式に改善し、また細かい点を記載するようにすれば授業の改善に繋がるのであるが、現在のアンケートでは詳細が分からず、授業改善に繋がっていかないのが残念である。

# 結果報告書

授業科目名 情報応用演習  
 評価実施日 平成23年2月4日  
 担当教員名 曾根 直人

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

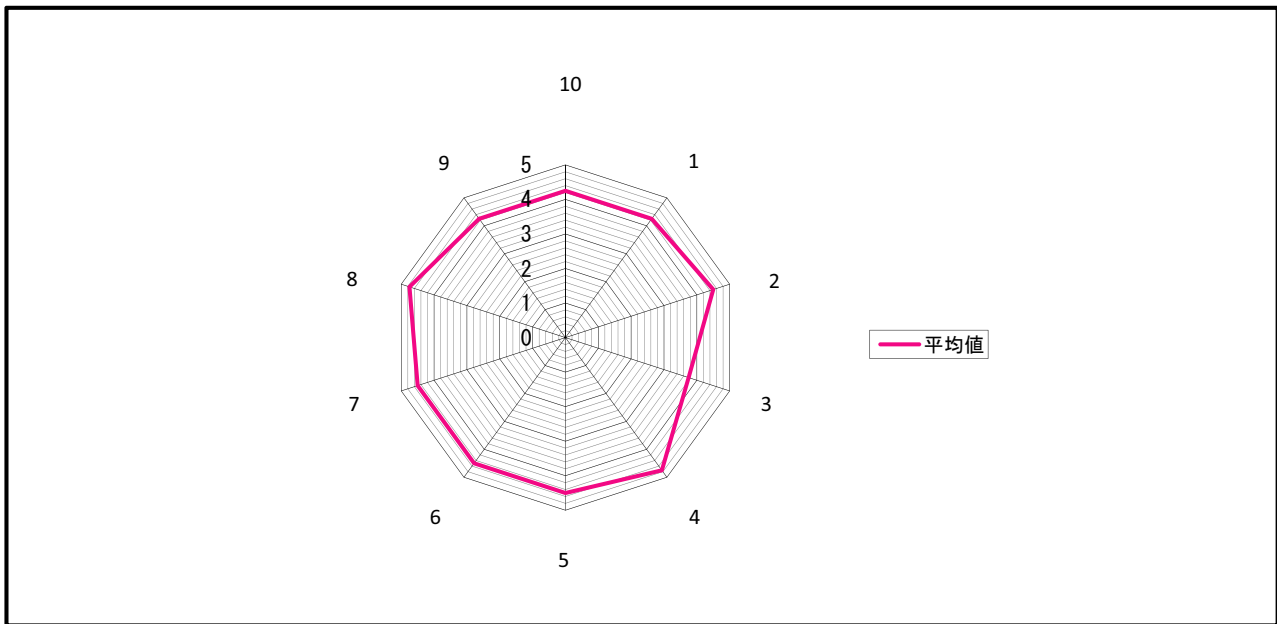
今年は受講者が2名と少なかったこともあり、受講者の了解を得て隔週2コマ連続という変則的な授業とした。これは本授業においては実習を多く行うが、ネットワーク機器の設置準備に時間がかかるため、その時間を減らし集中して実習に取り組めるようにするためである。学生からの評価においても2コマ連続での授業は実習の幅が拡がり好評であった。また機材が古いことや現場の機材と異なるという指摘もあったが、基本的な技術はこの授業で紹介しており、最新の機材や実際に設置してある機材にも十分応用できると考える。2コマ連続の授業は教員、受講者の双方にメリットがあったが毎年時間が確保できるとは限らない。連続した実習が行えない場合にも十分な実習が確保できるように部屋や機材の工夫を行いたい。

# 結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学演習  
 評価実施日 平成23年2月24日  
 担当教員名 宮本 賢治

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	2			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3		1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1	1			4.3



## 教員のコメント

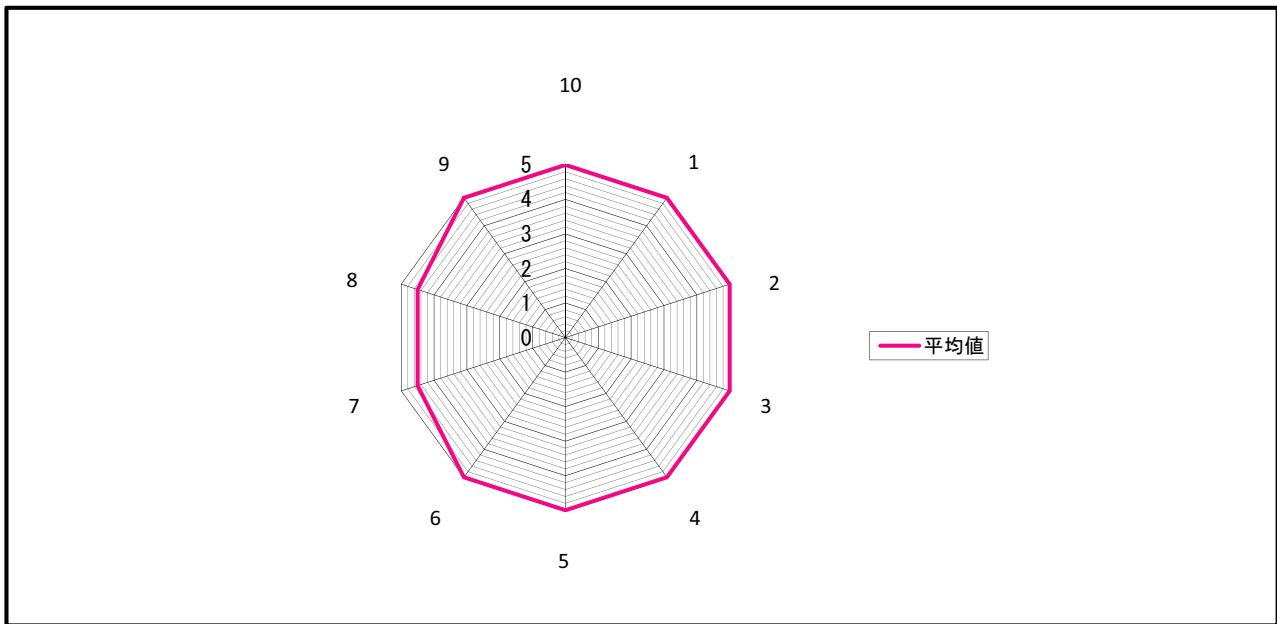
4名の回答者では客観的な授業評価は難しいが、総合的に見ると満足できる結果と思われる。「教師の実践力の育成につながる内容であった」という質問項目は4.0点を下回っており、授業で扱う内容が専門的で教師の実践力の育成につながりにくい印象を与えている。今回の受講者5名のうち4名が、他大学・大学校の理工系学部出身者であり、教員志望ではないこともあって授業は専門的な内容に偏った傾向はある。この点に関して、もう少し教師の実践力の育成につながるように、今後は授業方法や教材などの改善を図りたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 情報科教育研究Ⅱ  
 評価実施日 平成22年12月24日  
 担当教員名 森山 潤

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

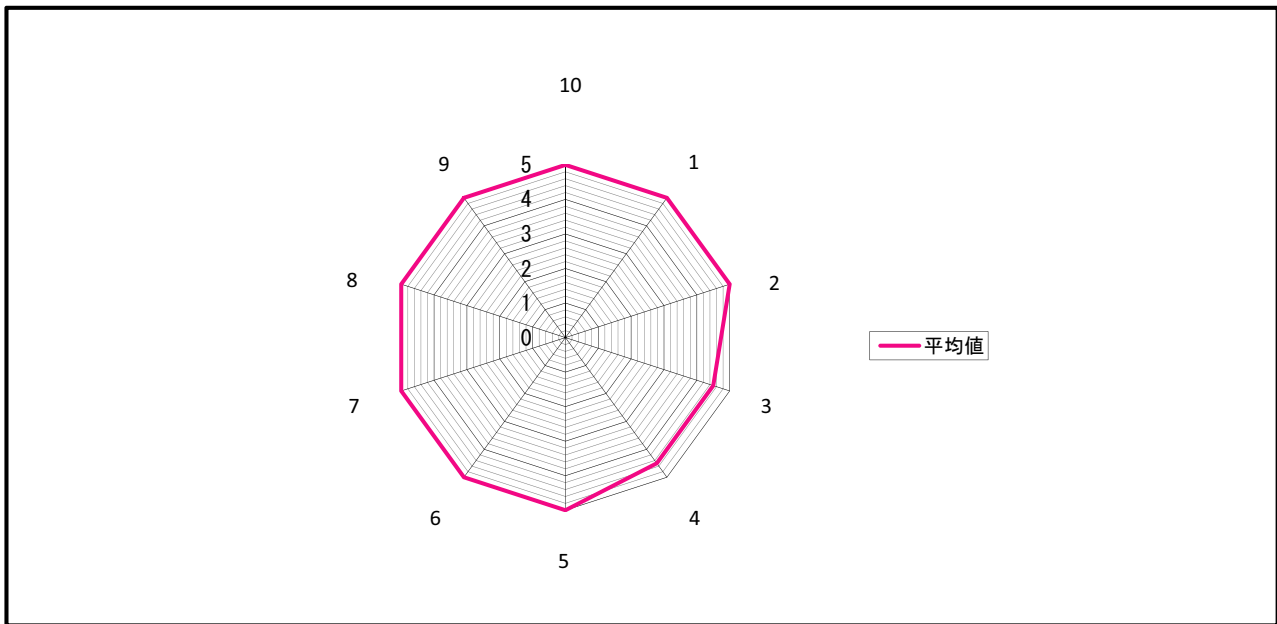
受講者が少ないので、今回頂いた平均値に甘んじることなく、授業改善を行っていきたいと思います。宜しくお願いします。

# 結果報告書

授業科目名 衣生活学演習  
 評価実施日 平成23年2月28日  
 担当教員名 福井 典代

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1				1	5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1				1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

受講者数が2名であり、個人の理解度をみながら確実に授業を進めることができた。授業の良かった点として、「実験が多い。」、「専門性を高める授業だった。」という意見が寄せられた。感想として、「レポートが多かった。」という意見がみられた。本授業は授業内容を深めるために実験を中心に授業を行い、それをレポートにまとめて提出するという形式であった。その点が若干負担に感じられたと思われる。授業内容を定着させるために、復習することは大切な工程であるので、今後も同様の形式で授業を進めていく。

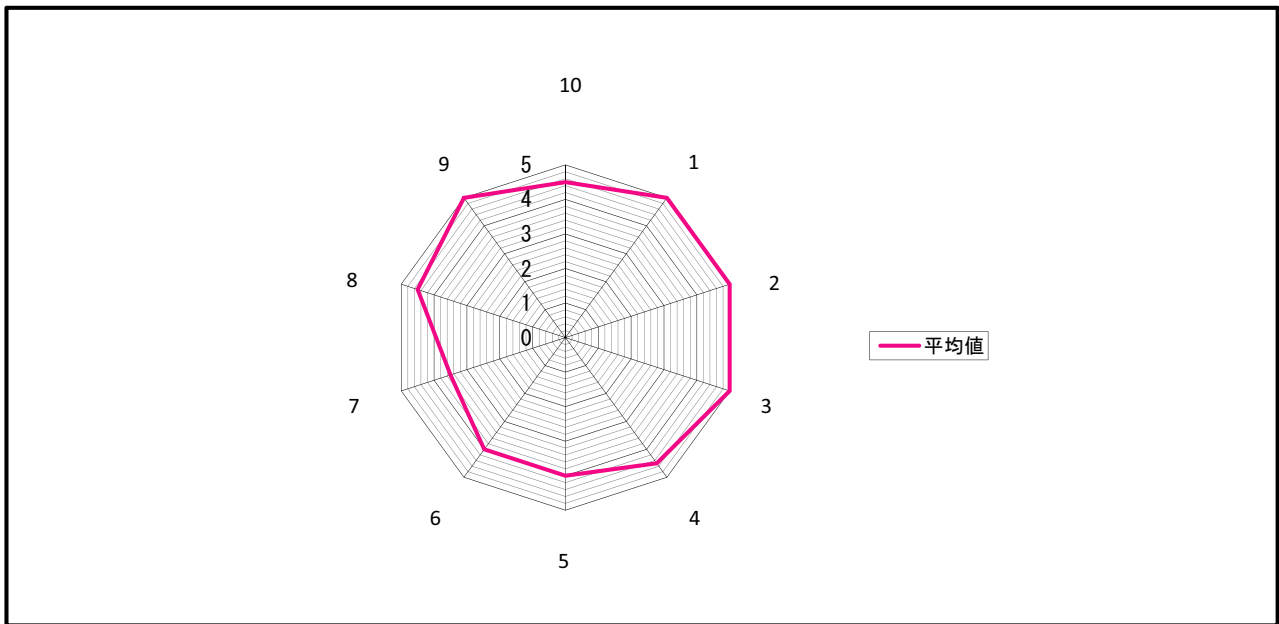


# 結果報告書

授業科目名 食生活学演習  
 評価実施日 平成23年2月28日  
 担当教員名 前田 英雄, 西川 和孝

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1		1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1		1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1			1		3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



## 教員のコメント

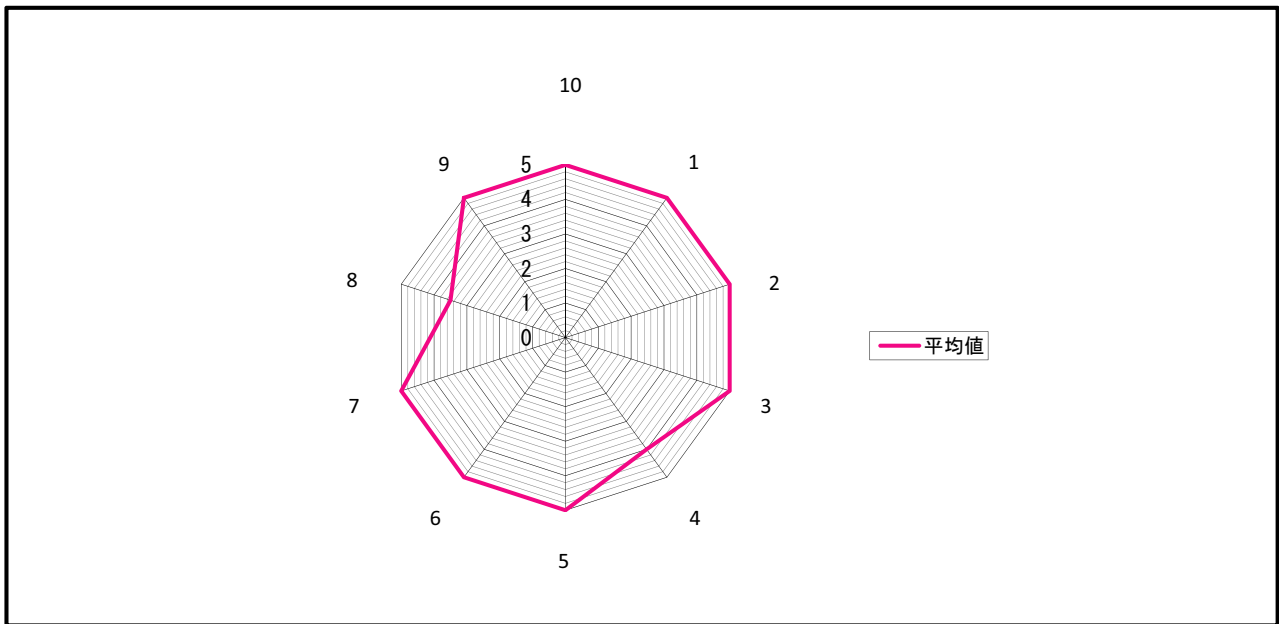
平成22年度前期に開講したこの授業科目には2名が受講した。この授業内容は食生活学研究を受講した学生を対象に教材開発の実験実習を取り入れて行っている。受講生は、現職教員と教員を志望しているストレートマスターの2人であった。演習の基礎となる食品学、栄養学および調理学の講義を発展させるため、じゃがいもを使用した教材開発、市販している清涼飲料水の糖度測定、ビタミンCの簡易定量法などをおこなった。また、最新の栄養摂取基準やその基準となる学問背景も講義した。授業アンケートの評価は概ね高かったが、「(5)授業の進む速さは、適切であった。」「(6)受講生に分かりやすく説明した。」「(7)教科書や配布された資料は、適切であった。」の項目に改善の余地が残った。一方、受講者による「(9)あなたの授業への取り組みについて」は、これまで一般的に学部授業及び大学院授業いずれも低い今回の受講者はすべて積極的に授業を受けているように思われた。

# 結果報告書

授業科目名 家庭科教育学演習  
 評価実施日 平成23年2月17日  
 担当教員名 速水多佳子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

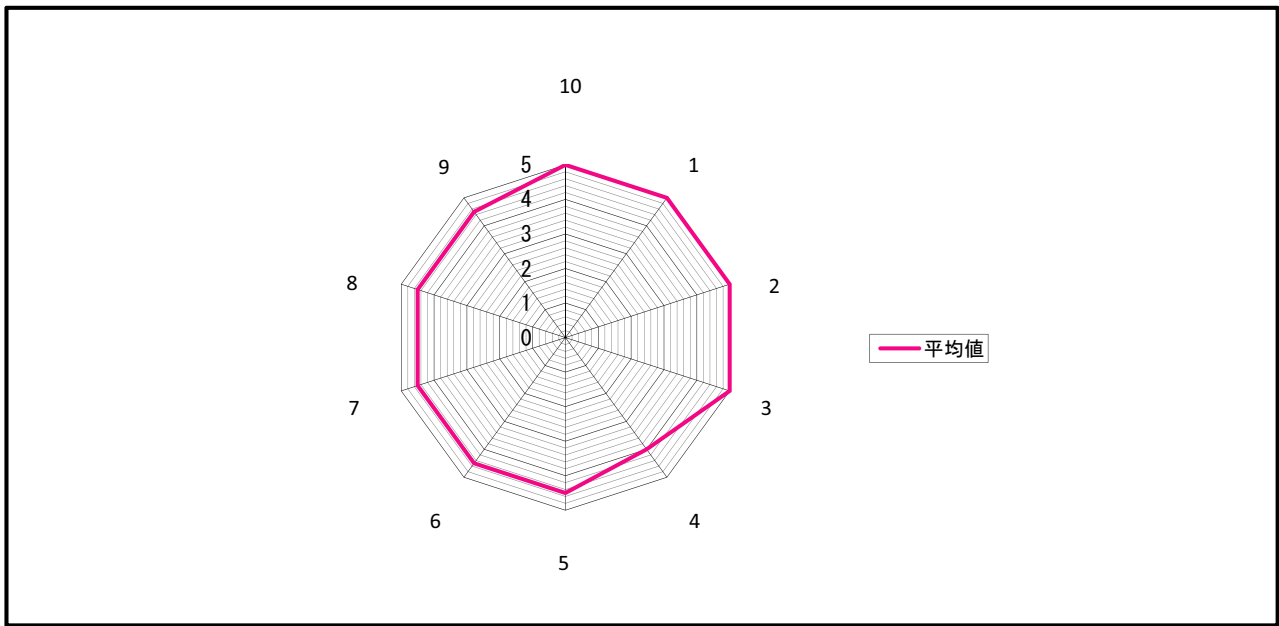
学生の総合評価は5.0であり、有意義な授業であったと考えられる。質問項目の「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」は3.5と低い数値になっている。これは受講生が2名であり、板書等をせずに授業を行ったことと、演習中心の授業であったので視聴覚機器を使用しなかったためと考えられる。

アンケートの自由記述欄には、「今後の授業で実際に使える教材ができて良かった」、「主体的に取り組むことができた」、「学校教育現場を想定した実践的内容だった」と書かれており、教員としての実践力の育成につながる授業を行うことができた。今後も少人数での授業となることが予想されるが、その特性を生かして実践力の育成を図りたい。

# 結果報告書

授業科目名 家庭科授業・教材開発研究  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 前田 英雄, 福井 典代, 渡邊 廣二      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

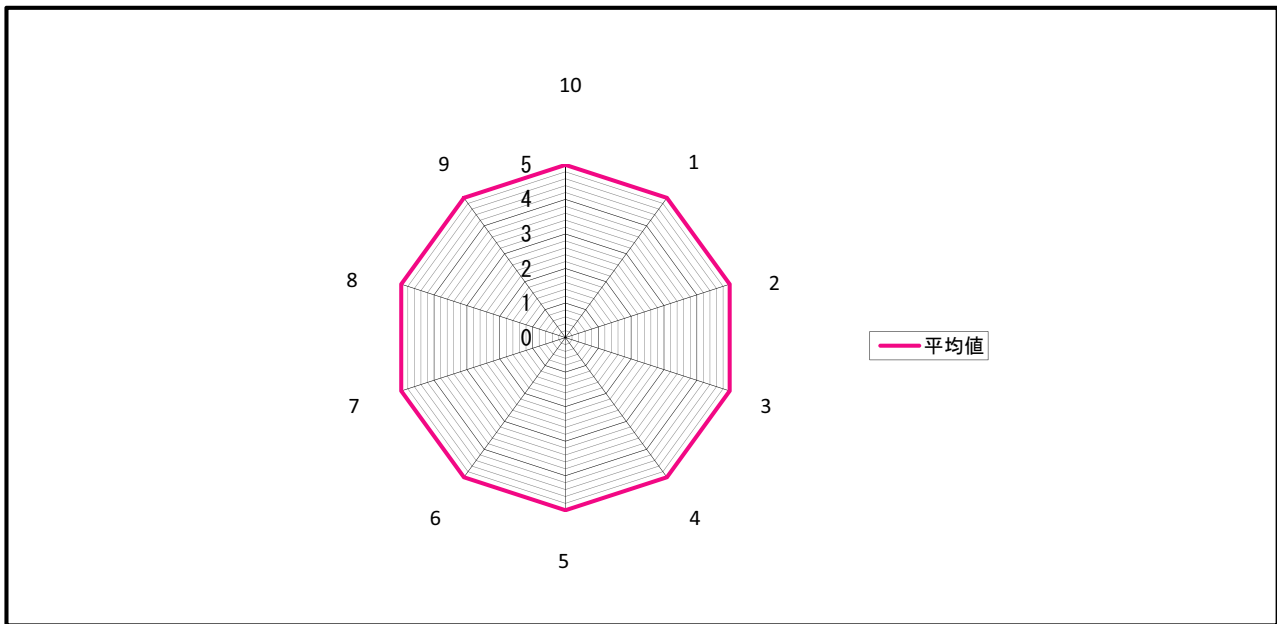
家庭科は家庭生活を中心とした生活全般を学習内容とするため、幅広い領域の知識を習得する必要がある。そのため、3名の教員で食生活、衣生活、生活経営の3つの領域について授業を実施した。この授業でよかった点として、「実習が多い。」、「実習がたくさんできた。」という意見が寄せられた。これはシラバスにも明記されていることであり、実験・実習を通して学習内容を理解し、教材として活用できるように工夫した。改善すべき点として、「内容が幅広かった。」という意見があった。この点については、家庭科の特徴を示しているため内容の変更はできない。今後も3名の教員で連携を図りながら同様の授業内容で実施する。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育協力特論Ⅱ (IT教育)  
 評価実施日 平成23年2月21日  
 担当教員名 小澤 大成, 石村 雅雄

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

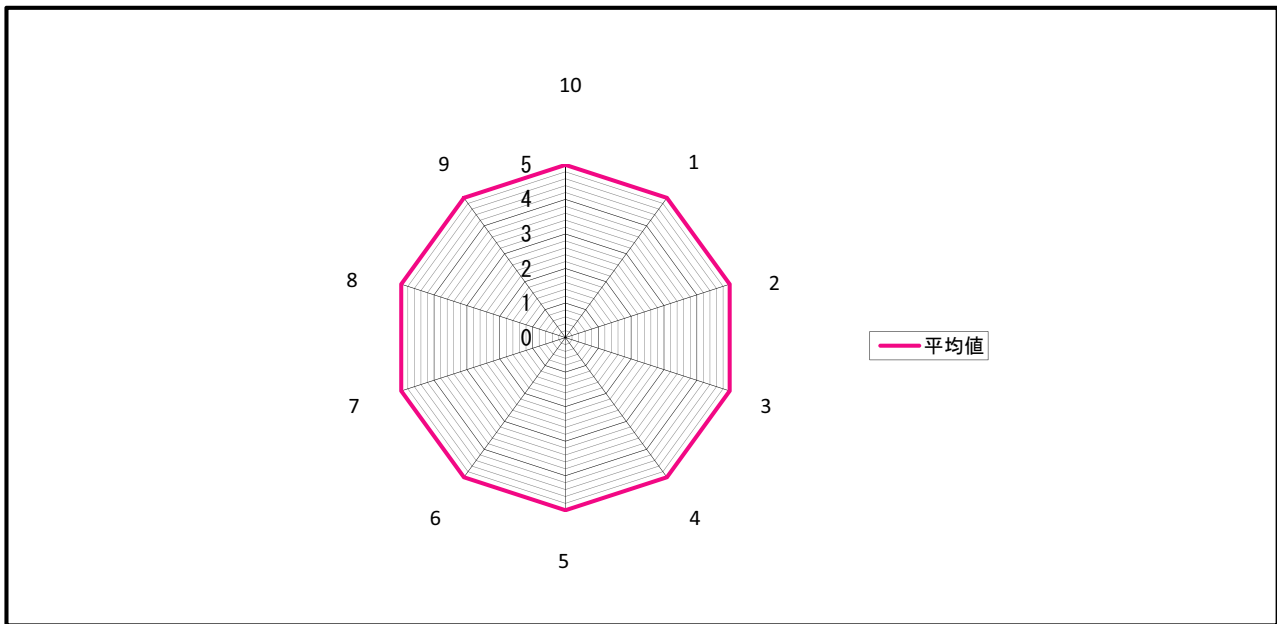
全体的な評価は5点と高かった。学生のコメントから良かったと指摘された点を以下に示す。「途上国で教員をしている自分の専門と一致していた」「学生が十分に授業参加できた」「途上国の実情とつながっていた」「自分の国の状況を他国と比較して振り返ることができた」と評価している。今後も充実した授業を実施していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育IT活用演習  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 小澤 大成

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



## 教員のコメント

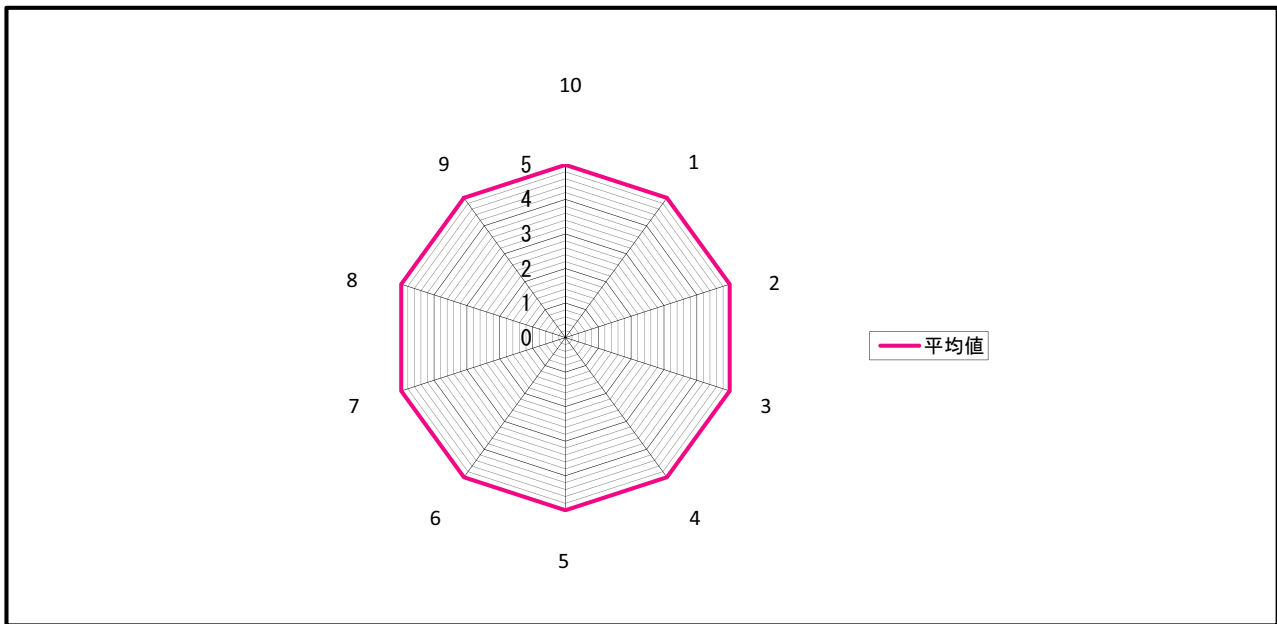
全体的な評価は全員が5点でありとても高かった。学生のコメントから良かった点として「ITに関する知識を得、また相互に各国の事情を意見交換することができた」「それぞれの学生に発表機会が与えられた」「教員がファシリテーター、学生が学習者だった」が挙げられていた。今後も参加型の授業を実施していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育教材開発演習 I  
 評価実施日 平成23年2月18日  
 担当教員名 小澤 大成, 服部 勝憲

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

全体的な評価は5点と高い評価であった。学生のコメントで良かった点として指摘されているのは「教材の開発を行ったこと」「算数教材の作成法」であった。今後も充実した授業を展開していきたい。